

- ▷ 【No.20】 井戸明府之碑 (久手町)
- ▽ 【No.71】 正明井戸君碑 (温泉津町)



第19代大森代官 井戸平左衛門正明公 大田市内の頌徳碑 総覧

令和3年3月 島根県 大田市文化協会



- △ 【No.03】 井戸正明公碑 (大田町)
- ◁ 【No.95】 井明府報徳碑 (仁摩町)

目 次

「大田市内の頌徳碑 総覧」発刊に当たって	1
第19代大森代官 井戸平左衛門の偉業と500基を超える頌徳碑	2
大田市内の井戸公碑一覧表	4
井戸公碑の市町村別の分布と建立年代	6
大田市の町別の井戸公碑の数	6
建立年代の分布	7
石碑の高さの分布	7
石碑の型（墓石型・自然石型）による分布	7
碑銘の類型（井戸系・泰雲院系・その他）による分布	7
大田町の井戸公碑 3基	8
川合町の井戸公碑 3基	11
三瓶町の井戸公碑 5基	14
富山町の井戸公碑 2基	19
朝山町の井戸公碑 2基	21
波根町の井戸公碑 1基	23
久手町の井戸公碑 6基	25
鳥井町の井戸公碑 2基	31
長久町の井戸公碑 1基	33
静間町の井戸公碑 6基	34
五十猛町の井戸公碑 7基	40
大屋町の井戸公碑 3基	47
久利町の井戸公碑 2基	50
大森町の井戸公碑 3基	52
水上町の井戸公碑 4基	55
祖式町の井戸公碑 7基	59
大代町の井戸公碑 9基	66
温泉津町（湯里）の井戸公碑 4基	76
温泉津町（温泉津）の井戸公碑 5基	80
温泉津町（福光）の井戸公碑 8基	87
温泉津町（井田）の井戸公碑 9基	95
仁摩町の井戸公碑 5基	104

「第19代大森代官 井戸平左衛門公／大田市内の頌徳碑 総覧」 発刊にあたって

この冊子は、大田市教育委員会の委託を受けて、大田市内の井戸平左衛門公の頌徳碑（以下「井戸公碑」）を大田市文化協会が調査し、まとめたものです。

井戸公碑は6ページのグラフにあるように、島根、鳥取、広島、岡山の中国地方4県に約500基が建てられています。このうち、大田市内には井戸神社（大森町）を含めて97基ありますが、これまで、一覧としてまとめられたものがなく、2012年（平成24）に大田ロータリークラブが「井戸平左衛門正明公頌徳碑大田市内分布マップ」として発行されたものが唯一のものでした。

このたび、冊子としてまとめるにあたっては、約500基の井戸公碑を調査された大田市川合町の故宮本豊さんの調査資料やロータリークラブの冊子を参考にしながら、大田市内のすべての頌徳碑を訪ね歩きました。その中で、宮本調査にあるもののうち、令和2年度時点では存在が確認できなかったもの、及び、ロータリークラブの冊子に掲載されているもののうち、恒松隆慶碑や松浦屋与兵衛碑などはこの冊子には掲載しないこととした結果、総数は97基となりました。

1基を1ページで紹介（長文の碑文があるものなどは2ページ）しており、町別に整理し、所在地、緯度経度、写真、寸法を記載。石碑に刻まれている文字を可能な限り判読し、最下部に国土地理院地図も添付しました。地図と緯度経度を掲載したのは、井戸公碑を訪ねる際の参考にさせていただきたいと考えたからです。また、1行目の表題部の（宮本No.）は宮本調査の番号、（ローター-No.）はロータリークラブのマップの番号を、参考のため記載しています。また刻字の判読では、1文字分が不明のものは「□」で、何文字あるかも不明なものは「……」と表記しています

わずか2年足らずの在任期間だったにもかかわらず数々の善政で領民を導き、領民が飢えで命を落とすことがないようにと、困難を押しして薩摩国からサツマイモを導入した井戸公に感謝を捧げるとともに、この冊子が今後、井戸公の研究をされる方の少しでも参考になれば望外の喜びです。さらに、井戸公碑そのものはもちろん、建立に関わられた多くの先輩方を大田市の貴重な文化遺産として後世に語り継ぐための資料となれば幸いです。

調査にあたっては、多くの皆様にご尽力、ご指導、ご協力をいただきました。おかげさまで市内すべての井戸公碑を調査することができました。厚くお礼申し上げます。

2021（令和3）年3月

大田市文化協会 会長 石賀 了
（調査同行者 同協会事務局長 縄 田 力）

第 19 代大森代官 井戸平左衛門の偉業と 500 基を超える頌徳碑

大田市文化協会会長 石 賀 了

■井戸平左衛門公の事蹟

江戸時代、享保の大飢饉に際し、薩摩藩からサツマイモを取り寄せて栽培を奨励して領民を飢饉から救い、今でも「いも代官」として慕われている、石見銀山領の第 19 代大森代官、井戸平左衛門正明（以下「井戸公」）は享保 16 年（1731）11 月に現大田市の大森に着任。2 年後の享保 18 年 5 月に併任地である岡山県の笠岡陣屋で亡くなっており、在任期間はわずかに 1 年半と短い、いまだに名代官として慕われ、数多くの頌徳碑が建てられている。

井戸公は寛文 12 年（1672）、御徒（おかち）、野中八右衛門重貞の子として武蔵に生まれ、21 歳の元禄 5 年（1692）に勘定の井戸平左衛門正和の養子となって小普請に迎えられた。その後、江戸城中の火災の警戒に当たる表火之番に進み、同 15 年（1702）に勘定方に抜擢された。以来、諸国河川の治水工事や幕府直轄領の巡検などを真面目に励み、享保 6 年（1721）、20 年の精勤に対して黄金 2 枚を拝領している。さらに、享保 10 年には諸地域での検見添役（米などの出来具合を検査する役）の功績に対しても黄金 2 枚が贈られており、井戸公の真面目さ、精勤ぶりが偲ばれる。その仕事ぶりを評価されたことが、60 歳という高齢での享保 16 年の代官就任につながったと思われる。

着任翌年の享保 17 年は大飢饉の年となる。この飢饉に際して、井戸公は精力的に自分の足で領内を歩き、実態をつぶさに調べ、被害が大きかった鳥井村、磯竹村（以上現大田市）、黒松村（現江津市）などでは年貢を免除し、真鍋島（現笠岡市）など被害の比較的小さい地域では被害に応じて減免するなど、思い切った救済策を講じた。

また、自らの財産や裕福な領民から募った資金で米を購入するとともに、幕府の許可を待たずに代官所の米蔵を開いて領民に与えたと伝えられている。

極めつけは、まるで大飢饉が来ることを予見していたように、同年の春から夏にかけて、薩摩からサツマイモを取り寄せて栽培を奨励したことだ。このころすでに、普及はしていなかったが江戸にはサツマイモが伝わっていたという記録もあり、井戸公は長年検見添役として諸国を巡見する中で、サツマイモの情報を持っていたと思われる。その上、代官着任 2 年前の享保 14 年（1729）に検見添役として石見を訪れていて、米の実りが少ないことも自分の目で見ており、代官就任に当たって、「石見を救うのはサツマイモしかない」と考えていたと思われる。

サツマイモは年貢の対象にはなっていなかったが、いや、年貢の対象でないからこそ、サツマイモを植え広め、領民が米の代わりに腹一杯に食べてくれれば、きっと元気を出してくれるに違いないと確信したのだと思われる。忠義を何より重んじる井戸公にとって、「忠」とはお上によく仕えるというだけでなく、自分自身に対しても誠実であるということであり、サツマイモ導入には「自分が代官になったからには領民の一人の命も見捨てない」という強い意志が感じられる。

残念ながら、サツマイモ導入の最初の年はほとんどが失敗に終わったが、唯一、福光村の松浦屋与兵衛が栽培に成功し、「いも釜」という保存法を考え出したため、石見では翌享保 18 年から



井戸公肖像画（井戸神社蔵）

栽培が広まることになる。しかし、井戸公はおそらくそのサツマイモを味わうことなく、その年の4月に併任地の笠岡に赴いて病に倒れ、5月26日に帰らぬ人となった。享年62歳。葬儀は笠岡の威徳寺で営まれ、「泰雲院義岳良忠居士」の名が贈られた。

■頌徳碑は中国地方4県に500基以上も

井戸公の死から74年後の文化4年(1807)、那賀郡大田村(現在の江津市松川町)の江川沿いに、建立年がわかるものとしては最も早く、井戸公の頌徳碑が建てられた。その後、頌徳碑建立は銀山領全体に広がり、浜田藩、松江藩、鳥取県、そして広島県、岡山県へと広がっていく。その総数は大田市川合町の故宮本豊氏の調査によると500基以上にものぼる。一人の人間に対する頌徳碑がこれほど多いのはおそらくほかには例がないと思われる。

頌徳碑を建てたのはどんな人たちかを見てみると、それはそれぞれの石碑に刻まれており、ほとんどのものが、村々の人々がお金を出し合い、力を合わせて建てており、台石には「村中のみんなで」という意味の「當村中」とか、「村中みんなが等しく力を合わせて」という意味の「村中合等」などの文字が力強く彫られている。

米が十分にできなかつた地域の人々が決して豊かだったとは思えないが、それでも「サツマイモを取り寄せて私たちを助けてくれ、そのおかげで飢え死にすることなく親から子へ、子から孫へと命がつながった。その殿様に感謝を捧げたい」という人々の思いが、それぞれの石碑に込められている。当時藩外に持ち出すのが難しかったサツマイモを薩摩から入手した井戸公もすごい、その恩に報いようと頌徳碑を建てた後世の人々もまたすごい。その人々は井戸公への感謝の気持ちを表すとともに、サツマイモを通じて食物に感謝し、そして命の尊さを見つめていた人たちだったのだ。

■今も続くまつりや法事。石碑再建の動きも

500基の頌徳碑の中には、長年の風雪で傷んでいるものも多く、彫られた文字が読めなくなるもの、石碑自体がやせ細って崩壊するものもある。そんな井戸公碑を再建する動きも見られる。江津市清見町、和木町、嘉久志町、出雲市湖陵町差海などで見事に再建され、2018年4月の島根県西部地震で倒れた、大田市波根町の波根八幡宮にある井戸公碑も場所を変えて再建された。

頌徳碑にまつわる法事やまつりは、今でも大田市内の数か所で続けられているほか、各地で行われている。県外でも、米子市の迎接院(こうしょういん)、広島県の生口島の正善寺などでにぎやかに続けられている。

現代の日本では、コメのかわりにサツマイモを食べることはなくなったが、それでも、井戸公の数々の事蹟はいまだに語り継がれ、その恩に報いようと建てられた500基以上の頌徳碑は、今でも各地で大切に守られている。

【参考文献】「石見銀山〜いも代官井戸平左衛門の事蹟」(平成13年大田市外2町広域行政組合企画担当)／「いも神さま 井戸平左衛門 石見銀山代官」(石村勝郎著)(平成6年石見銀山資料館)／「日本民衆史7 甘藷の歴史」(宮本常一著)(昭和37年未来社)／「野國總管甘藷伝来400年祭記念誌『野國總管』」(平成17年沖繩県嘉手納町)／「代官井戸平左衛門の事蹟と顕彰」(藤原雄高著)(平成29年島根県教育庁発行「石見銀山の社会と経済」に収録)ほか

大田市の井戸公碑一覧表

町	No.	碑 銘	所 在 地	建立年 (西暦/和暦)	建立者
大田	1	井戸明府之碑	大田町加土 法蔵寺	1928/昭和 3年	加土区民一同
	2	井戸正朋碑	大田町宮島 大願寺	1896/明治28年	世話人中
	3	井戸正朋公碑	大田町蛭子 明善寺	1955/昭和30年	世話人
川合	4	井明府追念	川合町鶴府 湯川氏横	不明	不明
	5	井戸明府紀念碑	川合町南 浄教寺	1887/明治20年	川合村
	6	泰雲院殿義岳良忠居士	川合町吉永下 建功寺無縁墓地	1889/明治22年	不明
三瓶	7	なし	三瓶町池田野畑	不明	不明
	8	井明府追念	三瓶町小屋原 徳善寺前	1889/明治22年	世話人
	9	井戸正明公碑	三瓶町志学東上山 専勝寺	1931/昭和 6年	青年団上山支部
	10	泰雲院殿義岳良忠居士	三瓶町多根 宝陀寺	不明	多根中
	11	井戸明府碑	三瓶町野城 円城寺下	1885/明治18年	不明
富山	12	芋代官頌徳碑	富山町高原 松林寺	1973/昭和48年	松林寺
	13	泰雲院殿義岳良忠大居士	富山町本郷	1847/弘化 4年	村中
朝山	14	泰雲院義岳良忠居士	朝山町朝倉 朝倉神社	不明	當村中合等
	15	井明府恩澤碑	朝山町仙山 元花雪温泉横	1857/安政 4年	村中合等
波根	16	泰雲院殿義岳良忠大居士	波根町上町 波根八幡宮	1820/文政 3年	不明
久手	17	井戸明府	久手町宮の前 荇田神社	2002/平成14年	不明
	18	泰雲院殿義岳良忠居士	久手町寺前 観音寺	不明	久手・柳瀬・大津
	19	井戸明府霊	久手町柳瀬	不明	不明
	20	井戸明府之碑	久手町西川 県道三差路	1906/明治39年	七老人
	21	井戸公追善(歌碑)	久手町西川 県道三差路	1915/大正 4年	岩谷
	22	泰雲院殿義岳良忠大居士	久手町刺鹿 円光寺	不明	不明
鳥井	23	井戸恩澤碑	鳥井町新田 旧道沿い	不明	村中合等
	24	井戸明府厚澤碑	鳥井町八幡 まちづくりセンター前	1839/天保10年	鳥井村中
長久	25	井戸仁澤碑	長久町川南	1892/明治25年	川南中
静間	26	泰雲院表徳碑	静間町棚 JR静間駅前	不明	不明
	27	泰雲院殿義嶽良忠大居士	静間町仮屋 円通寺	1890/明治23年	當組中
	28	泰雲院殿義岳良忠大居士	静間町平 静間小学校入口	1943/昭和18年	楠屋
	29	泰雲院殿義岳良忠大居士	静間町魚津 市道沿い	不明	魚津浦中
	30	泰雲院義岳良忠居士	静間町新田	不明	新田中
	31	泰雲院殿義岳良忠大居士	静間町和江 大年神社北隣	1841/天保12年	和江浦中
五十猛	32	泰雲院殿義岳良忠居士塔	五十猛町湊 共同墓地	不明	不明
	33	泰雲院殿義岳良忠居士	五十猛町地頭所	不明	不明
	34	……良忠居……	五十猛町嘉庭	1847/弘化 4年	世話人
	35	泰雲院殿義岳良忠居士	五十猛町野梅 林氏宅裏山	不明	野梅・畑井
	36	井明府君碑	五十猛町丹波	不明	不明
	37	井戸公之碑	五十猛町赤井	1928/昭和 3年	赤井區中
	38	泰運院殿義岳良忠大居士	五十猛町大浦 浄圓寺	不明	大浦湊中
大屋	39	井戸明府之碑	大屋町尾波	1924/大正13年	不明
	40	欣澤碑	大屋町鬼村	1926/大正15年	不明
	41	泰……忠居士	大屋町菰口	不明	不明
久利	42	井戸公之碑	久利町市原 流水氏宅	不明	不明
	43	井戸公之碑	久利町赤波	1918/大正 7年	世話人
大森	44	井戸神社	大森町昭和	1916/大正 5年	井戸神興復会
	45	井戸公顕彰碑	大森町昭和 井戸神社	1982/昭和57年	わかさの会
	46	泰雲院殿義岳良忠居士	大森町上佐摩上 尾川氏宅上	1856/安政 3年	上組中
水上	47	泰雲院殿義……土位	水上町白坏高津上 肥田氏宅裏	不明	當村中
	48	泰雲院殿義岳良□□居士	水上町三久須 森山商店横	1854/嘉永 7年	三久須中
	49	井明府之碑	水上町福原下 元中島商店横	1858/安政 5年	當村中
	50	泰雲院義岳良忠居士	水上町荻原 元本宗寺跡	1958/昭和33年	荻原村中
祖式	51	井戸正朋公碑	祖式町下町 円福寺	1933/昭和 8年	不明
	52	泰雲院殿義岳良忠居士	祖式町瀬戸 バス停前	1854/嘉永 7年	瀬戸本江惣連中
	53	泰雲院殿義岳良忠居士	祖式町山中	1857/安政 4年	祖式村上組中
	54	井明府……碑	祖式町南山	不明	南山中
	55	井明府□碑	祖式町横谷	1911/明治44年	横谷中
	56	泰雲院殿義岳良忠居士	祖式町猪ノ目	1854/嘉永 7年	井之目谷内
	57	泰雲院殿義岳良忠居士	祖式町大原	1854/嘉永 7年	當組中

大田市の井戸公碑一覧表

町	No.	碑 銘	場 所	建立年 (西暦/和暦)	建立者
大代 9	58	泰雲院殿義岳良忠居士	大代町新屋本郷 大葉氏宅横	不明	新屋本郷
	59	泰雲院殿……	大代町新屋山田 バス停前	1844/天保15年	知 雲
	60	井戸明君碑	大代町新屋飯谷 浄願寺	不明	新屋村飯谷組中
	61	泰……	大代町新屋右原	1893/明治26年	右 原 組
	62	井戸君報徳碑	大代町大家植松 正法寺	1856/安政 3年	當 町 中
	63	泰雲院殿義岳良忠大居士	大代町大家四日市 西臨寺先	不明	當 組 中
	64	……殿義岳良……	大代町大家八反田	不明	八反田組
	65	泰雲院殿義岳良忠……	大代町大家柿田	不明	柿 田 組
	66	泰雲院殿義岳良忠大居士	大代町大家川上	不明	川上連中
湯里 4	67	泰雲院殿義岳良忠居士	温泉津町湯里 専念寺	1840/天保11年	本郷・温泉郷・下組・湯湊
	68	泰雲院殿義岳良忠居士	温泉津町湯里中村	1828/文政11年	温泉本郷上組
	69	泰雲院殿義岳良忠居士	温泉津町湯里野田	不明	野田組中
	70	井明府之碑	温泉津町湯里西田 水上神社	1855/安政 2年	不明
温泉津 5	71	正朋井戸君碑	温泉津町小浜 厳島神社	1911/明治44年	小 濱 中
	72	井戸平左衛門君之碑	温泉津町日祖 大元神社	1914/大正 3年	日 祖 中
	73	正明井戸君碑	温泉津町温泉上町	1883/明治16年	不明
	74	泰雲院殿義岳良忠大居士	温泉津町上村	1854/嘉永 7年	當上村中
	75	泰雲院殿義岳良忠大居士	温泉津町飯原	1996/平成 8年	飯原地区中
福光 8	76	井戸公之碑	温泉津町福光 浄光寺	1984/昭和59年	地区内有志
	77	井明府之……	温泉津町福光林 西田氏宅裏	不明	不明
	78	泰雲院殿義岳良忠居士	温泉津町福光白谷 市道三差路	1868/慶応 4年	上 組 中
	79	井戸神社	温泉津町福光 福光八幡宮	不明	不明
	80	井戸公頌徳碑	温泉津町福光湊西	1951/昭和26年	不明
	81	井戸殿墓口	温泉津町福光釜野	不明	不明
	82	井戸公頌徳碑	温泉津町今浦	1970/昭和45年	今浦浦会
井田 9	83	泰雲院殿義岳良忠居士	温泉津町吉浦	不明	不明
	84	井戸公之碑	温泉津町井田元井田	1926/大正15年	不明
	85	泰雲院殿義岳良忠居士	温泉津町井田津湊 県道沿い	不明	當 邑 中
	86	寿真碑	温泉津町井田井尻 高野寺下	不明	當 村 中
	87	井戸正明碑	温泉津町井田殿村 市道沿い	不明	元殿村中
	88	嘉恵碑	温泉津町井田福田 願林寺向い	不明	當 村 中
	89	井明府之碑	温泉津町井田横道	1855/安政 2年	當 村 中
	90	井戸神社	温泉津町井田太田 太田八幡宮	1907/明治40年	太田八幡宮
仁摩 5	91	泰雲院殿義岳良忠大居士	温泉津町井田太田 市道沿い	1930/昭和 5年	太 田 區
	92	泰雲院殿義岳良忠居士	温泉津町井田菰口 荻村集会所前	不明	荻 邑
	93	井戸正明……	仁摩町天神 小学校下	1897/明治30年	不明
	94	泰雲院殿義岳良忠居士欽徳碑	仁摩町天河内	不明	不明
	95	井明府報徳碑	仁摩町宅野 波啼寺上	1864/元治元年	不明
	96	井戸平左衛門府君遺澤之碑	仁摩町大国 石見城下	1989/平成元年	大国町文化推進協
	97	永欽遺澤	仁摩町馬路 乙見神社	1883/明治16年	馬 路 村

井戸公碑の市町村別の分布と建立年代 (確認済みのもの)

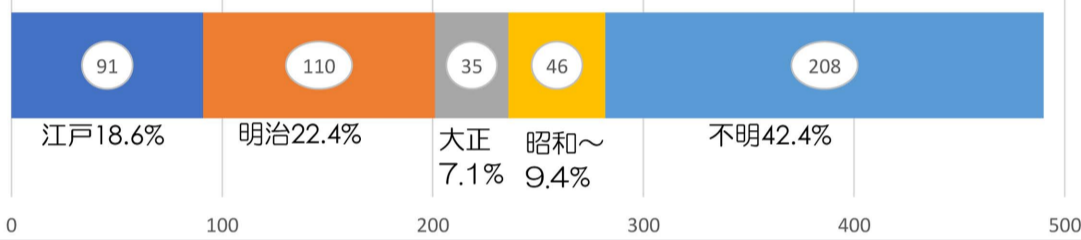
地方	市町	江戸	明治	大正	昭和～	不明	合計
石見	大田市	22	15	7	16	37	97
	江津市	22	26	1	2	29	80
	浜田市	13	32	7	16	70	138
	益田市		3	3	1	8	15
	美郷町	9	6	6	2	2	25
	川本町	4	12	2	2	11	31
	邑南町		10	8	1	8	27
	津和野町	1					1
出雲	出雲市	1	1		1	4	7
	松江市	12				23	35
	飯南町					1	1
隠岐	海士町		1			1	2
	西ノ島町		2	1	2	4	9
	知夫村					5	5
鳥取	米子市	2	2				4
	境港市	3				4	7
	鳥取市	1					1
広島県	生口島	1					1
岡山県	笠岡市				3	1	4
合計		91	110	35	46	208	490

(旧浜田市57、弥栄村24、金城町21、三隅町19、旭町17)



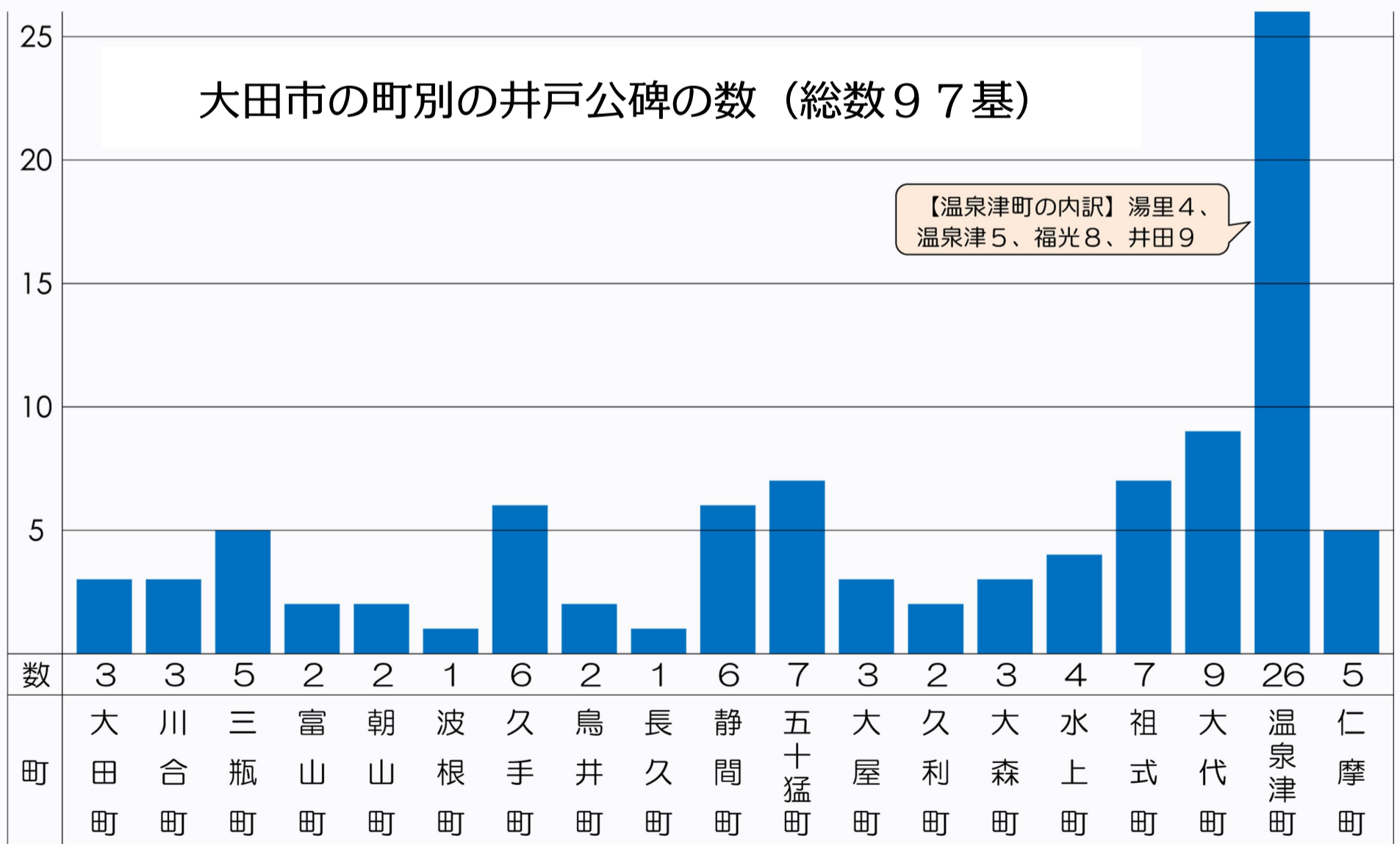
建立年がわかっているもののうち最古の碑は井戸公没後74年、文化4年（1807）に現江津市松川町太田に建てられた「泰雲院殿義岳良忠居士塔」（江津市指定文化財）

建立年代の分布

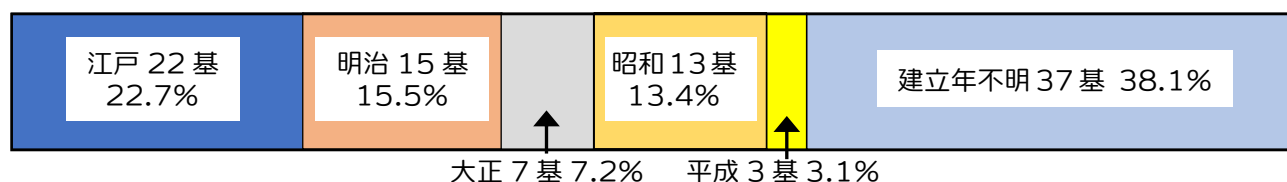


総数を490基としていますが、令和2年度に大田市文化協会が石見銀山基金の助成を受けて、井戸公碑の照会事業を行っており、この調査によって上記の490基以外の碑が約30基、報告されています。協会では令和3年度以降に現地調査を行うこととしており、その結果で総数は500基以上となると思われます。

大田市の町別の井戸公碑の数 (総数97基)



建立年代の分布



建立年代の構成比は上記のとおりとなる。県外の碑も含んだ全体の構成比と比べると、江戸時代の建立が若干多くなっている。このうち、最古の碑は波根町の碑で文政3年（1820）、井戸公没後85年になる。次いで温泉津町湯里中村が文政11年（1828）で、以下鳥井町鳥井天保10年（1839）、温泉津町湯里専念寺の天保11年（1840）、静間町和江の天保12年（1841）と続く。これらは天保4年（1833）から同7年まで続いた天保の飢饉の影響があるのだろうか。特徴的なのは幕末の安政元年（1854）からの5年間に12基が建立されていることで、その中には祖式町の4基も含まれる。

大正期以降は再建された碑が目立ち、大正では4基、昭和で7基が再建されている。昭和以降で新規に建立された碑のうち、最も新しいものは大森町井戸神社境内の碑で昭和57年（1982）の建立。平成期の3基はいずれも再建または修復されたもの。

石碑の高さの分布

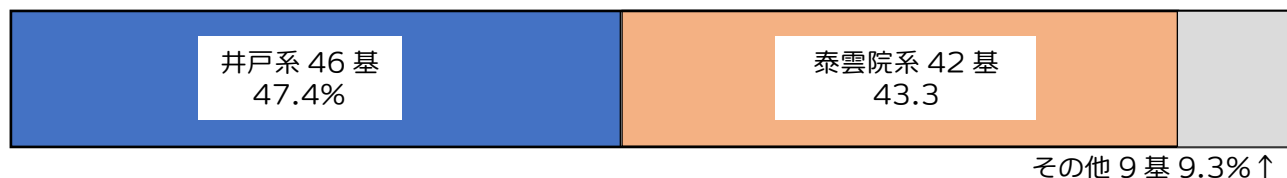
石碑の高さは、碑石だけの高さでは最も高いものが温泉津町福波湊西の碑で254㌢、最も低いものは祖式町横谷で66㌢、平均は126㌢となる。

全体の高さでは最も高いものが温泉津町温泉津巖島神社で422㌢、最も低いものは久利町市原で90㌢（この碑には台石がない）、平均は214㌢となる。

石碑の型による分布

頌徳碑には石を四角柱に加工した墓石型と、自然石をそのまま（または碑文面のみを加工したもの）使った自然石型がある。97基のうち、井戸神社のような建物、久手町苧田神社の祠型などを除く92基を比較すると、墓石型が47基（51.09%）、自然石型が45基（48.9%）と墓石型がやや多くみられる。

碑銘の類型による分布



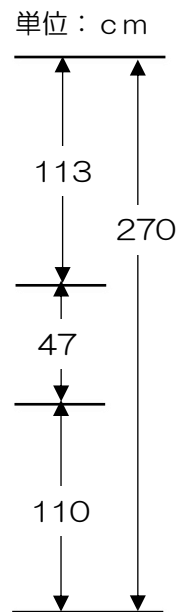
碑銘には姓名の一部を彫った「井戸系」、法名の泰雲院義岳良忠居士からとった「泰雲院系」、それ以外の「寿真碑」「欣澤碑」の3種類があり、その分布をみると、大田市内では井戸系がやや多く46基（47.42%）、泰雲院系が42基（43.30%）となっている。碑文の読めないものはその他に分類した。

「井戸系」が多いのは大田市の特徴で、他市の例を見ると、浜田市、江津市では「泰雲院系」が「井戸系」のほぼ倍の数あり、松江市では35基中33基、ほぼ100%で「泰雲院系」であることと比較すると、大田市では没後の「泰雲院」という名よりも生前の「井戸平左衛門」という名前の方により親しみを持っていたといえるだろう。

「泰雲院系」の中には、「泰雲院」の後に「殿」、「居士」の前に「大」を加えたものも多い。

【01】大田市大田町加土 法蔵寺（宮本 大07/0-列-22） 井戸明府之碑

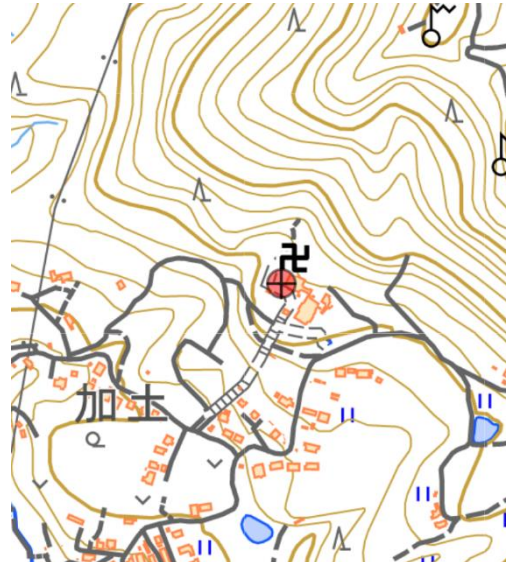
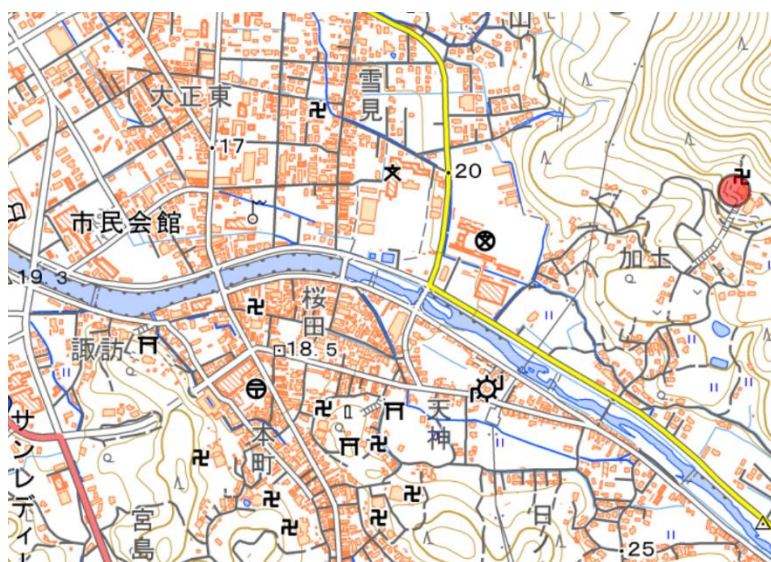
所在地 大田市大田町加土 法蔵寺本堂左
 北緯35° 11' 40.06" / 東経132° 30' 53.14"



碑石最大幅 42 / 奥行最大 33
 台石1段目最大幅 86 / 奥行最大 65
 台石2段目（石組）幅最大 140 / 奥行最大 135

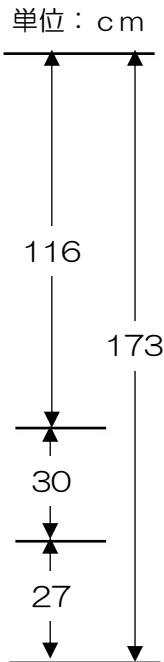
【建立年】昭和3年（1928）
 【建立者】加土区民一同
 「碑石前面」井戸明府之碑 / 右に「日城謹書」左に「加土区民一同」
 「碑石右面」昭和三年十月十五日
 「碑石左面」日城代 / 西本豊蔵 / 有藤東蔵 / 山本平吉 / 松本勘造 / □□□□□
 「碑石裏面」□□ / 七十一老 / 世はかわり / □□□れ中の□□り / は□□□ / きみのみ□□□ / □□□しかわらじ
 「台石」ほかには文字なし

〔調査の経過〕
 碑石の文字は表面が粗くやせていることもあって「井戸明府之碑」以外の文字は読めなくなっている。表記は「大田碑石散歩」（三谷晃 / 昭和52年）を転記した。碑石はすらりとした形でその下に球形の台石を置き、最下段は小さい石を何十個も組み合わせて110cmもの高さに積み上げてある。登山道にあるケルンを想起させる。碑石の前に踏み石を置き、周囲は円形に石で囲んである。不安定に見えるが、2018年の島根県西部地震でも全く被害がなかった。
 （調査日2020年11月26日）



【02】大田市大田町宮島 大願寺（宮本 大 05/㊦-㊦-20） 井戸正朋碑

所在地 大田市大田町宮島 大願寺山門前
 北緯 35° 11' 22.65" / 東経 132° 30' 19.35"



碑石最大幅 83 / 奥行き最大 53
 台石1段目最大幅 120 / 奥行最大 95
 台石2段目幅 153 / 奥行 136

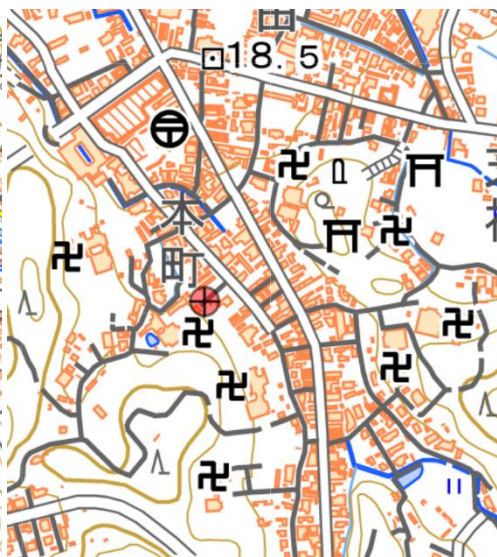
〔調査の経過〕
 大田町の本通りの1本西側の道路沿いに4つの寺院が並んでいるが、その北から2番目が大願寺。その南側の明善寺にも井戸公碑があり、約130㊦の間に2基の井戸公碑があることになる。

〔碑石前面〕井戸正朋碑
 〔碑石裏面〕(右下)小谷梅吉 / 外世話人中(中央)享保十八丑年五月二十六日 / 當山十四世嚴誉代 / 明治廿八年十一月
 〔台石〕ほかには文字なし

〔建立年〕明治28年(1896)
 〔建立者〕世話人中

碑は大願寺に上がる石段の最上部の右手に、参拝者を出迎えるように建っている。きれいな卵型の自然石。前の植木が大きくなってきたので真正面からは見えないが、碑石の表面も裏面もはつきりと読める。「正朋」と彫った碑はどちらかというとな少ないが、ここでは「正朋」としている。明治28年ごろは正朋が主流だったのだろうか。

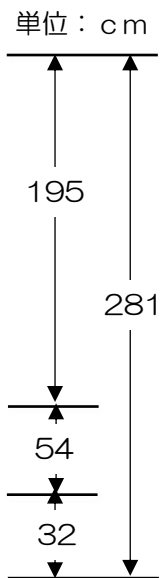
(調査日 2020年11月26日)



【03】大田市大田町蛭子 明善寺（宮本 大 06/㊦-㊦-21） 井戸正朋公碑

所在地 大田市大田町蛭子 明善寺車参道右手

北緯 35° 11' 20.71" / 東経 132° 30' 22.11" (国土地理院)



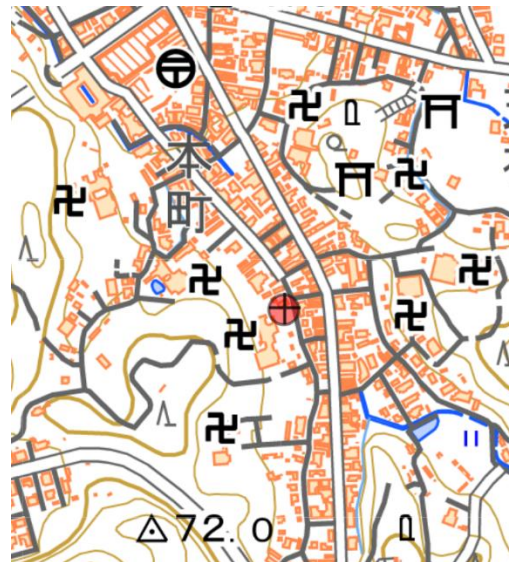
碑石最大幅 105 / 奥行き最大 47
 台石1段目最大幅 146 / 奥行最大 99
 台石2段目幅 297 / 奥行 150

〔調査の経過〕
 大願寺から約130以南にある明善寺。正面の石段の右側に、車で本堂の前まで上がる道が整備され、そのカーブの部分の庭のように整備して、真ん中に井戸公碑、右に山茶花を植え、左に石燈籠が置いてある。宮本調査では石段を上がった左手の経堂の横にあつたと記されている。

この碑は、門信徒の皆さんが、「昔は芋法事があつたが、戦後は営む寺も少なくなつた。せめて石碑でも建てよう」と提案されて実現したと聞いている。建設に当たって、隣の大願寺の碑を参考にしながらも、より立派なものをと奮発されたのか、巨石といつてもいいほどの大きな碑石だ。写真の最下段の石組は庭園全体の縁石なので碑の寸法には入れなかつた。

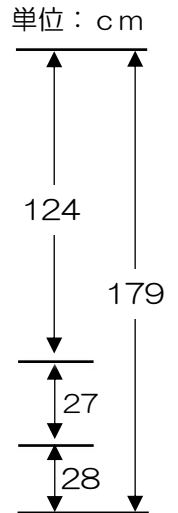
(調査日2020年11月26日)

〔建立年〕昭和30年(1955)
 〔建立者〕世話人
 〔碑石前面〕井戸正朋公碑 / 勸学源哲勝書[㊦]
 〔碑石裏面〕昭和卅年五月世話人建之 / 竹葉昇平 / 岩倉富造 / 熊谷誠之助 / 深田勘助
 〔台石〕ほかには文字なし



【04】大田市川合町鶴府 湯川氏宅横（宮本 大04/0-列-13） **井明府追念**

所在地 大田市川合町鶴府 湯川加津子氏宅南側の丘の上 地藏堂の隣
 北緯35° 07' 31.92" / 東経132° 32' 30.10"



碑石幅最上部 38、最大 80 / 奥行き最大 28
 台石 1 段目幅 130 / 奥行 85
 台石 2 段目幅 150 / 奥行 139（組み石）

【建立年】不明
 【建立者】不明

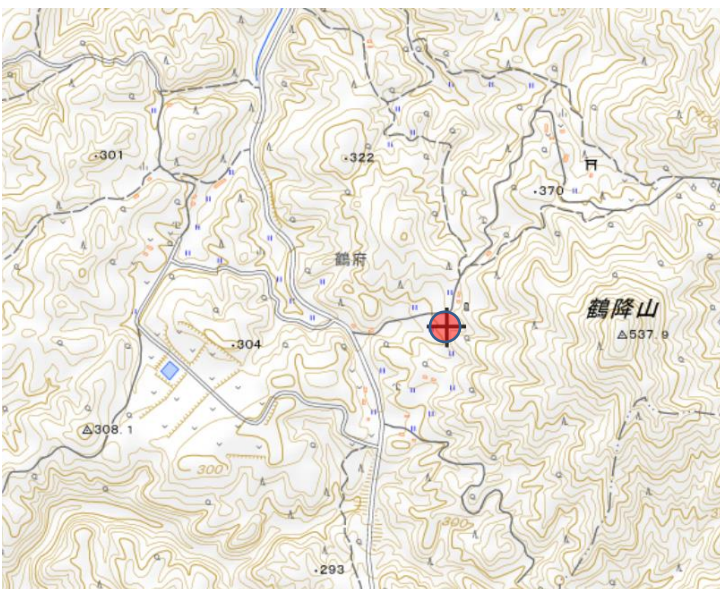
〔碑石前面〕井明府追念
 〔碑石左右・裏面・台石〕文字なし

〔調査の経過〕
 そう堅そうにない自然石だが、環境がいいのか、剥落などはない。

鶴府は大邑農道によって2分されておられ、この碑は農道の東側の湯川加津子氏宅の南側の丘の上にある。田んぼの横に細い歩道が草刈りされており、その奥のちよつとした広場に地藏とともに建てられている。昔は人が行き来した道と思われる、広場の手前の左手には石垣が残っている。以前民家があったのかもしれない。広場から奥は少し行くと行き止まりになっている。ようなので、今では井戸公碑と地藏にお参りする目的だけのために手入れがされているのだろう。碑の前には線香立てと花立てがあった。

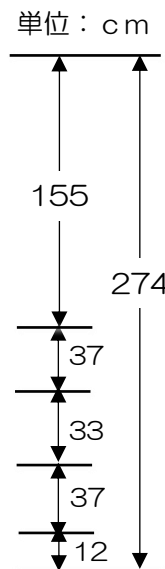
ほかに文字はないが、「井明府追念」というほかにはあまりない大きな碑名の文字に、地域の皆さんの思いが込められているように見える。

（調査日2020年4月17日）



【05】大田市川合町南 浄教寺（宮本 大02/04-11） 井戸明府記念碑

所在地 大田市川合町南 浄教寺境内（物部神社近く、川合保育園前）
 北緯35° 09' 11.53" / 東経132° 30' 46.62"



碑石幅 61 / 奥行き最大 33
 台石1段目（猫足）幅 95 / 奥行 64
 台石2段目幅 125 / 奥行 95
 台石3段目幅 158 / 奥行 127
 台石4段目幅 181 / 奥行 150

〔調査の経過〕
 碑石の幅が61^{cm}、高さ155^{cm}もある立派な碑だ。「紀」の文字を使った「記念碑」も珍しい。福光石だが傷みは少なくきれいに残っている。台石の文字も読みやすい。一時期倒れそうになっていたらしいが、約10年前に町内の原田安吉さんが私費で修繕されたところ住職の話。そのときに猫足も割れていたのかもしれない。現在は碑石の中心にあたる部分を下から石で支えるように修繕してある。

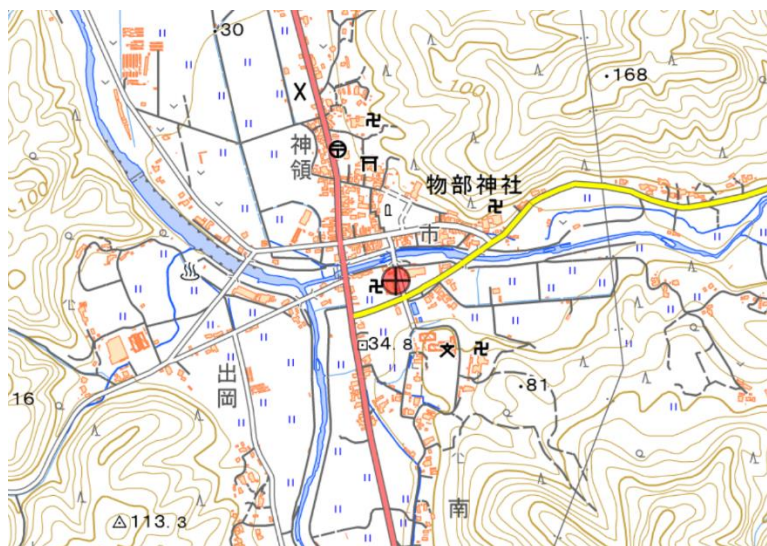
〔建立年〕明治20年（1887）
 〔建立者〕川合村

〔碑石前面〕井戸明府記念碑
 〔碑石右面〕明治二十年十一月建之

〔一段目台石前面〕川合村
 〔二段目台石前面〕世話人／岩谷勝吉／原田吉十郎／三浦幾太郎／祭田柳七

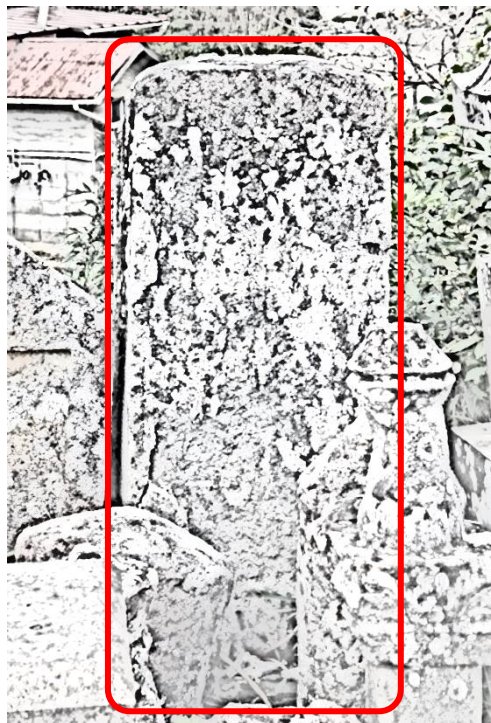
〔三段目台石前面〕岩崎盛郎／三ツ田政七／岡本啓市／松本只八／那須喜八／坂本惣十／松井文四郎／右田儀七／森脇善助／松本亀市／松本彌市／藤本米作

（調査日2020年11月25日）



所在地 大田市川合町吉永下 建功寺 無縁墓地

北緯35° 10' 22.49" / 東経132° 30' 34.00"



単位: cm

99

碑石幅40/奥行き最大22

【建立年】明治22年(1889)
【建立者】不明

【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士(宮本調査)

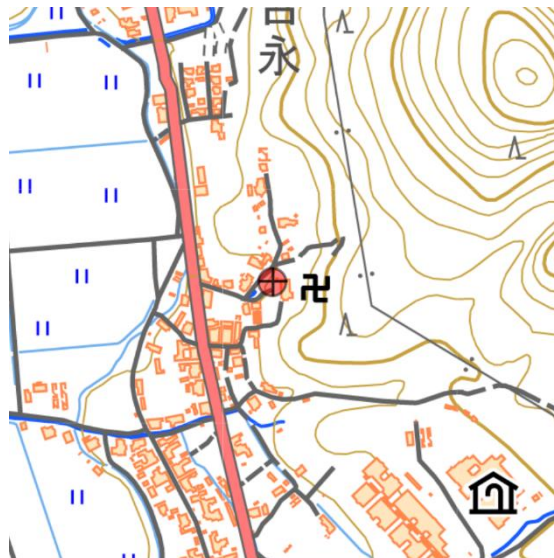
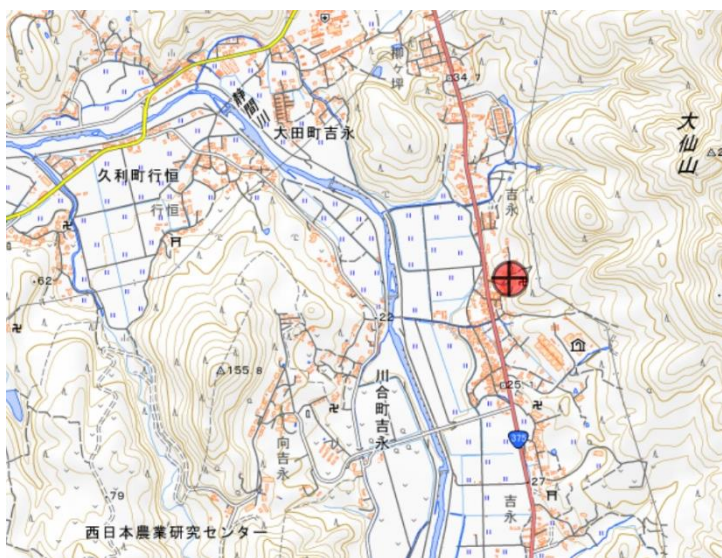
【碑石右面】当山十三世黒牛代

【碑石左面】明治廿二年五月

【調査の経過】

宮元豊氏が井戸公碑調査を始めるきっかけとなった碑。自宅の裏にある建功寺の碑が傷んだため、台石を墓地に埋めて碑石だけが無縁墓地に残した。碑石前面の文字は今では全く読めないが、宮本調査を生かした。無縁墓地は本堂に向かって左手にあり、数十基の墓が納められている。井戸公碑はその一番奥のほぼ中央に五輪塔の隣に安置されている。幅が40センチあるので、当初は台石を含めると割と大きい方だったと思われる。今のうちに井戸公碑を訪ねて写真に残しておかなくてはなくなってしまう」と宮本氏が決意されたように、この碑のように崩れてしまいう井戸公碑が今後どんどん増えていくだろう。

(調査日2020年11月25日)



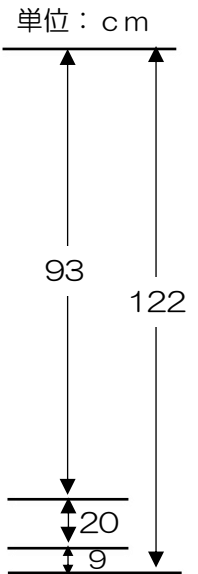
【07】大田市三瓶町池田野畑（宮本 大 69/ロータリー-101 未確認） なし

所在地 大田市三瓶町池田野畑（野畑のソリガ市の西、字ジャガ市地内の野畑～楨原への旧道（赤道）脇に「田ノ神地蔵」（調査日には地蔵本体はなし）と並んで建つ。さわらび苑裏の空き家の先の山中。北緯35° 08' 37.42" / 東経132° 33' 23.13"



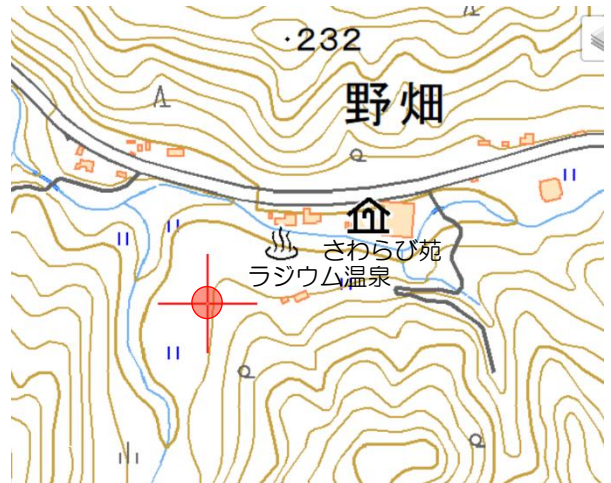
斜面の下に倒伏した碑石 ↑

写真上 現況
2段の台石が屋根の落ちた地蔵堂の横にあり、碑石は斜面の下に落ちていた。写真は発見した碑石の周囲を掘った状態。写真右は復元予想のコラージュ。



碑石最大幅 48、奥行き 15~20
台石1段目 幅 53、奥行き 33
台石2段目 幅 78、奥行 不明

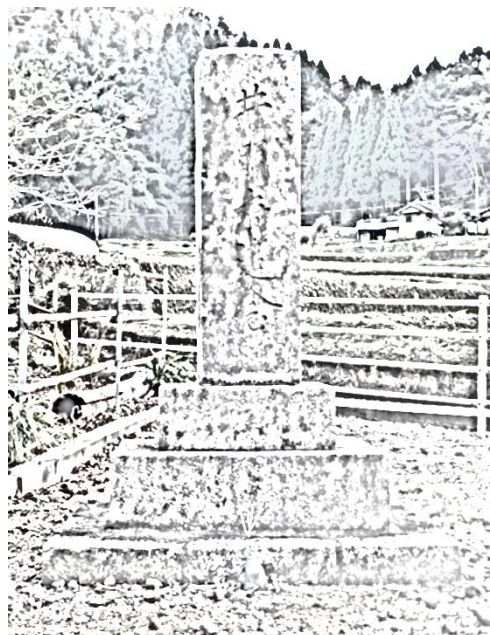
【建立年】不明
【建立者】不明
【碑石・台石全面】刻字の全くない自然石
「調査の経過」
宮本台帳には大田69として存在するが台石しか発見されてない。ロータリー調査も101番だが「未確認」。三瓶町池田の中村和平さんの平成10年の調査で場所と、碑石が倒れていることが判明しており、今回元さわらび苑勤務の鳥井町の宮脇達也さんの案内で文化協会の縄田事務局長と現地調査した。
中村さんの調査票には「(地蔵と)隣接して、銘はないが芋代官井戸公の碑と伝えられる自然石の碑がある。この碑と地蔵と関係するのであろうか。伐採木搬出の際、架線の振動により倒伏した」とある。
コラージュを作成してみると、中村さんの復元想定図とほぼ同様の写真になった。
地蔵本体はどなたかがほかの場所に移動したのかもしれない。現在は山の中だが、以前は碑の下に道があり、人が行き来していたと思われる。
(調査日2019年3月26日)



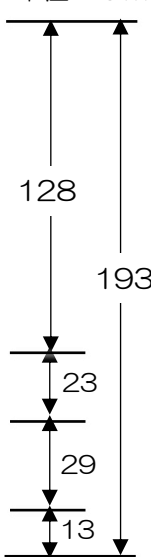
【08】大田市三瓶町小屋原 徳善寺前（宮本 大 63/□-列-06） 井明府追念

所在地 大田市三瓶町小屋原 徳善寺前

北緯 35° 09' 16.56" / 東経 132° 35' 36.49"



単位：cm



碑石幅 37 / 奥行 27
 台石1段目幅 64 / 奥行 55
 台石2段目幅 98 / 奥行 88
 台石3段目幅 137 / 奥行 141

【建立年】明治22年（1889）
 【建立者】世話人

【碑石前面】井明府追念

【碑石右面】明治廿二年

【碑石左面】己牛十一月五日 是調

【一段目台石前面】世話人 / 和田

森太郎 / 田中武七 / 松本円四郎

／吉志友四郎 / 太田文太郎 / 山

下竹市 / 住田長市 / 平井兼太郎

／松尾與市 / 岩田亀吉

【同左面】石工 / 墨田惣市 / 吉志

久市 / 森次持市 / 松尾米市 / 多

根村 / 林喜作 / 大谷亀五郎 / 森

山為助

【同右面】村中寄附 / 一金五十銭

／熊谷吉二郎 / 一金五十銭 / 月

森傳十

【調査の経過】

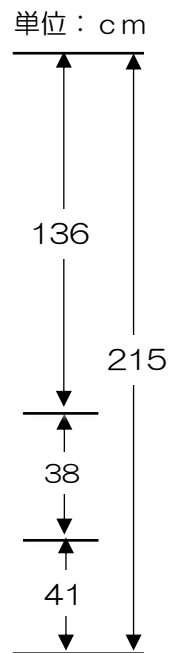
徳善寺の前の道路を挟んで向かいにある。石段を5段上がった平地に、地藏堂、牛魂碑と並ぶ。池田、小屋原の皆さんに多根の3人も協力して建てられたと思われるが、「當村中」などの文字はない。石に痛みはなく、台石の文字も読める。「井明府追念」という表記も珍しく、また、三瓶山を利用した放牧が盛んだった小屋原地区ならではの「牛魂碑」が建てられているのも特徴的だ。

（調査日 2020年4月17日）



【09】大田市三瓶町志学東上山 専勝寺（宮本 大66/□-列-09） 井戸正明公碑

所在地 大田市三瓶町志学東上山 専勝寺参道入口
 北緯35°06'20.00" / 東経132°39'25.64"



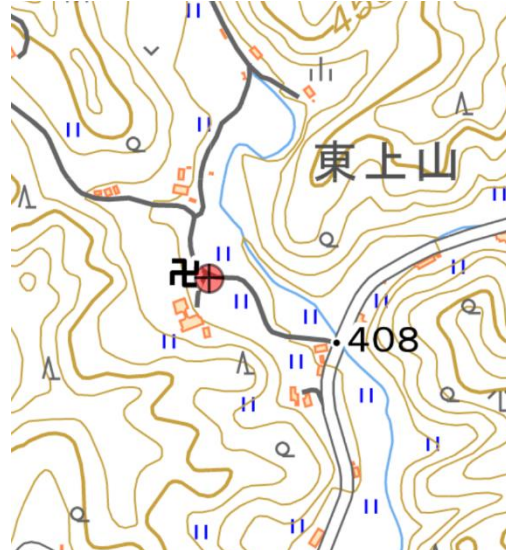
碑石最大幅 75 / 奥行き最大 50
 台石1段目幅 106 / 奥行き 89
 台石2段目幅 140 / 奥行き 125 (左半分埋まっている)

【調査の経過】
 専勝寺の参道入口左手にある。調査の日は4月17日だったが、碑の後ろの桜が満開で、山門、本堂をバックに、美しい風景だった。自然石だが、正面以外の文字は読みにくくなっていた。軟らかい石なのかもしれない。台石も角から傷んできている。

【調査日2020年4月17日】

【建立年】昭和6年（1931）
 【建立者】佐比賣村青年団上山支部

【碑石前面】井戸正明公碑
 【碑石右面下部】大田町石工 / 政所要二郎
 【碑石左面下部】当山十五世住職 敬書
 【碑石裏面】昭和六年七月 / 佐比賣村青年団 / 上山支部
 【台石】なし

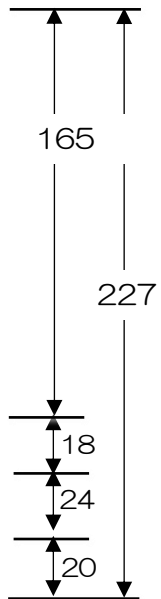


所在地 大田市三瓶町多根 宝陀寺参道入口

北緯 35° 10' 15.61" / 東経 132° 35' 55.70"



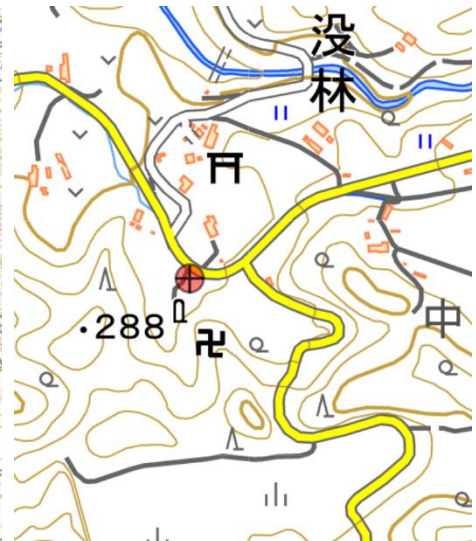
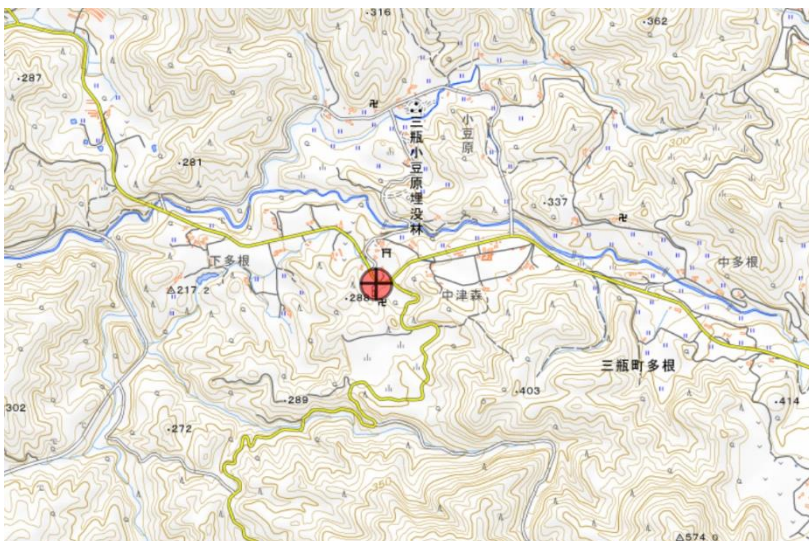
単位：cm



碑石最大幅 70 / 奥行最大 27
 台石1段目幅 76 / 奥行 49
 台石2段目幅 99 / 奥行 73
 台石3段目幅 126 / 奥行 105

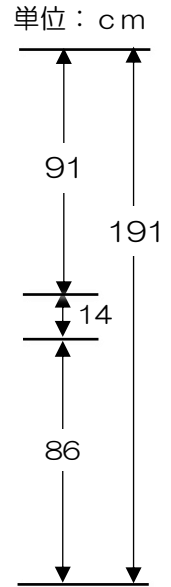
（調査日 2020年 11月 25日）

【建立年】不明
 【建立者】多根中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【一段目台石前面】多根中
 【同右面】發起 / 寶陀寺 / 西善寺 / 森山覚五郎 / 林藤十郎
 【調査の経過】
 宝陀寺は三瓶埋没林公園に近く、佐比賣山神社、多根神楽伝承館の県道を挟んだ向かいにある。寺に入る左手に1段高い場所を作り、一畑薬師と某氏の碑とともに建っている。前から見ると比較的大きな三角形の碑石の形が珍しい。茶色っぽい石で、堅い素材のように見え、傷みはない。台石にも痛みはなく、彫つてある文字がはっきりと読み取れる。建立年がないのが惜しい。現在は無住になっているが、住職がおられたところには、参道に入つてすぐの場所にあるこの碑に手を合わせた後、寺に参つていた村人の姿が想像できる。



【11】大田市三瓶町野城 円城寺下（宮本 大64/ローター07） 井戸明府碑

所在地 大田市三瓶町野城 円城寺下 三瓶ダム近くから円城寺に上がる道路沿い
北緯35°10'25.96" / 東経132°34'08.46"

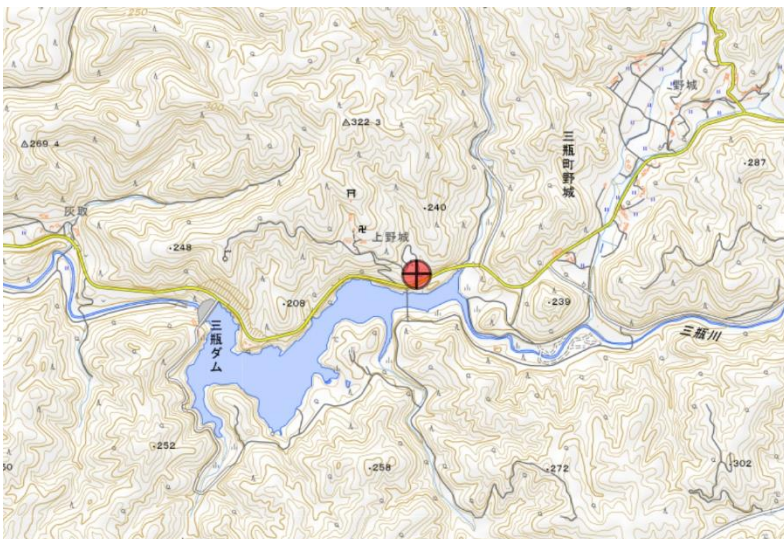


碑石最大幅 57 / 奥行き 33
台石1段目幅 64 / 奥行 67
台石2段目最大幅 155 / 奥行最大 157

（調査日 2020年 11月 25日）

【建立年】明治18年（1885）
【建立者】不明
【碑石前面】井戸明府碑
ほかに文字は読めない（建立年は宮本調査による）

「調査の経過」
宮本調査によると三瓶町野城の香勝寺にあったというところだが、石碑の表記、大きさが同じことから、三瓶ダムの建設に伴って廃寺となった香勝寺から移設されたと思われる。現在の場所は県道から円城寺に上がる道の途中の右カーブの左側に平地を作り、戦死した軍人の碑と、「媼石翁石の標」とともに、比較的きれいに手入れされた状態で建っている。香勝寺の碑には3段の台石があったが、現在は1段の台石の下に3段の石組の台石が組まれている。



【12】大田市富山町高原 松林寺（宮本 大20/㊦列-03） 芋代官頌徳碑

所在地 大田市富山町山中高原 松林寺参道入口（県道から参道に入ってすぐ右手）
 北緯35° 12′ 54.46″ / 東経132° 34′ 16.15″



単位：cm
 119
 244
 27
 98

碑石幅最上部 48、最大 65 / 奥行き最大 41
 台石 1 段目幅 125 / 奥行 63
 台座（石組）幅最大 190 / 奥行 110

（調査日 2020年4月17日
 撮影は 2014年9月7日）

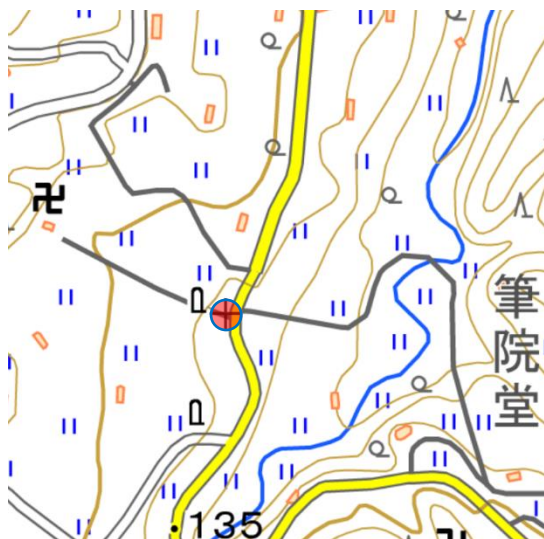
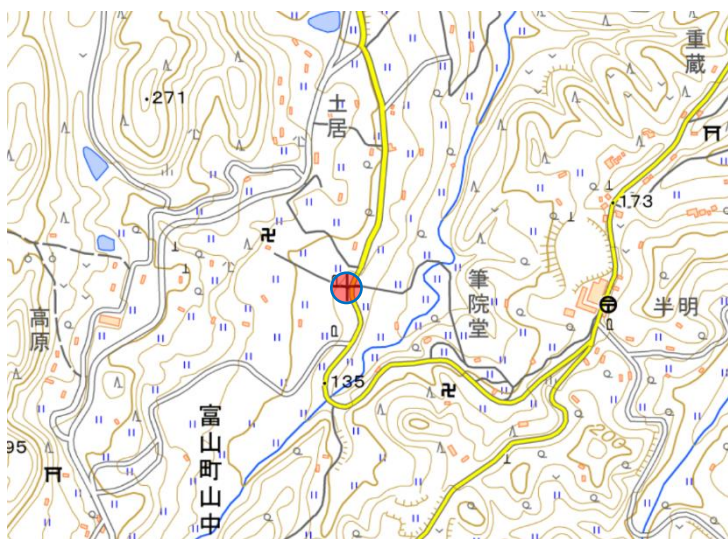
「調査の経過」非常に硬い、表面を鏡面状に加工した自然石。
 再建にあたり、珠禅住職は「芋代官井戸平左衛門正明略伝」を著している。

「碑石左・裏・台石」なし

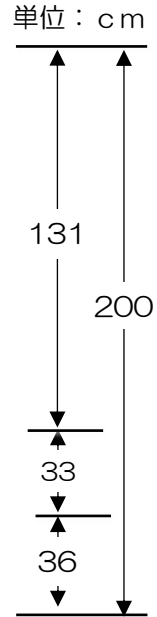
「碑石前面」芋代官頌徳碑 / 昭和四十八年春再建 松林寺十六世珠禅書

「碑石右面」碑石寄附者 島林金作 / 設計施工 林和吉 / 賛助 富山町内中

【建立年】昭和48年（1973）再建
 【建立者】松林寺



所在地 大田市富山町山中本郷 道路沿い地藏堂隣
北緯35°12'30.87" / 東経132°34'51.74"



碑石幅 40 / 奥行き最大 45
台石 1 段目幅 71 / 奥行 75
台石 2 段目幅 110 / 奥行 80

(調査日 2020年4月17日)

ミ) が供えてあつた。

「調査の経過」
道路沿い山手の1段高いところに地藏堂があり、その隣に建っている。周囲は比較的きれいに手入れされている。そう堅そうにない自然石で170年経っているが、傷みもなく、すわりと立っている。気象条件がよかつたのだろうか。1段目台石の中央に大きな文字ではつきりと「村中」と彫ってある。碑の前にはブロックのような四角い自然石が置いてあり、線香立てと花立てがある。花立てにはシビキ(シキミ)が供えてあつた。

「同右面」石工林蔵(?) 弘化/四年/未八月

「碑石左面」井戸平左衛門尉正明
「一段目台石正面」村中

「碑石右面」豊享保十八丑年五月二十六日

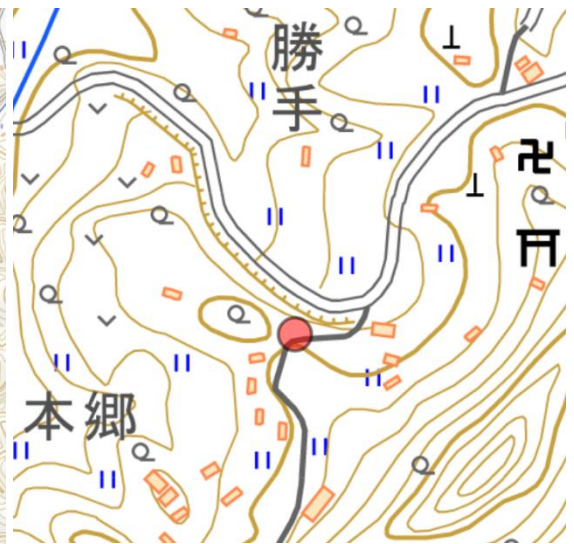
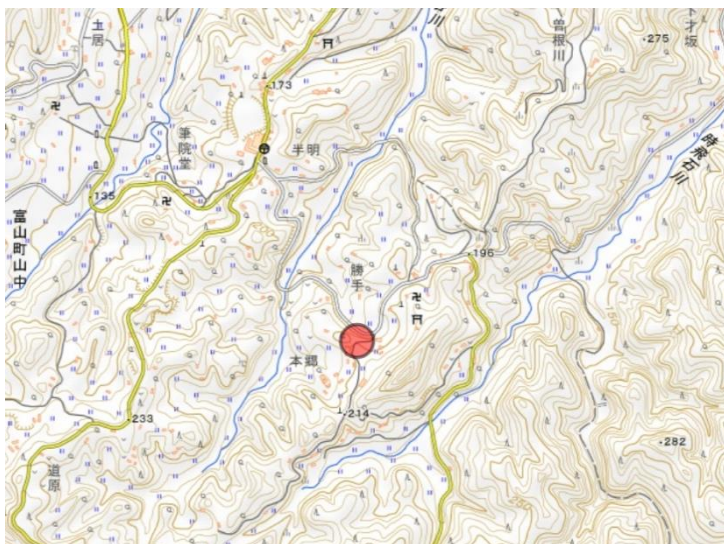
「碑石前面」泰雲院殿義岳良忠大居士

【建立者】村中

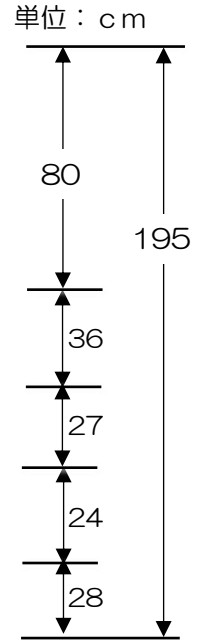
【建立年】弘化四年(1847)

【建立者】村中

【建立年】弘化四年(1847)



所在地 大田市朝山町朝倉 朝倉彦命神社境内 本殿左手
 北緯35°14'56.14" / 東経132°33'54.06"



碑石 幅34/奥行34
 飾り台 幅59/奥行60
 台石1段目 幅77/奥行77
 台石2段目 幅95/奥行95
 台石3段目 幅111/奥行110

（調査日2020年4月18日
 撮影は2011年2月8日）

「調査の経過」
 石碑のすぐ後ろは国道9号で車の行き来もあるが、神社の境内は静寂に包まれている。本殿の左手の1段高い場所にほかの碑石と並んで立っている。福光石だが剥落もない。ただし、2018年の島根県西部地震で碑石と台石の1段目が約20度回転した。

「調査の経過」
 石碑のすぐ後ろは国道9号で車の行き来もあるが、神社の境内は静寂に包まれている。本殿の左手の1段高い場所にほかの碑石と並んで立っている。福光石だが剥落もない。ただし、2018年の島根県西部地震で碑石と台石の1段目が約20度回転した。

「調査の経過」
 石碑のすぐ後ろは国道9号で車の行き来もあるが、神社の境内は静寂に包まれている。本殿の左手の1段高い場所にほかの碑石と並んで立っている。福光石だが剥落もない。ただし、2018年の島根県西部地震で碑石と台石の1段目が約20度回転した。

「調査の経過」

「碑石裏面」なし

「碑石左面」井戸恩謝碑

「碑石右面」維時 享保十八癸丑年/五月二十有六日

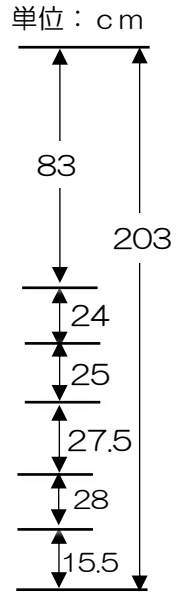
「碑石前面」泰雲院義岳良忠居士

「建立年」不明
 「建立者」當村中合等



【15】大田市朝山町仙山 元花雪温泉横（宮本 大19/甲-列-01） 井明府恩澤碑

所在地 大田市朝山町仙山 元花雪温泉横 市道5差路交差点
 北緯35°15'17.42" / 東経132°34'31.02"



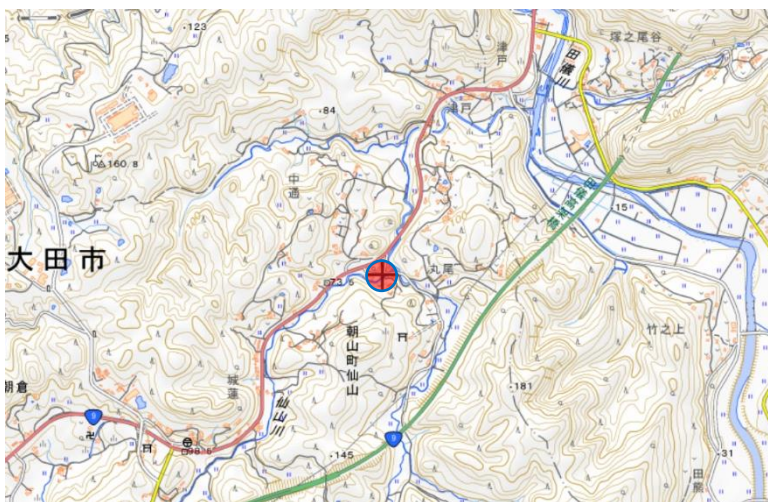
碑石	幅 33 / 奥行 24
台石 1 段目	幅 56 / 奥行 45.5
台石 2 段目	幅 82 / 奥行 72
台石 3 段目	幅 107 / 奥行 99
台石 4 段目	幅 130 / 奥行 128
台石 5 段目	幅 170 / 奥行 155

台石5段目は地中に埋まっており、元は高さ30センチくらいはあったと思われる。

〔調査の経過〕
 国道9号からほど近くの市道の5差路の交差点に別の石碑と並んで立っている。近所の人に聞くと、元は別の場所にあったようだ。一番下の台石は半ば埋まっているが、台石を5段も積んだ立派な碑だ。この碑にも「村中合等」とあるので、朝倉の碑と前後して建てられたと思われる。建立年がこちらの碑に彫ってあるので、朝倉の碑の反省からとすれば、朝倉の碑がより古いことになる。
 色が黒ずんでいてわかりにくい。福光石のような石で、少し剥落もある。

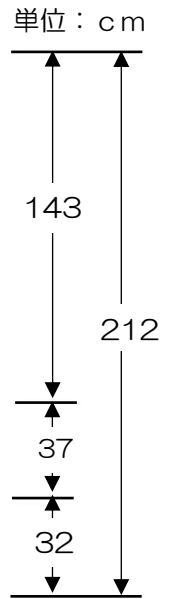
〔建立年〕安政4年（1858）
 〔建立者〕村中合等
 〔碑石前面〕井明府恩澤碑
 〔碑石右面〕皆安政四丁巳年／七月廿六日
 〔碑石左面〕なし
 〔一段目台石前面〕村中合等

（調査日2020年4月18日）



【16】大田市波根町上町 波根八幡宮 (宮本 大17/□-列-05) 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市波根町上町 波根八幡宮境内
 北緯35°14'34.71" / 東経132°32'04.31"



碑石幅 45 / 奥行 44
 台石 1 段目幅 73 / 奥行 72
 台石 2 段目幅 119 / 奥行 118

〔調査の経過〕
 碑の左に説明板が立つ（内容は次葉に記載）。もともと拝殿左側の高手の目につきにくい場所にあり、2018年4月の島根県西部地震で倒れたため、地元で再建実行委を組織して浄財を集め、同神社の壺倉薫宮司の配慮もあって、拝殿の右側の境内社をまとめたコンクリート製の台の上に移築された。

〔建立年〕文政3年（1820）（別資料による）
 〔建立者〕不明

〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠大居士
 〔碑石右面〕當御料前御代官／井戸平左エ門尉正□
 〔碑石左面〕享保十八癸丑年／五月二十六日
 〔台石〕二段目の右側中央の石に「施主當」の文字あり

（調査日2020年5月24日）





井戸平左衛門正明公謝恩碑

井戸平左衛門正明公は、享保16年(1731)石見銀山御料の第19代代官に任命された。60歳の高齢で、その上病気がちであった。

翌17年、近畿以西一帯は長雨や冷夏、害虫の発生にみまわれ、大飢饉となった。井戸公は御料内を踏査して現況の把握に努め、年貢米の減免、植えた領民への飯米の支給、さらには薩摩国からサツマイモを取り寄せ栽培に成功させた。西日本では1万2千人以上の餓死者があったが、銀山御料からは飢えによる死者を一人も出さなかったといわれる。

享保18年(1733)5月、兼任していた笠岡の代官所で病に倒れ、帰らぬ人となった。享年62歳。墓は笠岡市の威徳寺にある。在任期間はわずか2年弱だったが、その功績は大きく、今も「いも代官」として語り継がれている。

この碑は元々波根中町の旧荒神社境内(大丸屋の裏付近)に、村民の浄財を集めて文政3年(1820)に建てられた。その後、明治末年に波根八幡宮拝殿の西側に移されたが、平成30年4月9日の島根県西部地震により倒壊し、この地に移転再建された。

平成30年(2018)12月

井戸公碑再建実行委員会

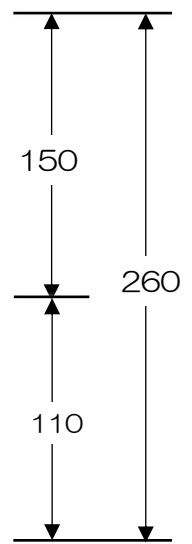
【17】大田市久手町宮の前 菟田神社 (宮本 大12/ロ-列-17) 井戸明府

所在地 大田市久手町宮の前 菟田神社境内

北緯35°14'02.03" / 東経132°30'31.49" (国土地理院)



単位：cm



石宮屋根幅 106 / 同奥行き 92
台石最大幅 168 / 奥行最大 194

(調査日 2020年5月24日)

の貴重だ。
年欠かさず祭りが営まれている
わからないが、柳瀬ともども毎
に営まれるようになった経緯は
法事のように秋ではなく、7月
祭りの日程は寺院で営まれる芋
の家に配布されるという。

「調査の経過」
石で造られ、台石は城積みみの立
派な石宮。柳瀬の石宮と兄弟の
ような関係なのだろう。ここで
は7月25日の夜に宮の総代など
が参列して祭りが営まれる。以
前は子どもの参列も多く、くじ
引きで当たる景品目当ての子供
も多かったそうだが、最近はず
どもの参列はなく、用意された
お菓子は後日近所の子どもたち
の家に配布されるという。

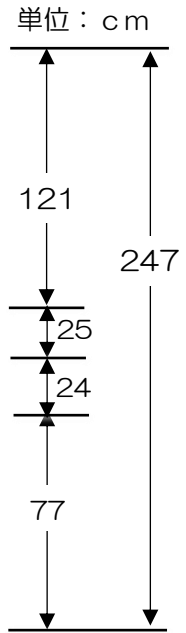
「石柱」宮の前に立つ石柱に「井戸
明府」の文字あり

【建立年】平成14年(2002)
修復
【建立者】不明



【18】大田市久手町寺前 観音寺（宮本 大 09/㍑-列-18） 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市久手町寺前 観音寺境内
 北緯35° 13' 56.57" / 東経132° 30' 23.06"



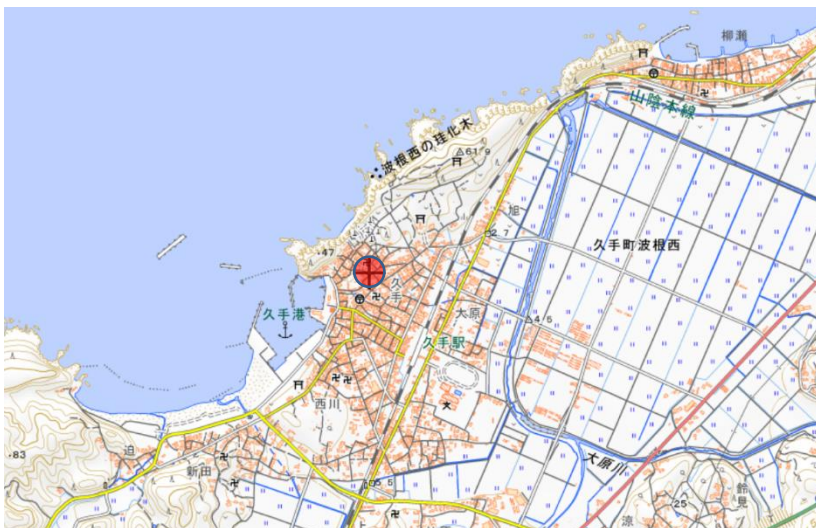
碑石幅 37 / 奥行き 37
 台石 1 段目幅 60 / 奥行 61
 台石 2 段目幅 91 / 奥行 92
 台石 3 段目幅 130 / 奥行 130 (石組み)

〔調査の経過〕
 久手町の中心街にある観音寺の境内にある。本堂と向い合う形で百体地藏の右側に塀とはさまれるように建っており、少し窮屈そう。碑は3段の台石を積み、一番下は3段の石組を組んだ立派なもの。石の傷みも少ない。「造主」「世名」など他では見られない言葉も彫られている。享保18年は丑年だが「子」と間違っている。

〔建立年〕不明
 〔建立者〕久手／柳瀬／大津

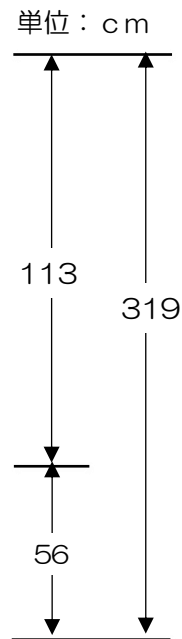
〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士
 〔碑石右面〕享保十八子五月廿六日／造主／久手／柳瀬／大津
 〔碑石左面〕世名／井戸平左衛門尉正明公塚
 〔台石〕なし

〔調査日〕2020年5月24日



【19】大田市久手町柳瀬 (宮本 大13/マター-16) 井戸明府霊

所在地 大田市久手町柳瀬 県道波根久手線とJR 山陰線との間の広場 河元寺墓地向い
北緯35°14'18.06" / 東経132°31'16.37"



石宮屋根幅 89 / 同奥行 93
台石 233 / 奥行 102

【建立年】不明
【建立者】不明

「石宮」なし
「台石」なし

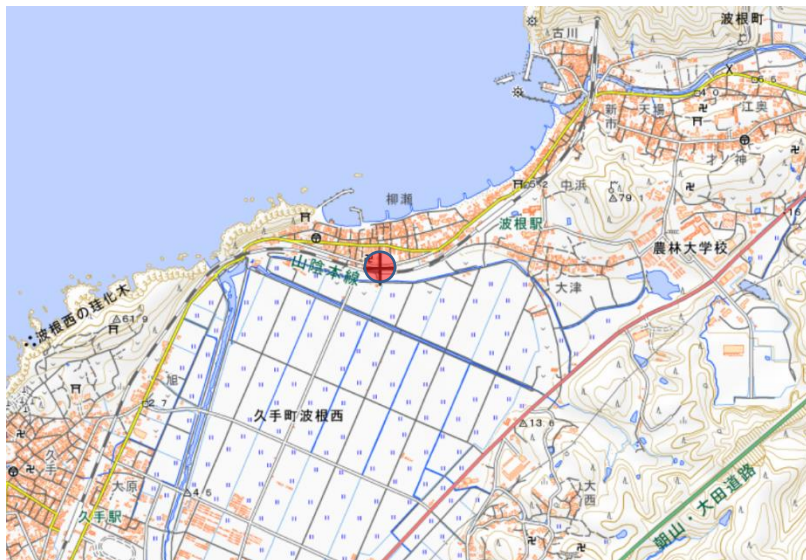
「石柱」石宮の左側に倒れている石柱に「井戸明府霊」の文字あり

〔調査の経過〕
ちようど柳瀬地区の中央部、県道とJRとの間に広場があり、中央の「三谷徹先生碑」の左に井戸公碑がある。コンクリート製だが、菟田神社の石宮とよく似ている。石宮の横に倒れている13×12×51^{センチ}の柱に「井戸明府霊」と彫られている。石宮の左右には細い脇宮のようなものが立っていたが、2018年の県西部地震で倒壊したのだろう、屋根だけが残っている。

石宮の前には2対の石灯籠と大きめの1対の狛犬が並び、聖域の雰囲気醸している。狛犬に「昭和十年」の文字あり。前の地面もきれいに掃いてあり、石宮の扉の前には賽銭もあつた。

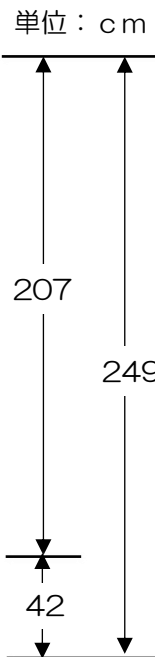
ここでは子どもからお年寄りまで地域の大勢が集まって、毎年7月26日の夜に、菟田神社の壺倉宮司を招いて祭礼がにぎやかに営まれる。

(調査日2020年5月24日)



【20】大田市久手町西川 県道三差路（宮本 大11/市列-14） 井戸明府之碑

所在地 大田市久手町刺鹿西側 県道三差路 J R線路沿い
 北緯 35° 13' 29.48" / 東経 132° 30' 22.57"



碑石最大幅 102 / 奥行最大 70
 台石幅 165 / 奥行最大 110

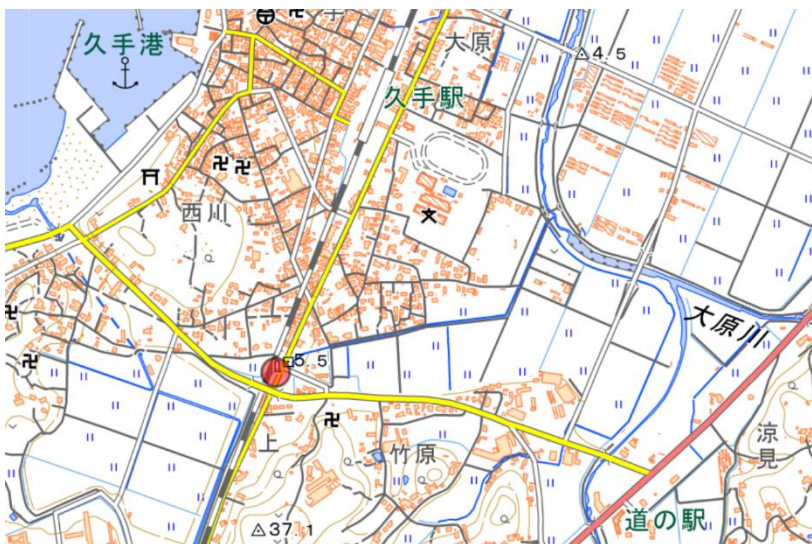
【調査の経過】
 旧国道の信号のある交差点の J R 沿いに、隣の歌碑とともに「井戸さんを見守る会」が公園として整備し、石灯籠 1 対と、擬木のテーブルと椅子を設置。碑の周囲には玉砂利が敷かれている。横に植えられた桜は直径 90 ㎝を超えており、満開時には 2 つの碑が桜の花に抱かれる。別の資料から、7 老人は岩谷竹三郎（定屋）、中村和十郎（工屋）、森井和七（吉野屋）、品川利兵衛（品川）、中村常四郎（竹中屋）、渡邊茂十（釜屋）、渡邊亀作（吉本屋）とわかっている。

毎年 7 月下旬に祭りを行っている。以前は小学生を集めてにぎやかだったが、今では会のメンバーが中心で集まり、刺鹿神社の宮司が祝詞を上げて井戸さんの遺徳をしのぶ。

（調査日 2020 年 11 月 25 日）

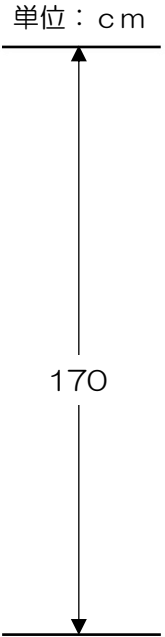
【建立年】明治 39 年（1906）
 【建立者】七老人

【碑石前面】井戸明府之碑
 【台石前面】明治 / 三十 / 九年 / 八月 / 建之 / 発起 / 七老人 / 石工磯八



【21】大田市久手町西川 県道三差路（宮本 大14/ロ-列-15） 井戸公追善（歌碑）

所在地 大田市久手町刺鹿西側 県道三差路JR線路沿い
 北緯35°13'29.52" / 東経132°30'22.63"



碑石最大幅63 / 奥行き最大30

【調査の経過】
 旧国道の信号のある交差点のJR沿いに、隣の井戸公碑とともに「井戸さんを見守る会」が公園として整備し、石灯籠1対と、擬木のテーブルと椅子を設置。碑の周囲には玉砂利が敷かれている。横に植えられた桜は直径90cmを超えており、満開時には二つの碑が桜の花に抱かれる。

この歌碑は隣の井戸公碑の9年後の建立で「岩谷」がだれかはわからないが、井戸公碑を建立した七老人の中に岩谷竹三郎（定屋）という名があるので、その人かもしれない。

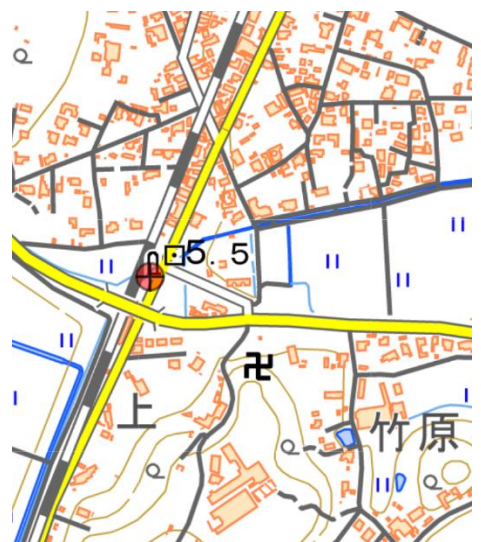
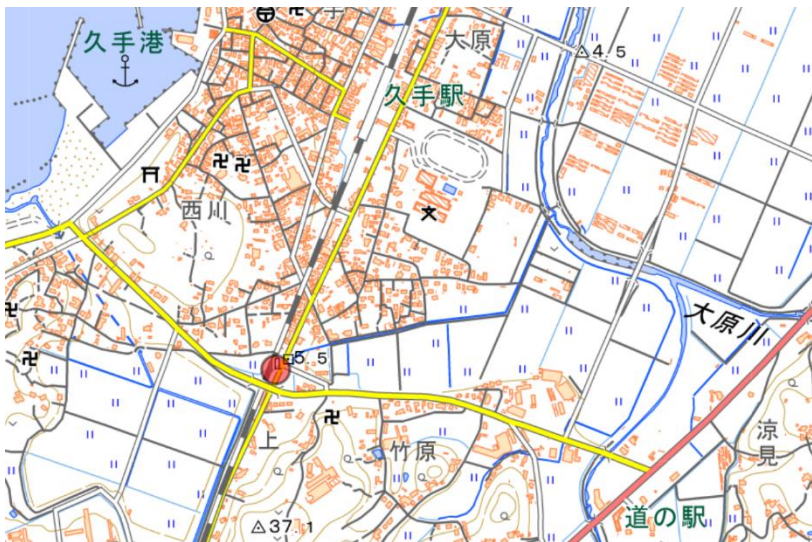
国道9号から久手町に入ってくるとT字路の突き当りに井戸公碑とこの歌碑が目に入る。特に桜の季節には多くの人が目を止めていると思われる。

（調査日2020年11月25日）

【建立年】大正4年（1915）
 【建立者】岩谷

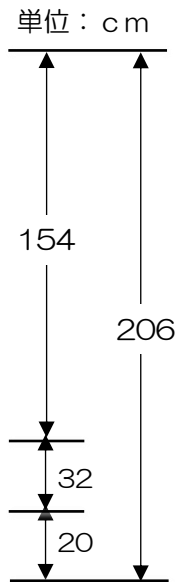
「碑石前面」井戸公追善 / 君の恩徳を感じて / 飢ゆることしらて / うき世にくらすなり / 君の功の影に住む身ハ / 大正四之とし 建之 / 岩谷性

【その他】文字なし



【22】大田市久手町刺鹿 円光寺（宮本 大10/㍻-列-19） 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市久手町刺鹿 円光寺参道入口（車道参道と階段参道の間 羅漢堂隣）
 北緯35° 13' 08.50" / 東経132° 30' 47.86"



碑石幅 37 / 奥行 37
 台石 1 段目幅 76 / 奥行 75
 台石 2 段目幅 94 / 奥行 95

（調査日 2020年4月18日）

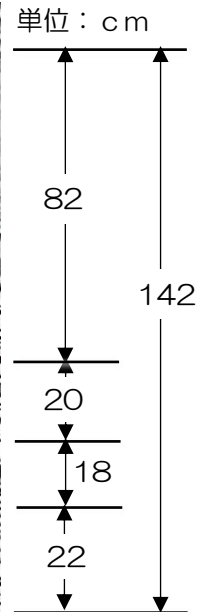
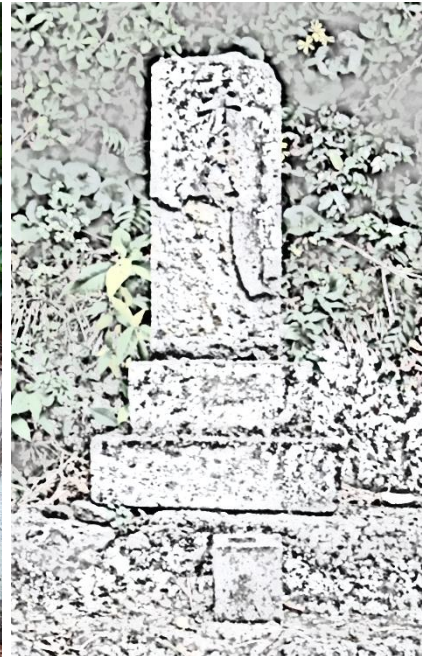
【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士
 【ほか】文字はなし

〔調査の経過〕
 福光石でとどころ剥落がある。正面の碑銘以外に文字が全く彫られていないので、建立年や建立者がわからない。羅漢堂を挟んで右側に同様の大きさで同様のしつらいの「南無妙法蓮華経」の碑が対のように建っているが、こちらは「寛保2年（1742）」とある。井戸公碑はこの碑に倣って、後年建てたものだろう。



【93】大田市仁摩町仁万天神 仁摩小学校下（宮本 仁 01/㊦㊦-69） 井戸正明……

所在地 大田市仁摩町仁万天神 仁摩小学校下 前谷工務店前
 北緯35° 09' 07.79" / 東経132° 23' 56.52"



碑石幅 35 / 奥行き 26
 台石1段目幅 49 / 奥行き 42
 台石2段目幅 65 / 奥行き 56
 台石3段目幅 128 / 奥行き 100

（調査日2020年11月20日）

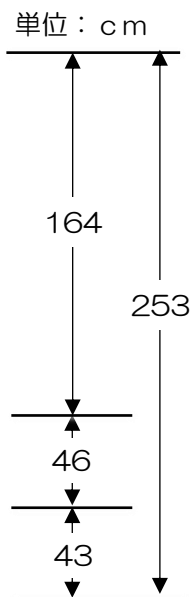
「調査の経過」
 仁摩小学校の下、大田西中学校の横に当たる。道路の海側に岩盤を削って広場を作り、碑の前には山茶花が植えられるなど庭園風のしつらいだ。碑は福光石で傷みが激しく、剥落も多くて、宮本調査では建立者の名前が「本地亀五郎」と読めたとあるが、調査日には読めなかった。場所が海に近いので傷みが早かったと思われる。

【建立年】明治30年（1897）
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸……（宮本調査では「井戸正明……」）
 【碑石右面】享保十八年五月廿五日死去
 【碑石左面】明治三十年八月六日「台石」なし



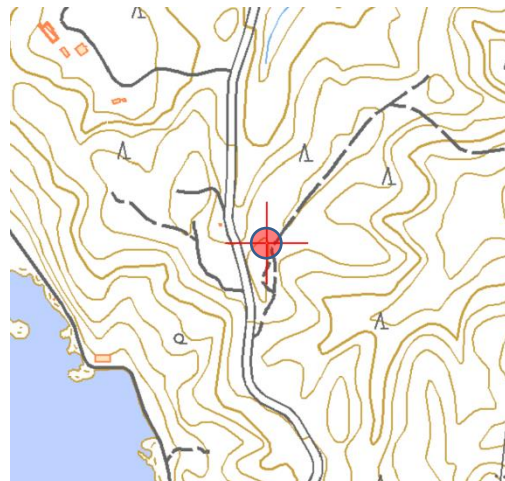
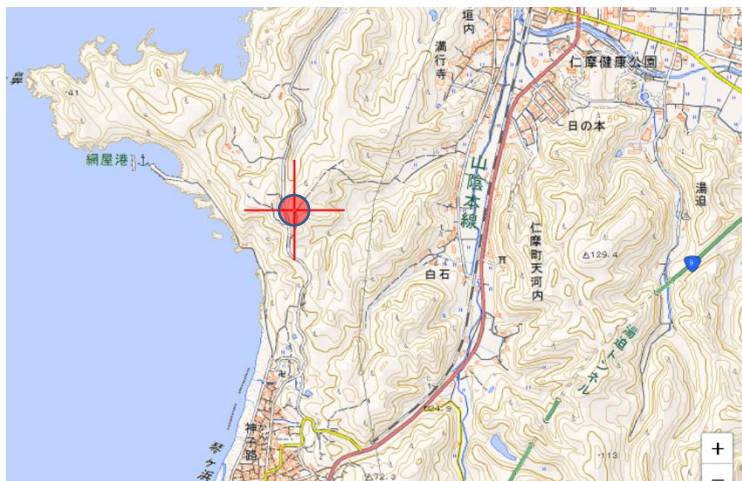
【94】大田市仁摩町天河内（宮本 仁 02/マター 70） 泰雲院殿義岳良忠居士欽徳碑

所在地 大田市仁摩町天河内 天河内から馬路に抜ける里道沿い（馬路の琴ヶ浜展望台から100m北の、右手に地蔵がある場所から里道を入れて約200m）
 北緯35°08'49.20" / 東経132°23'57.00"



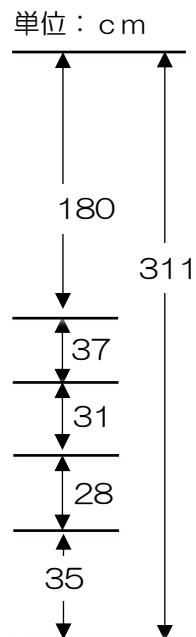
碑石幅 47、奥行き最大 27
 台石1段目 最大幅 87、同奥行き 60
 台石2段目 最大幅 170、同奥行き 124

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士欽徳碑（蓮の花）
 【碑石右面】「享保十八癸丑五月廿六日……」と思われる文字があるが不鮮明。
 【碑石左面】文字が彫ってあるが不鮮明で読めない。
 【台石】自然石で刻字なし
 【調査の経過】
 馬路から海岸通りを進み、琴ヶ浜展望台を過ぎてしばらく行くと、貯水タンクの手前約100mあたり道路右側に小さな地蔵があり、そこから里道を約200m進んだ場所にある。周囲には人が居住した名残りが残り、石碑の場所は約1mの石垣を積んだ平地が整備され、中央部の階段を上がると広場の中央部に石碑がある。石碑は白っぽい少し粗めの自然石で硬く、まだしっかりしている。左右の文字は浅く彫られたためか読むのが難しい。広場の整備や碑石、碑文を見ても、かなり費用をかけた立派なもの。宅野の石碑の石庭を参考にしたのだろうか。
 （調査日2019年2月22日）



【95】大田市仁摩町宅野 波啼寺上 (宮本 仁 04/ロ-列-68) **井明府報徳碑**

所在地 大田市仁摩町宅野 波啼寺の右側にある往還道の上り坂を約700m上がった峠の広場
北緯35°10'08.37" / 東経132°24'48.05"



碑石最大幅 70、奥行き最大 70
 台石1段目 最大幅 135、同奥行き 135
 台石2段目 最大幅 136、同奥行き 130
 台石3段目 幅 170 / 奥行き 162
 台石4段目 幅 205 / 奥行き 190

【建立年】元治元年（1864）
 【建立者】不明
 【碑石前面】井明府報徳碑
 【碑石その他・台石】刻字なし

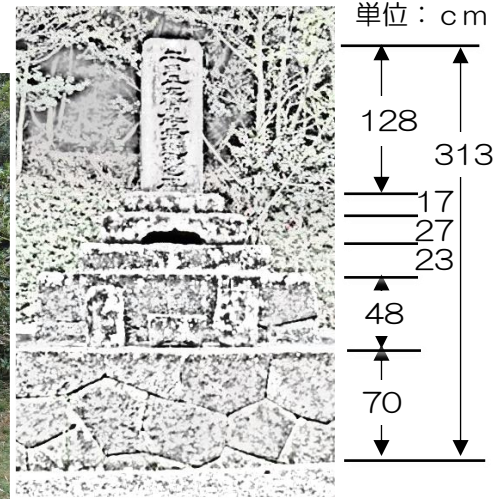
〔調査の経過〕郷土資料によると碑石前面の文字は弘化2年（1845）幕末の三筆の一人、貫名海屋が宅野逗留中に書いたとされる。碑石、台石にはほかに文字はないが、石碑前の石灯籠には右が「奉燈／本邸中／元治元年甲子五月／小松屋政右衛門／世話人叶田屋恒平」左には「同上／阿波屋惣四郎／世話人浅屋吉助」とあるので、石碑を中心とした石庭は元治元年（1864）の建設と推察される。4段目の台石に置いてある線香立てには中央の窪みに家紋のようなものがあり、右に「川合屋」左に「当中」とある。

この場所は宅野と五十猛を結ぶ往還道の峠の広場で、向かいには茶屋もあってにぎわったという。当時の宅野の有力者たちが、この場所にふさわしく、また海屋の書に恥ずかしくないようにと、たくさん大きな石を運び込んで石庭を建設したのである。行きかう人々が井戸公に思いを寄せた風景が蘇る。

大田市内で唯一、市の文化財に指定されている井戸公碑だ。
 （調査日2019年2月24日）



所在地 大田市仁摩町大國 石見城下
 北緯 35° 08' 26.02"
 東経 132° 25' 09.86"



単位：cm
 碑石幅 49／奥行 33
 台石1段目
 幅 79／奥行 62
 台石2段目（猫足）
 幅 110／奥行 93
 台石3段目
 幅 140／奥行 119
 台石4段目（石組）
 幅 190／奥行 171
 台石5段目（石組）
 最大幅 378／奥行最大 343

（調査日 2020年 11月 20日）

周囲には松や山茶花が植えられており、公園風のしつらいになっている。近くには世界遺産石見城の解説板もあるので、石見銀山を訪れる人の中には、この立派な井戸公碑を見学する人もあるだろう。

宮本調査では勝音寺のデータが記録されているが、碑石、台石とも元のまま使われているようだ。傷みはなく、文字もはっきり読める。

〔調査の経過〕

石見城のふもとの旧道沿いに広場を整備して建てられている。

この碑はもともと川西地区の勝音寺にあったものを大國町文化推進協議会・井戸公石碑移転建設委員会が町内から寄付を募り、この場所に移転した。

〔建立年〕平成元年（1989）再建
 〔建立者〕大國町文化推進協議会・井戸公石碑移転建設委員会
 〔碑石前面〕井戸平左衛門府君遺澤之碑
 ほかに文字はないが、碑の左隣に石の解説版が設置されている（碑文は次葉に記載）





井戸平左衛門(正明)公は石見銀山第十九代代官として享保十六年(一七三二)から同十八年迄三年間務められた。当時は享保の大飢饉の最中で西日本に於ける餓死者は十数万人におよんだといわれる。この時幕府の命令にさきがけて官庫を開いたり年貢の減免などを決断しその上私財を投じて領民を救いさつま芋栽培の奨励をして「いも殿様」とあがめられた。その遺徳を偲ぶ頌徳碑は県下全域に建立されている。本町にも先祖が建立した稀に見る程の立派な石碑が元勝音寺境内に設置されていたがこの程人目にふれるこの地に移転して末永く井戸公の恩に報いることとした。

平成元年(一九八九)

大国文化推進協議会

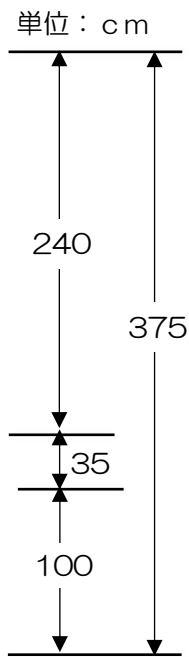
碑文揮毫 安政三年

選書揮毫 近藤芳樹

(歌人・書家)周防(山口)の出身にて国学を学び号を寄居子庵という。宮内省文学御用掛をつとめ明治十三年八十才で没す。

【97】大田市仁摩町馬路 乙見神社 (宮本 仁 03/□-列-72) 永欽遺澤

所在地 大田市仁摩町馬路 乙見神社境内 (本殿右隣)
 北緯 35° 07' 31.93" / 東経 132° 23' 52.64"



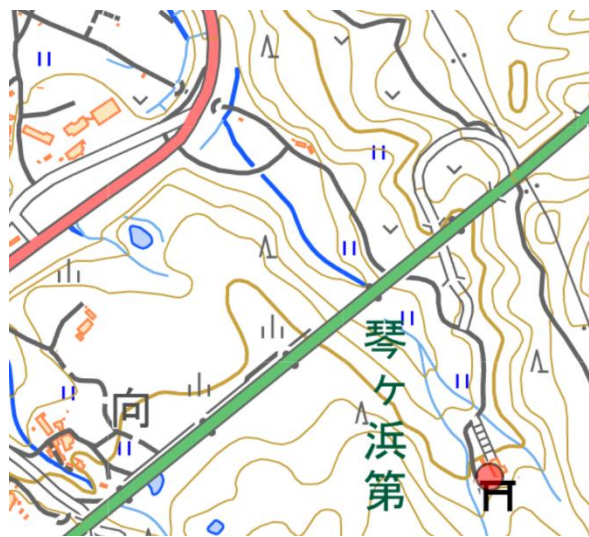
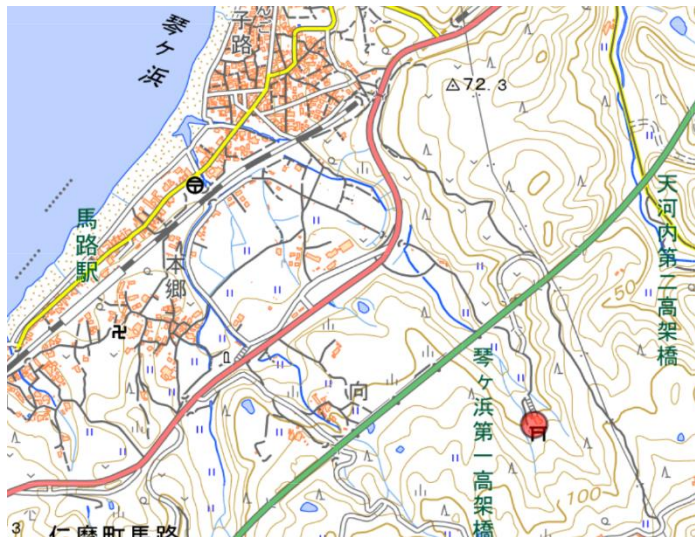
碑石最大幅 78、奥行き最大 65
 1段目台石幅 35、奥行き 165
 2段目台石 (石組) 最大幅 285、奥行 240

〔調査の経過〕
 乙見神社拝殿の右手奥に7段の石段があり、上がると井戸公碑が建っている。ほぼ本殿と同じ高さになる。「永欽遺澤」の文字は中央によっており、上にも下にもスペースがあつて、特に上は家紋か梵字でも彫るつもりだったように不自然なスペースだ。台石2段目は3段の石組で幅も奥行きもあり、かなり堂々とした碑だ。碑石の左右には碑文と世話人の名前が彫つてあるが、石が軟らかいのか、文字は痩せて読みにくい。ただ剥落や痛みは見受けられない。

〔碑石前面〕 永欽遺澤
 〔碑石右面〕 碑文 (次ページ記載)
 〔碑石左面〕 幹事 / 山崎五次 / 山崎弥三郎 / 船原庄三郎 / 松浦和兵衛 / 田中 □ □ / 松浦 □ □ / 松浦與七郎
 〔台石〕 なし

〔建立年〕 明治16年 (1883)
 再建
 〔建立者〕 馬路村

(調査日 2020年11月20日)





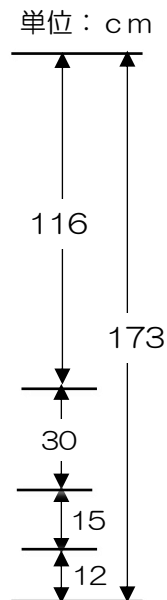
是井戸君平左衛門某之碑也君之來令于此懸元享保十六辛亥年其善政盡行不□枚
舉矣壇其觀土空而移甘薯其澤於黎庶雖經幾千歲不可磨滅者也宕嚴明治十五壬午
五月廿六日為百五十回忌辰而旧碑已茂缺矣於是村民相糺結据數月更建新碑以表
欽慕之意云尔而題碑面者龍谷學士大淵鉄熙記其由者本邨□生恒三惠建

明治十六歲次癸未五月□旦

位三□志

【23】大田市鳥井町新田 旧道沿い（宮本 大15/ルート23） **井戸恩澤碑**

所在地 大田市鳥井町新田 集落外れの旧道沿い南側
 北緯35°13'32.13" / 東経132°29'51.14"

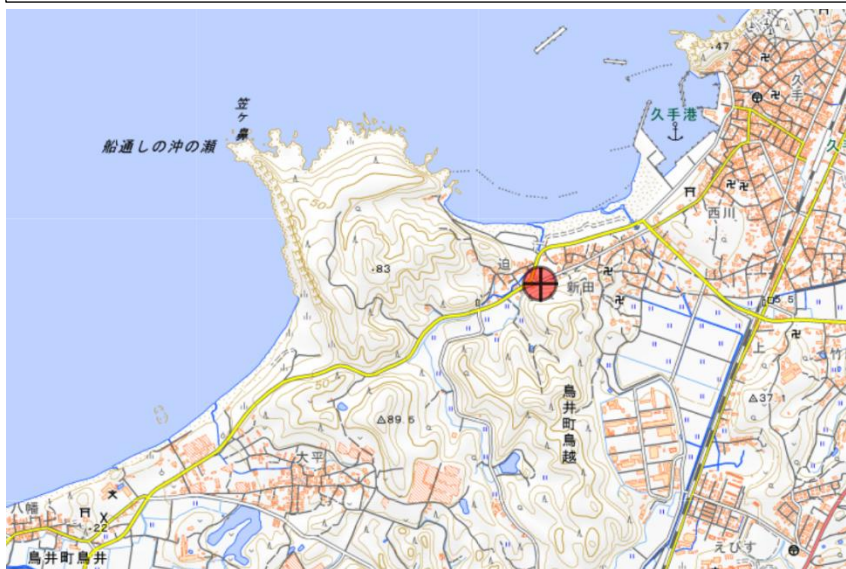


碑石最大幅 69 / 奥行き最大 20
 台石1段目幅 89 / 奥行 52
 台石2段目幅 97 / 奥行 60
 台石3段目幅 103 / 奥行 75

〔調査の経過〕
 現在は久手港から鳥井町まで新しい海岸道路ができていますが、以前は新田の集落の間の狭い道路が鳥井町まで続いていた。以前の狭い道路が広い道路に合流する地点の近くにこの碑はある。道路からコンクリートの進入路が数段あり、その先の4段の石段を上がると、3方をブロック塀で囲った広場があり、井戸公碑とその左に祠が建っている。「井戸恩澤碑」と「村中合等」以外に文字は見当たらない。碑石は1段目の台石に約20cm埋められており、そのため弱くなった1段目の台石が割れたものと思われる。「村中合等」の文字は朝山町に1基みられるだけの珍しい表記だが、「村の人たちが等しく力を合わせた」という意味で、興味深い。大きな碑ではないが、山影にある白っぽい石碑で、よく目立つ。

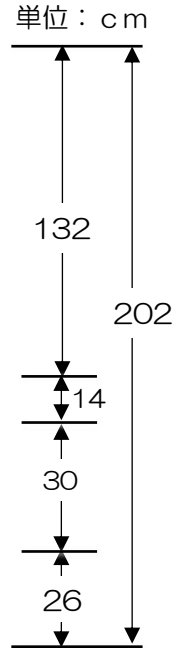
〔建立年〕不明
 〔建立者〕村中合等
 〔碑石前面〕井戸恩澤碑
 〔一段目台石前面〕村中合等

（調査日2020年11月25日）



【24】大田市鳥井町八幡 鳥井まちづくりセンター前（宮本 大16/ロータリー24） **井戸明府厚澤碑**

所在地 大田市鳥井町八幡 鳥井まちづくりセンター前の県道沿い（佐比売山神社下）
 北緯35° 13' 03.36" / 東経132° 28' 45.41"



碑石幅 51 / 奥行 31
 台石1段目幅 76 / 奥行 51
 台石2段目（猫足）幅 102 / 奥行 83
 台石2段目幅 146 / 奥行 126

〔調査の経過〕
 県道から2段の石段を上った場所に玉垣を巻いて庭にしてある。碑石は黒っぽく堅そうだが、一部剥離が見られる。碑石の裏には難しい漢字を使った漢文調の碑文があり、台石にも飾り罫を入れている。2段目台石の猫足も細かな細工がしてあり、全体として格調高い。享保の飢饉のときに免税になった村だけに、井戸公への思いが強かったのだろう。二重になった玉垣の外側には「明治百年記念／改修昭和四十三年八月／発起明福会／門柱玉垣寄贈者／木村幾兵衛」とある。

〔建立年〕天保10年（1839）
 〔建立者〕鳥井村中

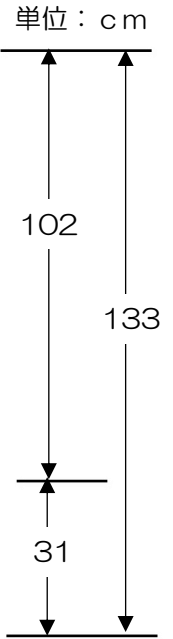
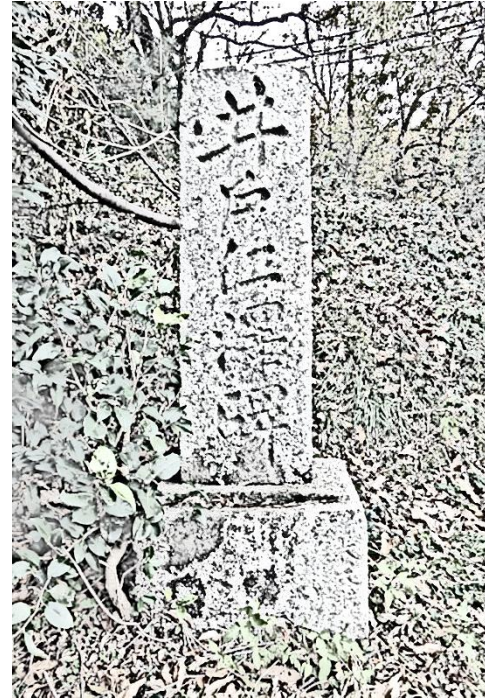
〔碑石前面〕井戸明府厚澤碑
 〔碑石裏面〕維昔天保己亥之冬至日後穀旦／奉／祀奠／本邨鳥井拳里？1首等拜首稽？2謹建（？）
 「里」の右に「今」その下に「心」？2「桑」の右に「頁」
 〔台石〕なし

（調査日2020年11月25日）



【25】大田市長久町川南 (宮本 大08/甲-列-25) 井戸仁澤碑

所在地 大田市長久町川南 (大田町山崎と長久町川南の境付近、現川南1不燃物集積所の上)
 北緯35°11'49.15" / 東経132°29'37.75"



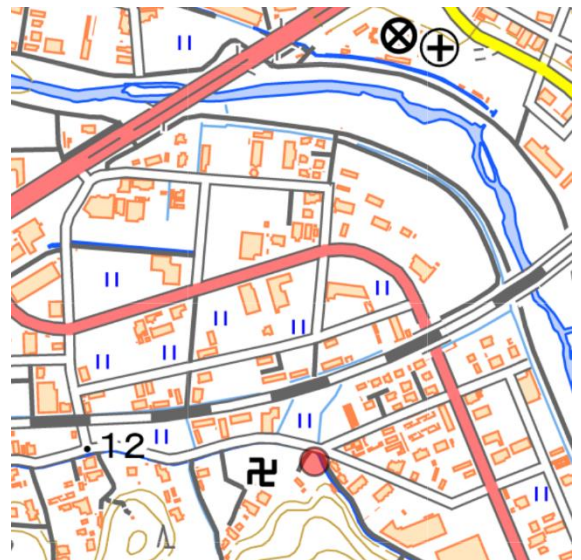
碑石幅 33 / 奥行き 27
 台石1段目 53 / 奥行 58

【調査の経過】
 宮本調査では「安立寺横丘」となっているが、大田町山崎から市道で長久に入ってすぐのところにある「川南1不燃物集積所」を目標にした方がわかりやすい。その後ろの丘の上に立つ。碑石に幅の細い台石1段という建て方は隠岐島に多い建て方で大田市内では少ない。水と線香を供えるために台石の上が彫り下げである。碑石右側からの風が強いのか、正面に比べて右面の文字がやせている。台石の正面にも小さい字が彫ってあるが読めなくなっている。宮本調査では「長久村／発起人／前原茂吉／坂根栄二他」となっている。三谷氏の「大田碑石散歩」では古老の話として「神社にあったものを合祀せずに単独でこの場所に移した」とある。広くて人口もそれなりにある長久町でただ1基の井戸公碑である。

(調査日2020年11月25日)

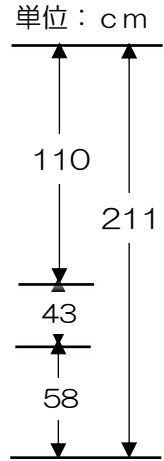
【建立年】明治25年(1892)
 【建立者】川南中

【碑石前面】井戸仁澤碑
 【碑石右面】明治廿五年九月
 【碑石左面】長久川南中
 【台石前面】長久村……



【26】大田市静間町棚 JR 静間駅前 (宮本 大 25/ロー列-29) 泰雲院表徳碑

所在地 大田市静間町棚 静間駅前
 北緯 35° 11' 44.58"
 東経 132° 28' 05.74"



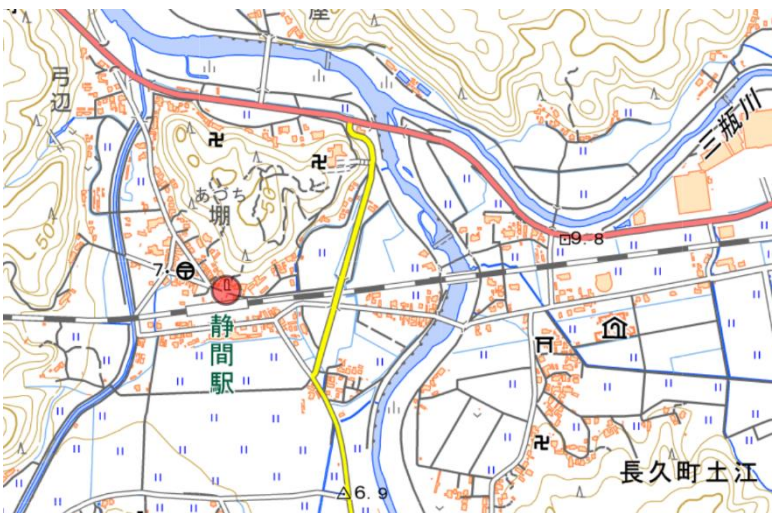
碑石最大幅 74 / 奥行最大 48
 台石1段目最大幅 184 / 奥行最大 139
 台石2段目 (石組)
 最大幅 257 / 奥行最大 206

〔調査の経過〕
 JR 静間駅前にある。住宅の隣接地に3段の石組を積んで広場を作り、その上にこの碑だけが立っている。碑には痛みはなく端正なままだが、表面の「泰雲院表徳碑」以外に全く文字が見当たらない。

地元の方の中には「ここは元々榎野氏の土地なので、榎野氏が自分の土地に建てたため、建立者などが彫られていないのかも「しれない」という方もある。自然石の碑石も大きく、台石も立派。2段目は形を整え、表面を平らにした石を2段組むなど、かなりいいねいな造りになっている。広場を支える石組も同様の造りだ。

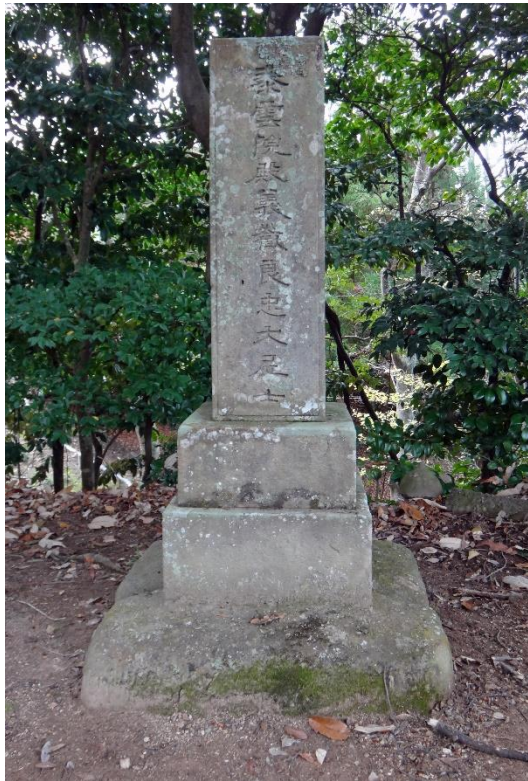
〔建立年〕不明
 〔建立者〕不明
 〔碑石前面〕泰雲院表徳碑
 〔その他〕文字なし

(調査日 2020年 11月 25日)

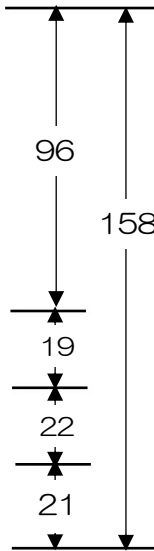


【27】大田市静間町仮屋 円通寺 (宮本 大27/ロータ-31) 泰雲院殿義嶽良忠大居士

所在地 大田市静間町仮屋 円通寺境内 石段を上げて右手
 北緯35° 11' 54.09" / 東経132° 28' 16.50"



単位：cm

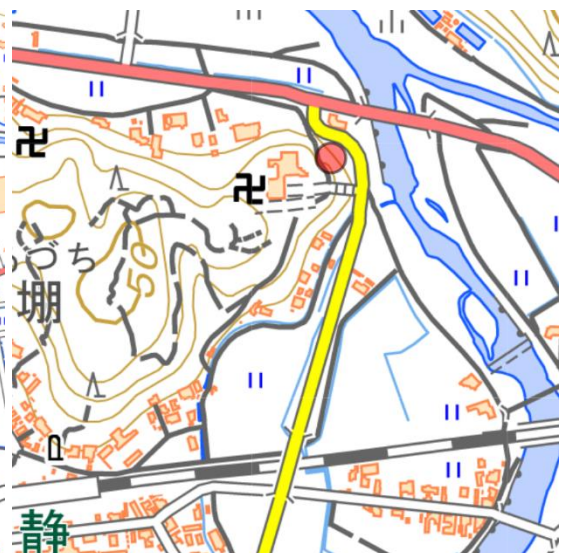


碑石幅 27 / 奥行 27
 台石1段目幅 41 / 奥行 41
 台石2段目幅 48 / 奥行 48
 台石3段目幅 82 / 奥行 69

〔調査の経過〕
 円通寺の境内にある。石段を上
 がると右手、車で上がると左手
 に観音像や小祠などが並ぶ広場
 が整備され、その一角に井戸公
 碑も建っている。広場はよく手
 入れされている。碑は福光石と
 思われるが傷みも苔もなく、文
 字がはっきりと読める。碑は大
 きな部類ではないがすっきりと
 した端正な碑で、幅の細い2段
 の台石が特徴的。碑石も2段の
 台石も幅と奥行きが全く同寸法
 で、石工さんの几帳面さが伝わ
 る。碑石には罫線が刻まれ、「義
 岳」の「岳」の字に旧字体が使わ
 れるなど、石碑全体から現代的
 ですっきりとした上品さを感じ
 られる。

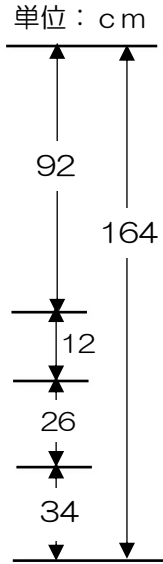
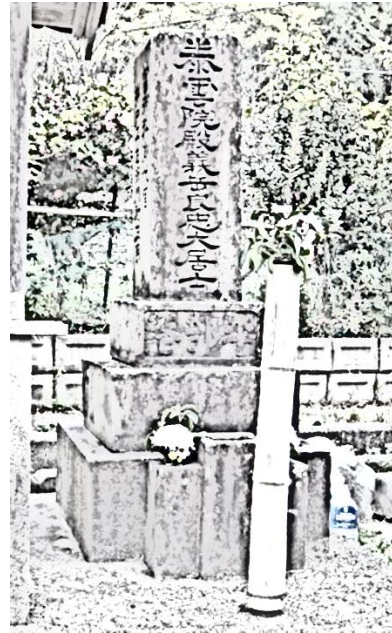
〔建立年〕明治23年(1890)
 〔建立者〕當組中
 〔碑石前面〕泰雲院殿義嶽良忠大
 居士
 〔碑石左面〕享保十八年五月廿六
 日卒 / 當組中 / 明治廿三年辰十
 月建之 / 當山廿世全山叟代
 〔その他〕文字なし

(調査日2020年11月25日)



【28】大田市静間町平 静間小学校入口（宮本 大 26/㊦-㊦-30） 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市静間町平 静間小学校入口交差点 静間まちづくりセンター横
 北緯35° 12' 13. 13" / 東経132° 27' 51. 49"



碑石幅 33 / 奥行き 29
 台石1段目幅 46 / 奥行 45
 台石2段目幅 64 / 奥行 64
 台石3段目幅 81 / 奥行 84

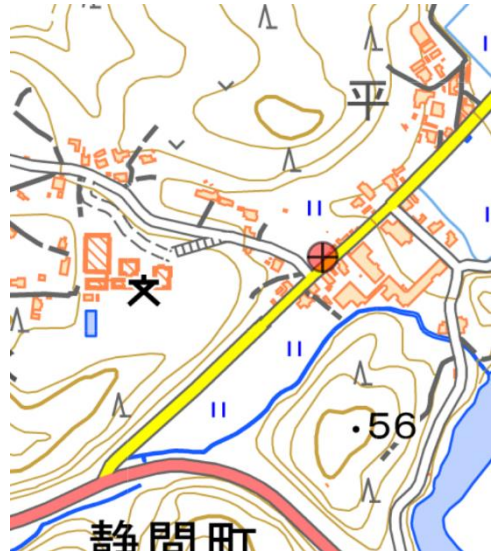
〔調査の経過〕
 県道の静間小学校入口の三差路の県道沿いに地藏堂とともに立つ。県道の向いには静間まちづくりセンター、静間保育園がある。碑は地藏堂と並んでコンクリートの上に立っており、黒っぽい石で傷みはない。以前に平の皆さんが建てたものを、昭和18年に楠屋さんが再建したということだろう。

〔碑石前面〕 泰雲院殿義岳良忠大居士
 〔碑石右面〕 享保十八癸丑年五月廿六日 / 昭和十八年十二月再建 / 楠屋
 〔碑石左面〕 當御料御代官 / 井戸平左衛門正嗣
 〔1段目台石前面〕 平部落

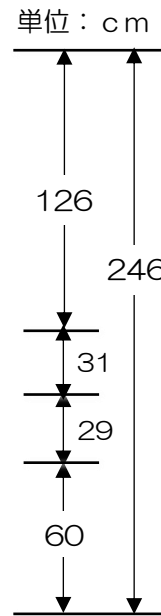
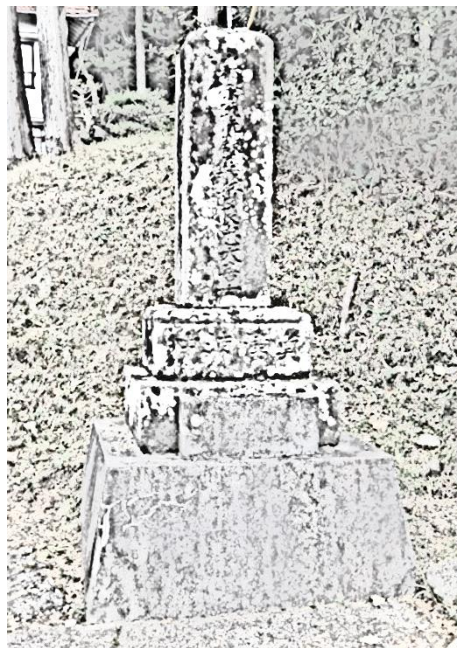
〔建立年〕 昭和18年（1943）再建
 〔建立者〕 楠屋（平部落）

（調査日2020年11月20日）

碑の前に花立てと線香立てがあり、その前に竹の花立てもある。調査日には両方の花立てに菊の花が生けられており、地域の方がこの碑を大切にしている様子がうかがえた。



所在地 大田市静間町魚津（実際は垂水地内）市道四つ角
 北緯 35° 12' 08.93" / 東経 132° 27' 30.70"

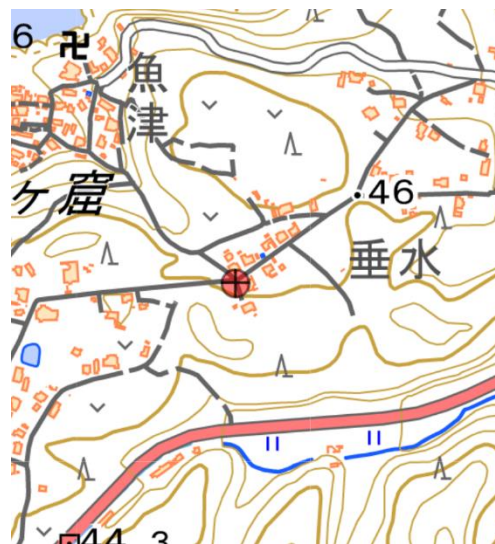


碑石幅 39 / 奥行 39
 台石1段目幅 69 / 奥行 69
 台石2段目幅 88 / 奥行 88
 台石3段目幅 136 / 奥行 134

（調査日 2020年 11月 20日）

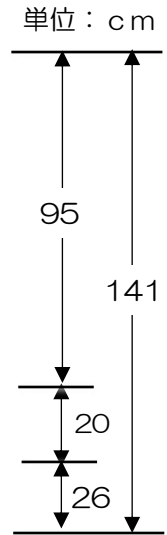
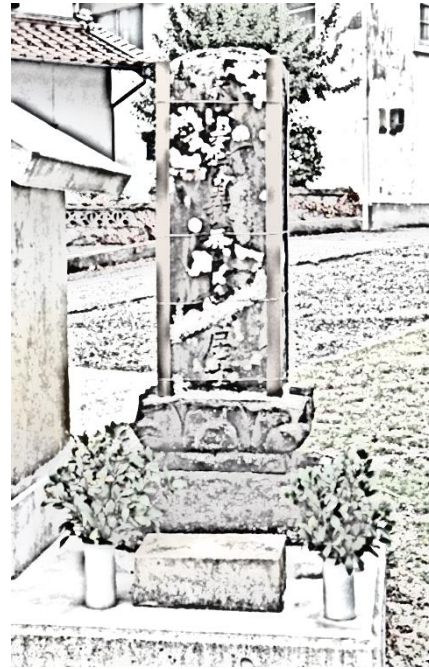
「調査の経過」
 静間小学校から垂水へ上がり、魚津へ降りる四つ角に立つ。地元の人のお話によると場所は垂水になるといい、魚津からここに移設されたらしい。台石2段目後面の「垂水中」の文字は小さく、「ここに移設したのは垂水の住民」という意か。石工さんはかなり几帳面な人だったようで、碑石、台石とも幅と奥行きが全く同寸法だ。3段目のコンクリートには中に石組が入ったままであり、崩れるのを防ぐためにカバーしたという。比較的傷みは少なく、文字もまだ読める。

- 【建立年】不明
- 【建立者】魚津浦中（垂水中）
- 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士
- 【碑石右面】享保十八癸丑年 / 五月二十六日
- 【碑石左面】當御料御代官 / 井戸平左衛門尉正朋
- 【一段目台石前面】魚津浦中
- 【一段目台石裏面】垂水中
- 【二段目台石左面】波根 / 石工 / 善藏 / 勘四郎



【30】大田市静間町新田 (宮本 大23/ロータリー27) 泰雲院義岳良忠居士

所在地 大田市静間町新田 静間橋近くの新道沿い 地藏堂隣
 北緯35°12'26.54" / 東経132°28'11.54"



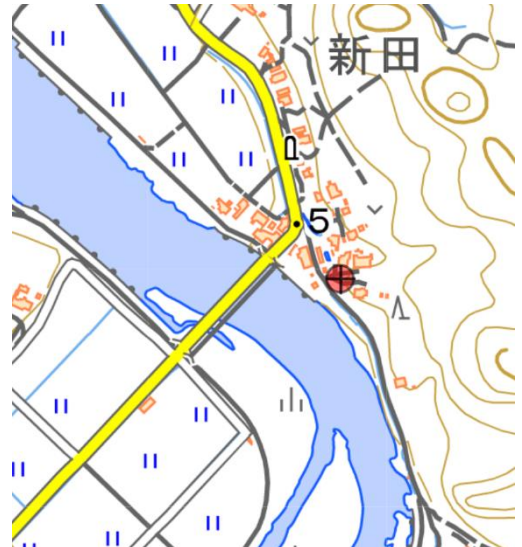
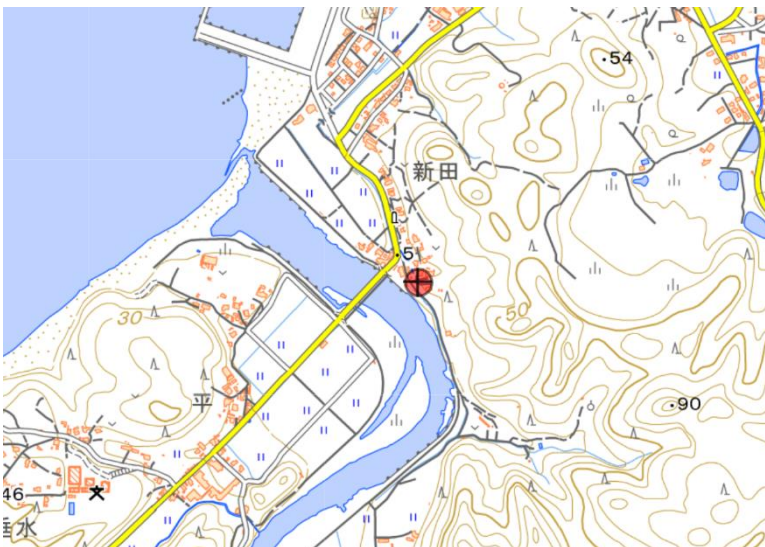
碑石幅 33 / 奥行き 30
 台石1段目幅 50 / 奥行 50
 台石2段目幅 80 / 奥行 57

〔調査の経過〕
 静間橋のたもと、川の右岸から国道9号への新道の建設に当たり、一時道路の向いに移設してあったが、道路の完成により地藏堂とともに元の位置に戻った。工事が始まるまいぶん前から、碑石の下部で斜めに割れていて補修してあった。工事移動で壊れる恐れがあったが、4辺を木材で副え木して仮置きしてあった。現在は色と見栄えを考慮してアルミのアンクルで添え木してある。理想的な形ではないが、保存しないことを考えると、残していただいでよかった。今でも碑の前の花立てには新鮮なシビキ(シキミ)が供えてあり、姿形よりも、地域の皆さんがこうして見守っていただくの方が大切なことに思われる。

〔建立年〕不明
 〔建立者〕新田中

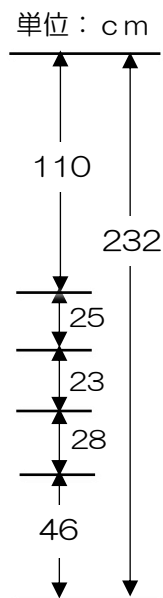
〔碑石前面〕泰雲院義岳良忠居士
 〔碑石右面〕施主 新田中
 〔碑石左面〕……平左衛門 / 享保…… / 於備中國笠……
 〔台石ほか〕文字なし

(調査日2020年11月20日)



【31】大田市静間町和江 大年神社北隣 (宮本 大 24/㊦-㊦-28) 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市静間町和江 大年神社北隣 地藏堂前
 北緯 35° 12' 47.39" / 東経 132° 28' 08.61"



碑石幅 39 / 奥行 38
 台石 1 段目幅 58 / 奥行 56
 台石 2 段目幅 79 / 奥行 78
 台石 3 段目幅 103 / 奥行 103
 台石 4 段目 (石組) 最大幅 139 / 奥行 155

【建立年】天保 12 年 (1841)
 【建立者】和江浦中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士
 【碑石右面】享保十八年癸丑五月廿六日
 【碑石左面】當御料前御代官 / 井戸平左衛門正明
 【碑石裏面】天保十二年 / 辛卯十月 / 建之
 【二段目台石前面】和江浦中
 【三段目台石前面】世話人 / 吉野屋 / 廣右衛門 / 網屋 / 圓平 / 山田屋 / 市兵衛
 【三段目台石左面】亀屋住吉丸 / 傳兵衛

〔調査の経過〕
 和江の住宅地にある大年神社の北隣の大きな地藏堂の前に立つ。碑の材質は三谷晃氏の「大田碑石散歩」には御影石とある。磨いてないのでそれらしく見えませんが、最近建てたかのように端正な姿を残している。写真に見える神社の玉垣の柱も同石材。大田市内ではかなり古い方の碑で、碑文面が彫りこんであり、4段目の石組の台石には角に反りの加工もあって、ていねいな造りの碑だ。
 (調査日 2020 年 11 月 20 日)

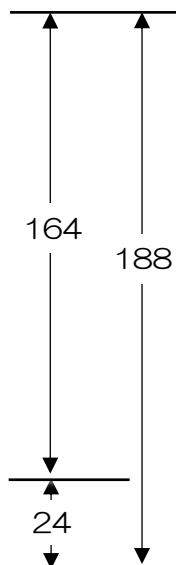


所在地 大田市五十猛町湊 共同墓地入口

北緯 35° 11' 39.94" / 東経 132° 26' 44.92"



単位：cm



碑石最大幅 62 / 奥行最大 60
台石 幅 114 / 奥行き 63

【建立年】不明
【建立者】不明

【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士塔
【碑石右面】享保十八癸丑年 / 五月二十六日

【碑石左面】當御料前御代官井戸平左衛門尉正明
【台石】なし

【調査の経過】

共同墓地は湊地区のJR山陰線のすぐ南側にあり、その入口に「謝恩碑」とともに墓地のモニユメントのように立っている。台石の左右の石は、二つの碑を囲むように置いたものだろう。台石の前には陶器の花立てが埋められ、碑石の前には湯飲み茶わんもあるので墓参に来た人が花を供えることもあるのだろう。宮本調査の写真と比べて傷みが進んで倒れるのを防いでいるようだ。

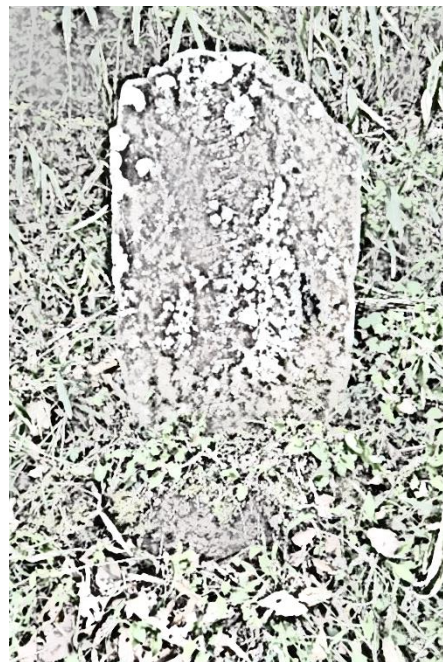
隣の謝恩碑は、宮本氏は「井戸公碑ではない」とメモしながらも「大34」と番号を与えているが、碑石に「謝恩碑 / 吉原□□ / 田中□□」「天明八甲三月」「安政三丙辰六月建之湊中」とあり、天明年間に功績のあった2人に対する謝恩碑を安政3年に建てたものと思われる。井戸公碑からは外すことにする。

(調査日 2020年4月22日)

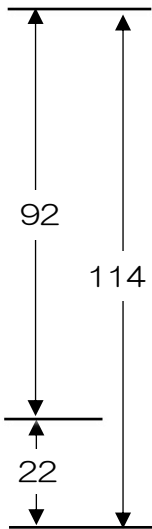


【33】 大田市五十猛町地頭所 (宮本 大 33/㊦-㊦-37) 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市五十猛町地頭所 市道と里道の三差路の法面の土約1㊦の場所
 北緯35° 10' 34. 22" / 東経132° 26' 37. 99"



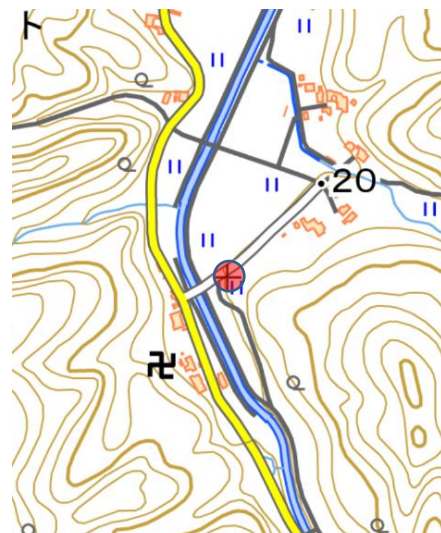
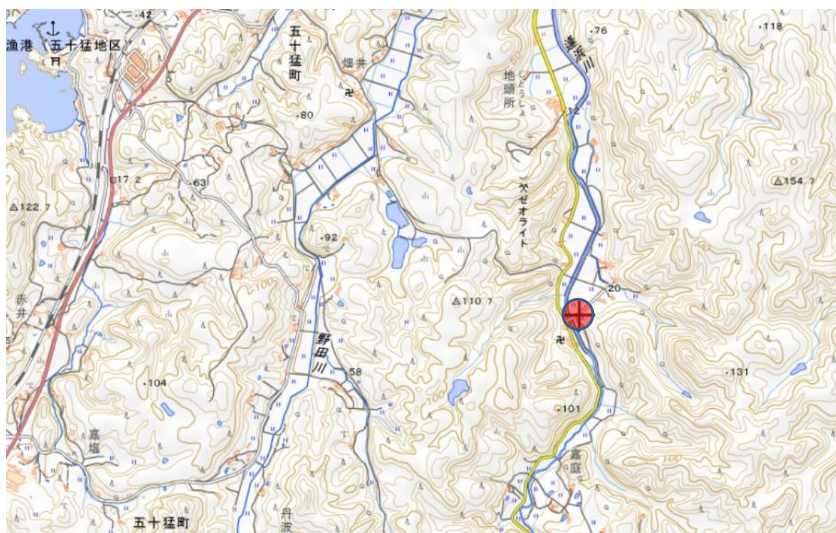
単位：cm



碑石最大幅 60 / 奥行最大 30
 台石 幅 70 / 奥行き 66

(調査日 2020年4月22日)

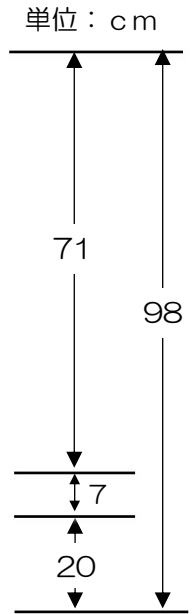
【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【その他】なし
 【台石】なし
 【調査の経過】
 宮本調査資料を見ながら近くまで行ったが発見できず、近くで草刈りをして見えた男性に尋ねると「草に隠れて見えないが」と場所を教えてくれた。草と笹に覆われて下の道路からはあまり見えず、草刈りをして見えるようにした。頭部が欠けているように見えるが、最初からこの形の自然石だったと思われる。正面の文字以外は何も文字がないように、正面の文字も浅く、ゆがんでおり、もしかしたら素人が彫ったものかもしれない。宮本調査では台石の下離れた場所に小さな石があつて文字が見えそうなので、そこに何か彫つてあるかもしれない。法面の土がずれてきて後部はほぼ埋まつており、台石の採寸も難しかった。



所在地 大田市五十猛町嘉庭 観音堂下

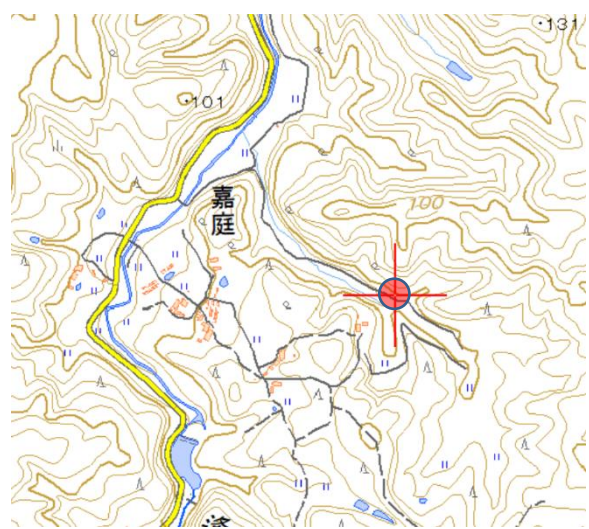
北緯35°10'10.13" / 東経132°26'50.43"

軟らかい石で文字はかなりの消えており、碑石の下部は欠落している。2段の台石の上の中央にあったと思われるが、下部が欠落して倒れたため、どなたかが右の岩に沿って建てかけたのだろう。後部をレンガ状の石で支えてある。宮本氏の写真には碑石の前に花立があつたが、その調査後に現在の状態になったのだろう。



碑石幅 25、奥行き 25
 台石1段目 幅62、奥行き52
 台石2段目 幅78、奥行き55

【建立年】弘化4年（1847）
 【建立者】川北連助（宮本資料）世話人 松原
 「碑石前面」……良忠居（以下欠落）
 「碑石右面」享保十八癸丑五月（以下欠落）
 「碑石左面」弘化四年七月建□／世話人／松原（以下欠落）
 「調査の経過」宮本台帳には大田32として存在するがロータリー調査では「未確認」としている。観音堂を知っているという五十猛町の松原さんに案内を依頼し、長尾英明五十猛まちづくりセンター長ほか4人、市文化協会の縄田事務局長とで現地調査。県道の、山陰道の橋脚工事現場付近に駐車して山の中を約1キロ進むと、岩場の石を加工して場所を作り、道路から約4段上に建てられていた。私たちが歩いた道は昔の往還道で、大屋町に続くという。竹が生えて歩きにくい田の跡が随所に残り、人の営みを感じられた。小川に沿って道が続き、観音堂に上がる分かれ道の上に建っていた。
 （調査日2019年4月17日）

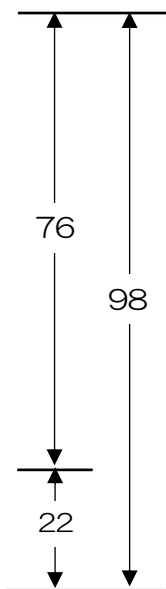


【35】大田市五十猛町野梅 (宮本 大 31/ロ-列- 35) 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市五十猛町野梅 林定直氏宅裏山 賽の神の隣
 北緯 35° 10' 54.97" / 東経 132° 25' 48.07"



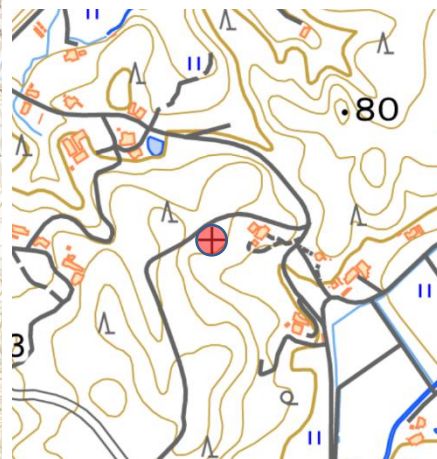
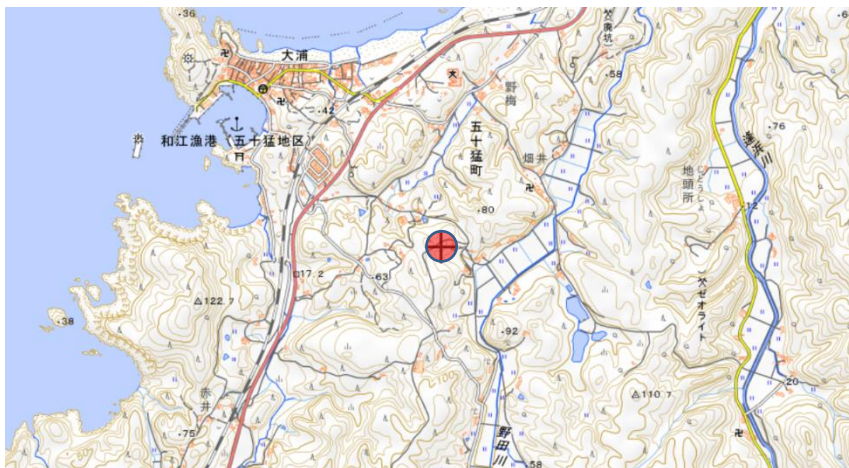
単位：cm



碑石 幅 27 / 奥行 27
 台石 幅 45.5 / 奥行 45

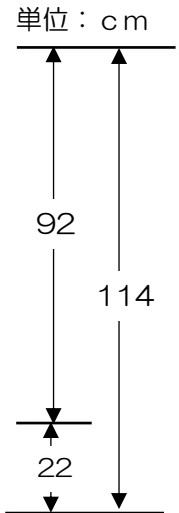
(調査日 2020年4月27日)

【建立年】不明
 【建立者】野梅・畑井
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八癸丑年五月廿六日
 【碑石左面】井戸平左衛門尉正明
 【台石右面】野梅／畑井
 【調査の経過】
 場所がわからず、長尾五十猛まちづくりセンター長に教えてもらった。
 つつじをたくさん植えている林定直氏宅裏山に賽の神と並んで立っている。この場所は五十猛と大森との往還道といい、往來の安全を祈願した賽の神と一緒に建てられたのだろう。ただし、周囲は平成になってから再整備されたようで、黒御影の説明板が2枚設置されていて、その1枚が井戸公碑の前面を塞ぐ場所に建てられている。宮本調査にはもう1段台石があったようだが、撤去されている。下部はコンクリートできちんと舗装、強化されているが、碑石は福光石で一部剥離がある。



【36】大田市五十猛町丹波 (宮本 大 30/ロー列-34) **井明府君碑**

所在地 大田市五十猛町丹波 国道9号大浦入口点滅信号から南進 細い道との四つ角
 北緯 $35^{\circ} 10' 43.80''$ / 東経 $132^{\circ} 25' 46.90''$

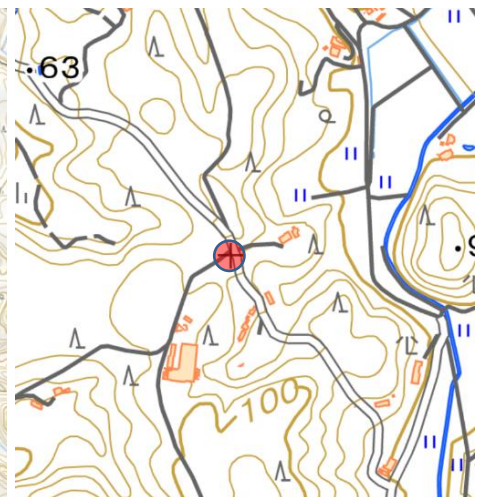
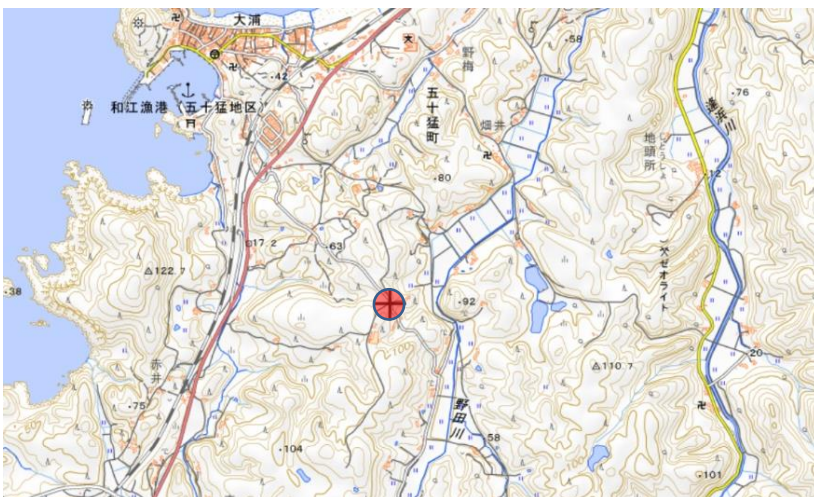


碑石 最大幅 60 / 奥行き最大 30
 台石 幅 75 / 奥行 48

(調査日 2020年4月27日)

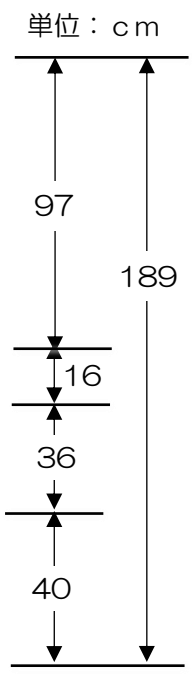
【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】井明府君碑
 【その他】なし

〔調査の経過〕
 場所がわからず、長尾五十猛まちづくりセンター長に教えてもらった。
 国道9号の「大浦入口」点滅信号から南に入りゆるやかな上り坂を進んだ峠付近の、細い道との交差点の法面に建つ。
 石碑の前に石の線香立てと、一對の陶器の花立てがあり、シビキ(シキミ)が供えてあった。
 宮本調査時には台石がもう2段あるように記録があるが、自然石の台石が1段だけである。前に石が並べられているので、崩壊した台石の石なのかもしれない。



【37】大田市五十猛町赤井 (宮本 大28/ロ-列-32) 井戸公之碑

所在地 大田市五十猛町赤井 国道9号近くの市道沿い 地藏堂隣
 北緯35°10'41.22" / 東経132°25'22.42" (国土地理院)

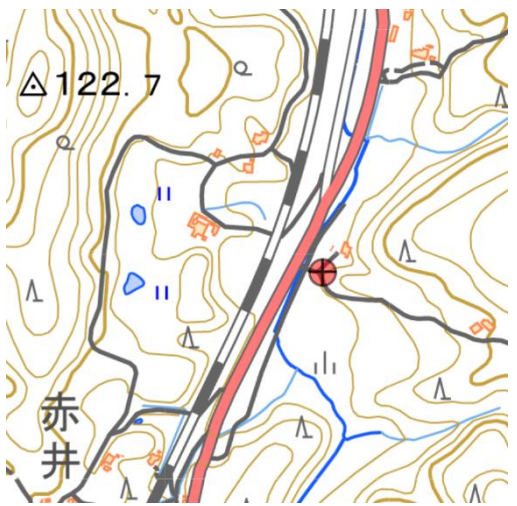


碑石最大幅 70 / 奥行最大 33
 台石1段目最大幅 85 / 奥行き最大 80
 台石2段目幅 43 / 奥行 43
 台石3段目幅 73 / 奥行 72

〔調査の経過〕
 国道9号の東側約30㍎の地点で、国道からよく見える。市道のカーブの空き地に地藏堂と並んで建つ。特徴的な碑の形で、台石の2段目3段目はコンクリート製。自然石の碑石と1段目の台石が宙に浮いたように見える。碑石はしつかりした石で、表裏の碑文はよく読める。前に花立てがあり、季節ごとに花が供えられていて、地域の皆さんが大切にしている様子がうかがえる。
 碑石裏面の「元碑壊破」は再建するために壊したという意味ではなく、壊れたため再建したとの意だろう。後ろに旧碑の碑石が横たえられており「享保十八癸年丑五月二十六日」が読める。

〔建立年〕昭和3年(1928) 再建
 〔建立者〕赤井區立
 〔碑石正面〕井戸公之碑
 〔碑石裏面〕享保十八年五月二十六日 / 元碑壊破 / 昭和三年九月再建
 〔台石〕なし

(調査日2020年11月20日)
 (写真2014年2月12日)

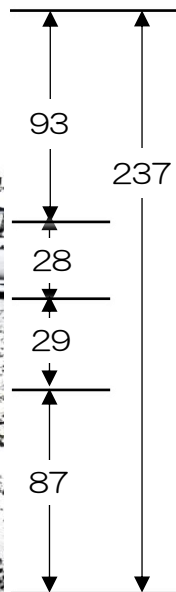


所在地 大田市五十猛町大浦 浄圓寺墓地入口

北緯 35° 11' 13.87" / 東経 132° 25' 23.80"



単位：cm



碑石幅 37 / 奥行 36
 台石 1 段目幅 59 / 奥行き 58
 台石 2 段目幅 83 / 奥行き 78
 台石 3 段目 (石組) 最大幅 206 / 奥行き最大 183

(調査日 2020年 11月 20日)

〔調査の経過〕
 大浦の港の近くにある浄圓寺。広い境内と本堂の後ろの斜面に墓地が広がっており、その入り口にあたる場所に井戸公碑がある。建立年は彫っていないが、白っぽくて堅そうな石で傷みはなく、彫ってある字も読みやすい。「泰雲院」が「泰運院」になっていたり、「正明」でなくて「保明」になっていた。正面にある花立てと線香立ては後から設置したらしく、それらが隠している2段目の台石にも刻字がある。碑の手前の流し台や、横にあるペットボトルは、井戸公碑のためというよりも、この上にある墓地にお参りする人たちが使うためのものと思われる。

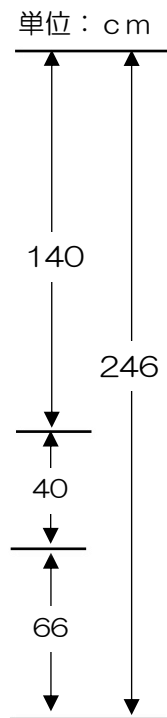
〔建立年〕 不明
 【建立者】 大浦湊中
 〔碑石前面〕 泰運院殿義岳良忠大居士
 (右に) 享保十八癸年(左に) 丑五月廿六日
 〔碑石右面〕 俗性 / 井戸平左衛門尉保明
 〔碑石左面〕 施主 / 大浦湊中
 〔一段目台石前面〕 世話人中 / 荒木 / 善右工門 / 松尾 / 弥助 / 林儀助
 〔二段目台石前面〕 勝川屋 / 善平船 / 來 / 福重丸



【39】大田市大屋町尾波 (宮本 大39/マ-タリ-43) 井戸明府之碑

所在地 大田市大屋町尾波 中尾波自治会館前

北緯35°08'56.42" / 東経132°26'56.34" (国土地理院)

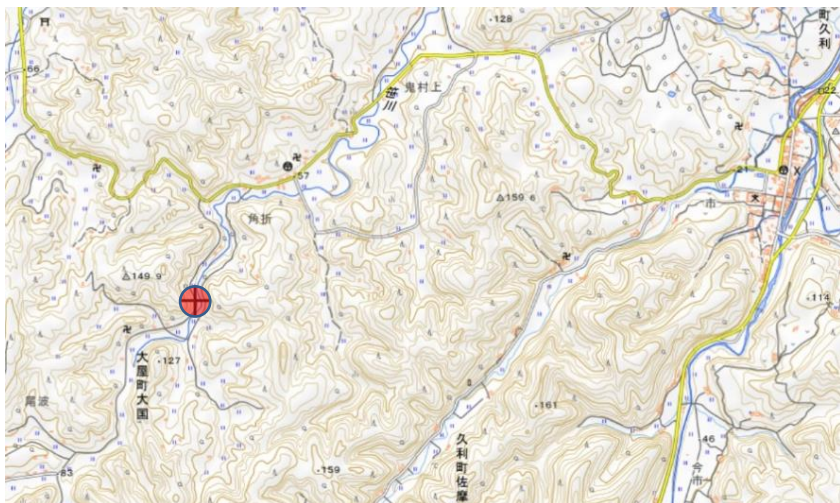


碑石 最大幅 71 / 奥行き最大 50
 台石1段目 幅 122 / 奥行 63
 台石2段目 幅 120 / 奥行 90

(調査日2020年4月23日)

【調査の経過】
 県道の尾波口バス停から入り、集落が始まる場所の三差路に地藏堂とともにある。川を挟んだ向かいには中尾波自治会館がある。周囲はきれいに手入れされ、石碑前には白い花が咲き、右側にはツツジの木もある。竹の花立てには野の花(キンポウゲ)が供えてあった。地域の皆さんに大切にされていることがうかがえる碑だ。

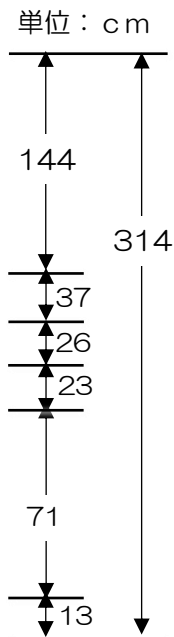
【建立年】大正13年(1924)再建
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸明府之碑
 【碑石左面】大正十三年十一月再建
 【その他】なし



【40】大田市大屋町鬼村 (宮本 大38/マ-タリ-42) 欣澤碑

所在地 大田市大屋町鬼村 県道沿い

北緯 35° 09' 47.62" / 東経 132° 27' 25.27"

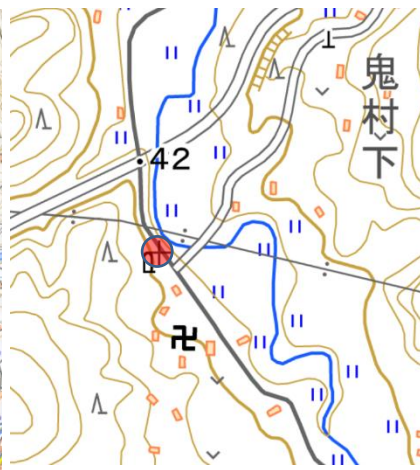


碑石 最大幅 56 / 奥行最大 33
 台石1段目 最大幅 153 / 奥行最大 116
 台石2段目 幅 91 / 奥行 91
 台石3段目 幅 115 / 奥行 115
 台石4段目 幅 166 / 奥行 166
 台石5段目 幅 308 / 奥行不明

〔調査の経過〕
 大屋から五十猛に抜ける県道沿いに広い場所をしつらえ、大きな石灯笼と手水鉢と思われる(現在は壊れている)構造物が残る。碑石だけで144センチあり、5段の台石の上に乗る堂々たる石碑。国土地理院地図にも石碑のマークが記されているほど。一番下の台石は高さは13センチと低いが、幅は308センチもあり、碑を大きく取り巻く。石碑に彫った文字は「欣澤碑」の3文字だけ。大正15年に再建した当時の地域の皆さんの意気込みの大きさが感じられる。それだけに、建立した皆さんの情報が彫られていないのが残念だ。碑の後ろに再建前の旧碑が寝かせてある。

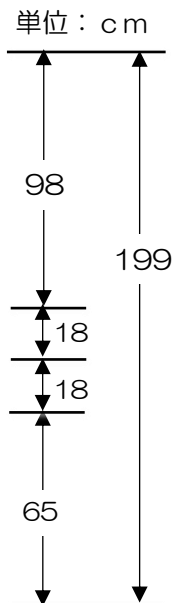
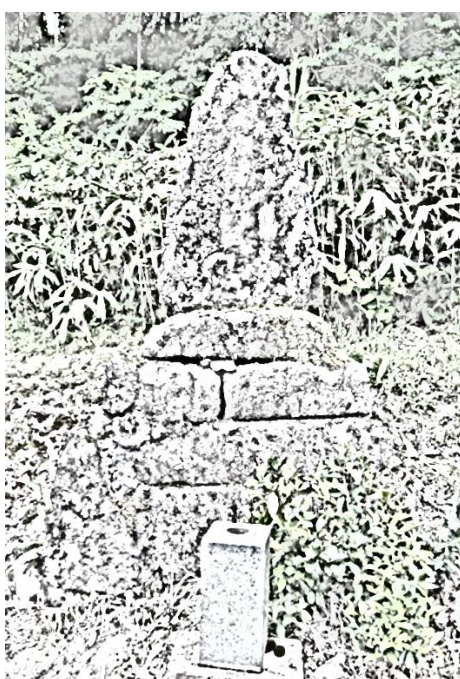
〔建立年〕 大正15年(1926)再建
 〔建立者〕 不明
 〔石碑前面〕 欣澤碑
 〔石碑右面〕 井戸平左衛門尉正明公
 〔石碑左面〕 大正十五年十一月再建
 〔その他〕 なし

(調査日2020年5月22日)



【41】大田市大屋町菰口 (宮本 大40/マ-タリ-44) 泰……忠居士

所在地 大田市大屋町菰口 細い市道沿い
 北緯 35° 09' 36.99" / 東経 132° 26' 11.00"

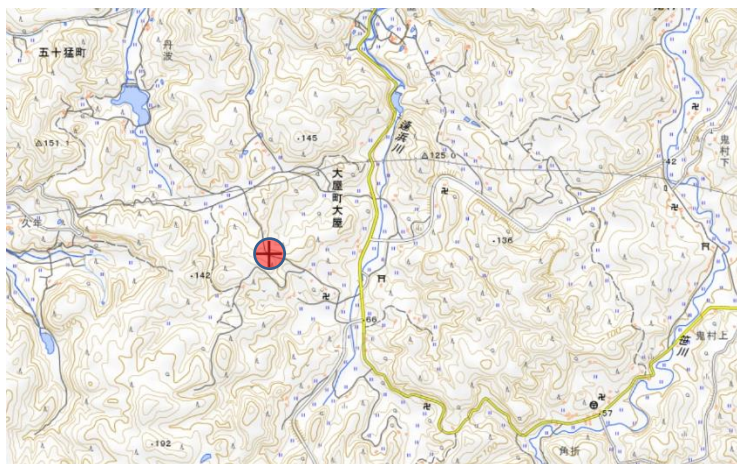


碑石 最大幅 60 / 奥行き最大 41
 台石1段目 幅 66 / 奥行 66
 台石2段目 幅 85 / 奥行 88
 台石3段目 最大幅 118 / 奥行最大 115 (石組)

〔調査の経過〕
 大屋町から五十猛町丹波へ通じる旧道の脇に、第26代代官天野助次郎の頌徳碑と並んで立っている。右隣に立つ天野代官の石碑も文字が読めないが、この碑も全く文字が読めない。硬そうな石に見えるが、彫りが浅かったのかもしれない。碑銘は宮本調査の記録を採用した。道路沿いの高手に平らな場所を作って2つの石碑が建ててある。現在は周囲に民家は建っていないが、今でも周囲は手入れされている。碑の前には新しそうなお石の花立てもあり、今も変わらず地域の皆さんに大切にされていることがうかがえる。

〔建立年〕不明
 〔建立者〕不明
 〔碑石前面〕不明 (宮本調査では「泰……忠居士」となっている。
 〔碑石左面〕なし
 〔その他〕なし

(調査日 2020年5月22日)



【42】大田市久利町市原 流水氏宅（宮本 大37/㊦㊱-41） 井戸公之碑

所在地 大田市久利町市原 元正善坊 流水善正氏宅庭
 北緯35° 08' 25.70" / 東経132° 28' 15.03"



単位：cm

90

碑石最大幅60/奥行き最大25

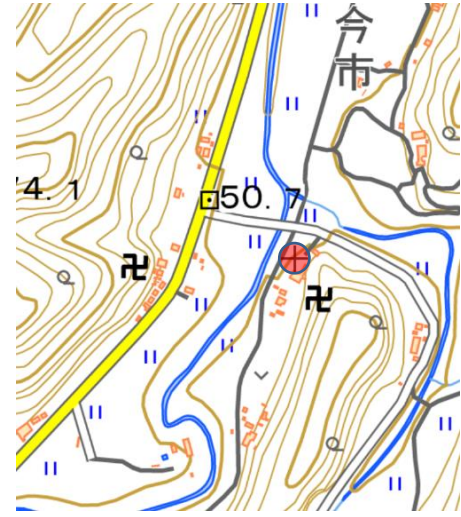
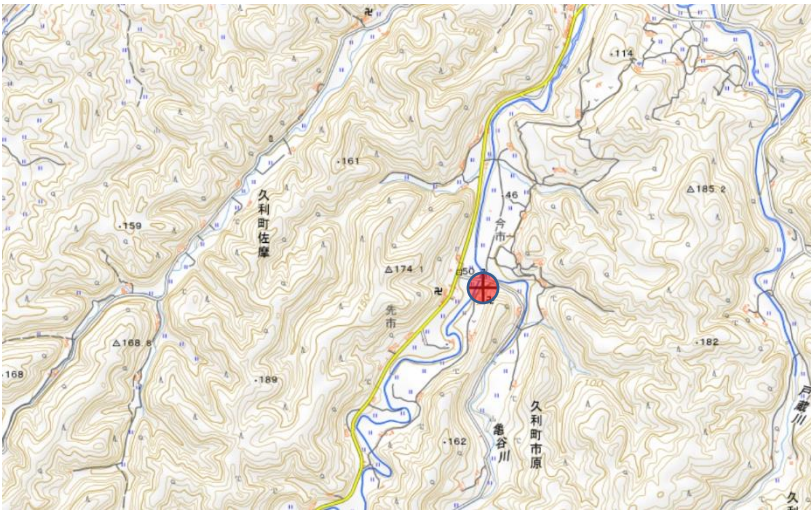
【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】（家紋）井戸公之碑
 【その他】文字なし

〔調査の経過〕
 主要地方道大田桜江線の亀谷口バス停から東に入るとすぐにある正善坊前橋を渡った右手が流水氏宅。以前は正善坊という寺院だった。その庭に立ち木に立てかけるように碑石が置いてあり、正面に井戸公の家紋である丸に違い鷹の羽紋と「井戸公之碑」の文字がある。どちらも彫りは浅いが、硬い自然石のため比較的鮮明に残っている。家紋が彫られている井戸公碑は珍しく、大田市内では唯一と思われる。

正善坊だった時代には別の場所
 にあり、台石もあったのではな
 いかと思われるが、現状ではほ
 かに文字が全くなく、建立年や
 建立者の情報がない。

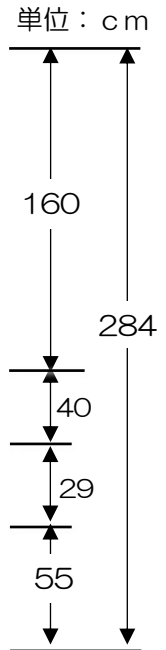
【注】建立場所は現在個人の宅
 地内なので、訪問の際には流水
 善正氏の許可が必要。

（調査日2020年5月22日）



【43】大田市久利町赤波 (宮本 大 36/マ-タリ- 40) 井戸公之碑

所在地 大田市久利町赤波 市道沿い 戦没者之碑と並んで立っている
 北緯 35° 08' 43.88" / 東経 132° 27' 39.02"



碑石最大幅 72 / 奥行き最大 40
 台石 1 段目幅 110 / 奥行 76
 台石 2 段目幅 126 / 奥行 93
 台石 3 段目幅 179 / 奥行 85

【建立年】大正7年(1918)再
 建 旧碑は嘉永4年(1852)
 【建立者】世話人

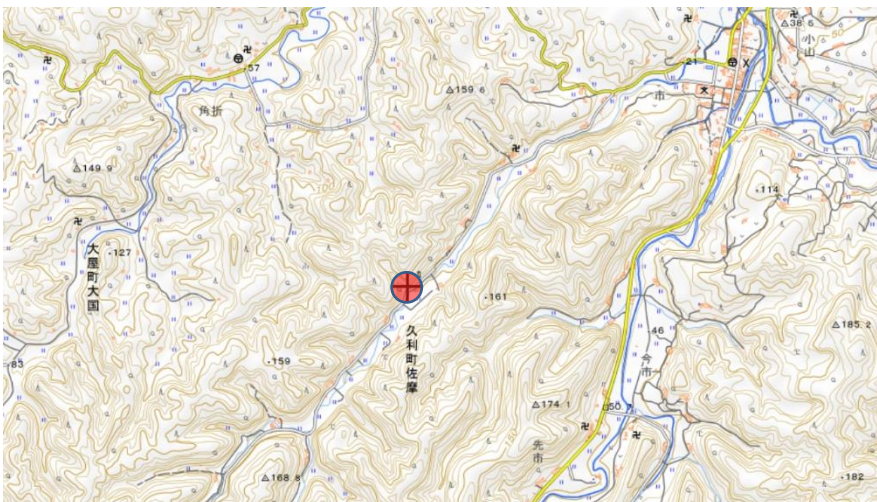
【碑石前面】井戸公之碑(左側に)
 正五位勲四等西村保吉謹書

【碑石右面】嘉永四年 / 創設者杉
 谷喜右衛門 / 大正七年十一月建
 立

【碑石左面】世話人 / 清水直義 /
 山崎要一
 【台石】なし

【調査の経過】
 県道から赤波方面に向かいしば
 らく進むと道路右側にある。道
 路沿いの岩盤を高さ約1mで平
 らに加工し、井戸公碑と「戦没者
 之碑」の二つが並んで立ってい
 る。台石3段目に花立てを差し
 込む穴が加工してあり、竹の花
 立てが立ててあった。
 痛みも少なく、きれいな状態で
 残っている。

(調査日 2020年4月23日)



【44】大田市大森町昭和 井戸神社（宮本 なし/ロータリー46） **井戸神社**

所在地 大田市大森町昭和

北緯35° 07' 11.90" / 東経132° 26' 53.09" (国土地理院)



扁額は勝海舟書



【建立年】大正5年（1916）
 【建立者】井戸神社興復会

〔調査の経過〕
 井戸神社は元は現在の場所の北側、川村氏宅の隣（現井戸さん広場の場所）に、大森町戸長、川北徹蔵や町の有力者松原小兵衛らが発起人となり、有志から浄財を募って、明治12年に創立された。まだ無格社だったが、5月26日の鎮祭は出雲大社の千家尊福宮司が斎主となつて執り行われた。

明治23年から、神社の一部を削る形で国道が建設されたため、境内が非常に狭い状態になった。井戸公に従四位が贈られた翌年の明治44年、衆議院議員、恒松隆慶が興復会長に就任して精力的に寄付金を募集し、同年6月に地鎮祭を行い、大正5年4月に現在の場所に完成、遷座奉祝祭を行った。大正7年5月7日には県社に昇格。現在でも毎年5月と11月の2回、例大祭が行われている。

境内には「井戸公顕彰碑」「恒松君頌功碑」「松浦屋与兵衛之碑」があるほか、次の通り多くの灯籠が奉納されている。明治12年 安井好尚 嶋根県巡查数名 / 大正6年 岸本房太郎 / 昭和55年 恒松隆慶（幸）

扁額は勝海舟が書いたもの。これは明治時代に貴族院議員だった物部神社の金子有郷宮司が依頼したとも、産業、教育に功績があり、初代の井戸神社創建にも尽力した仁摩町大国の安井好尚の働きかけだったとも言われる。昭和57年の没後250年祭に金森丈兵がコンクリート製の鳥居を奉納した際に外され、石見銀山資料館で保管。現在はレプリカを掲示している。

鳥居は2018年4月の島根県西部地震で傷んだため、2年後の令和2年、時の総代松葉大吉らによって京都産の檜で再建された。

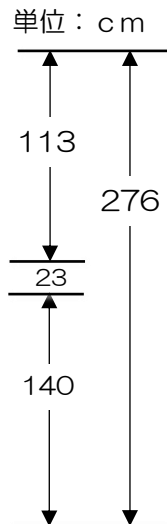
（調査日2020年5月22日）



【45】大田市大森町昭和 井戸神社 (宮本 大 43/口-列-48) **井戸公顕彰碑**

所在地 大田市大森町昭和 井戸神社境内

北緯 35° 07' 11.94" / 東経 132° 26' 52.23" (国土地理院)



碑石 最大幅 149 / 奥行き 5
 台石 最大幅 237 / 奥行最大 141

【建立年】昭和 57 年 (1982)
 【建立者】わかさの会

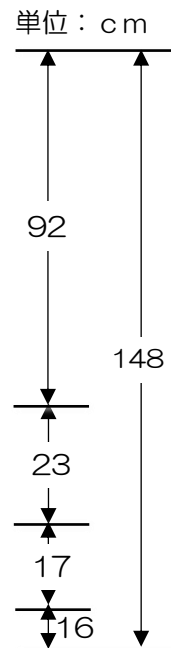
「碑石前面」井戸公顕彰碑 / 時は徳川の中期將軍吉宗の頃 / 當時全国をおそった享保の大飢 / 饑に石見銀山領二十万人民の / 窮乏はその極に達し正に餓死の / 一步寸前をさまよつてゐたが時の / 大森代官井戸平左衛門正明公は / 食料対策百年の計をたてこの地方 / に初めて甘藷を移入その栽培奨励 / に力を注ぎ一方義金の募集公租の / 減免を断行遂には独断で幕府 / 直轄の米倉を開くなど非常措置 / により一人の餓死者も出さなかつたといふ / この深い慈愛と至誠責任を貫い / た偉大なる善政は千古に輝き今 / も尚いも代官様と敬慕して / 公のみたまをこの地に祀りその遺徳 / を永く顕彰してゐる

「台石前面」恩は石に刻め / 井戸公は私したち先祖の / いのちを救ふて頂いた恩人 / である。 / 私したちの先祖があの時餓 / 死してゐたら子孫はない。 / 先祖も子孫も共に救ふて / 下さった大恩人である。 : : と / 感知せしめられたとき / 報恩感謝の心が脉々 / とふきあがる。 / この聖き発想で恩は石に刻む / の至純な心で石ぶみを建て / 井戸公のみたまにささげ / たて / まつる。 / 二百五十年祭記念 / わかさの会

「調査の経過」
 井戸神社総代だった故川村政経氏によると、わかさの会は川本町の団体で、台石は戦前まで神馬が乗っていた台で、供出してなくなつたため、ここにこの石碑が建てられたという。
 境内にはほかに恒松隆慶の「恒松君頌功碑」と「松浦屋与兵衛之碑」がある。
 (調査日 2020 年 5 月 22 日)



所在地 大田市大森町上佐摩上 尾川嘉輝氏宅左手の高手
 北緯 35° 06' 40.25" / 東経 132° 27' 13.74"



碑石 幅30/奥行24
 台石1段目 幅45/奥行51
 台石2段目 幅69/奥行75
 台石3段目 幅82/奥行88(コンクリート製)

【建立年】安政3年(1856)
 【建立者】上組中

【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】安政三丙辰年九月造之
 井戸平左衛門正明
 【碑石左面】享保十八癸丑年/五月廿六日

【一段目台石前面】石工/常七
 【二段目台石右面】上組中
 【一段目台石裏面】百姓代/柳助/頭
 百姓/市平/庄屋/逢助

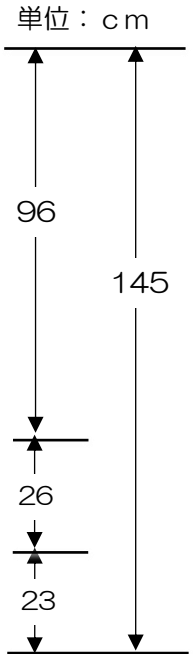
【調査の経過】
 大森町の町並みの外れの、新しい県道に出る手前の高手にある。大森町内で地域住民が建てた頌徳碑としては唯一のもの。
 3段目の台石が崩れて碑全体が傾いていたが、平成22年に上佐摩自治会によってコンクリート製の台石が作られた。その時と思われるが、台石の角度が90度変わり、正面にあるはずの「上組中」の文字が右側になっている。台石2段目、3段目も幅より奥行きが長いので、元は碑石が右を向いていたのかも。
 碑の周囲は比較的きれいで、道路から上がる石段もブロックで作られ、前には線香置き、塩ビパイプ製の花立てもあり、地域の人が大切にしている様子がうかがえる。
 (調査日2020年5月22日)



【47】大田市水上町白坏高津上 肥田氏宅裏 (宮本 大46/□-列-52) 泰雲院殿義……土位

所在地 大田市水上町白坏高津上三差路前 肥田氏宅裏

北緯 35° 04' 49.00" / 東経 132° 27' 34.50" (国土地理院)

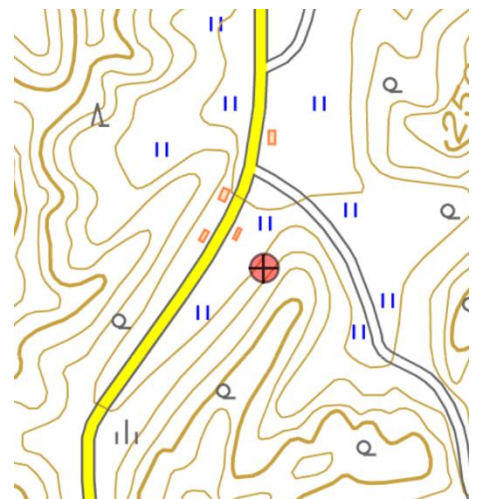


碑石 幅 32 / 奥行き 32
 台石1段目 幅 56 / 奥行 45
 台石2段目 幅 82 / 奥行 78

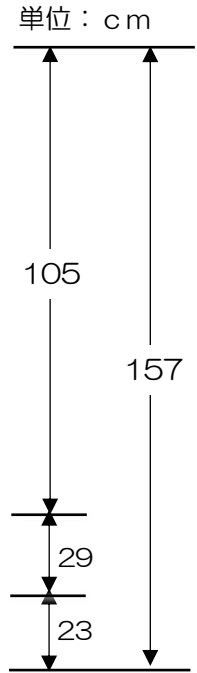
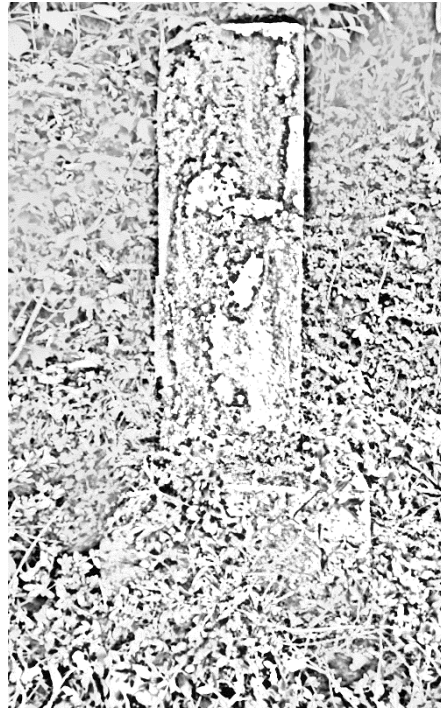
(情報は宮本調査、写真は中田俊光氏が平成初期に撮影分を使用)

〔調査の経過〕
 左隣に別の碑も2基建っているが、民有地のため無断で入ることができず、草に覆われていて、手前に小川もあるため調査を断念し、宮本調査台帳の情報を使った。写真は水上町の中田俊光氏が平成の初めごろに撮影された写真を使わせていただいた。
 2020年現在、碑は存在しているが、遠望すると碑石の前面の文字が読めなくなっているように見える。

- 【建立年】不明
- 【建立者】當村中
- 〔碑石前面〕泰雲院殿……土位
- 〔碑石右面〕享保十八年癸丑年/五月廿六日
- 〔碑石左面〕大森前御代官井戸平左衛門正明
- 〔台石〕施主/當村中/惣百姓/百姓代/三九郎/頭百姓/助十郎/庄屋/文左衛門



所在地 大田市水上町三久須 森山商店横 武間氏宅向いの高手
 北緯 35° 05' 18.33" / 東経 132° 27' 29.99"

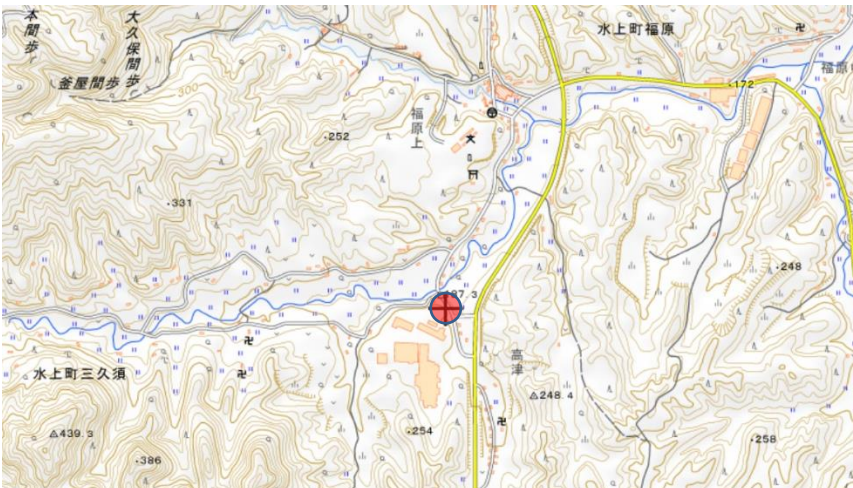


碑石 幅 35 / 奥行き 25
 台石 1 段目 幅 59 / 奥行 50
 台石 2 段目 幅 85 / 奥行 76

(調査日 2020年5月22日)

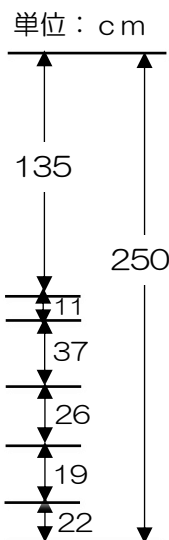
「調査の経過」
 旧県道の公民館近く、森山商店横の高手に陸軍兵士の碑と並んで立つ。周囲はツツジが植えられていて公園のようになっていた。2012年の調査では「良忠」も判読できたが、今回は剥落して読めなくなっている。特に碑石の傷みが激しく、傷み方が大代町の石碑の傷み方と似ている。碑石に比べて台石の傷みは少なく文字がしっかりと読めた。

【建立年】嘉永7年(1854)
 【建立者】三久須中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良□□居士
 【碑石右面】享保十八年癸丑年/五月廿六日逝去
 【碑石左面】御代官/井戸平左衛門正朋
 【一段目台石前面】(上部に横書きで)施主三久須中(その下に縦書き)嘉永七甲寅/十月建之/庄屋義助/見習辰二良/頭百姓三右エ門/惣百姓中
 【一段目台石左面】石工/伊助



【49】大田市水上町福原下 元中島商店横 (宮本 大47/ロータリ-51) **井明府之碑**

所在地 大田市水上町福原下 元中島商店横 市道川合水上線沿いの地蔵堂の上の平地
 北緯35°05'45.77" / 東経132°28'12.87"



碑石 幅47/奥行30
 台石1段目 幅63/奥行45
 台石2段目 幅88/奥行71
 台石3段目 幅117/奥行88
 台石4段目 幅152/奥行不明 (斜面崩れ)
 台石5段目 幅215/奥行不明 (斜面崩れ)

【建立年】安政5年(1858)
 【建立者】當村中

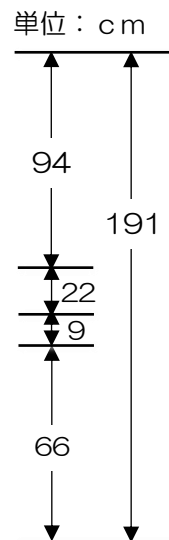
【碑石前面】井明府之碑
 【碑石右面】享保十八年辛亥五月廿六日
 【碑石左面】安政五年戊午八月建之
 【三段目台石前面】當村中
 【三段目台石右面】百姓代/泰助/庄屋
 見習/健十郎/庄屋/吉太郎
 【三段目台石左面】五人組頭/林四郎/
 直助/仙平/惣四郎/梅二郎/順助
 /好太郎/元口/亀藏/茂七/興六
 /勇助/柳兵衛/郡平

【調査の経過】
 市道の脇に地蔵堂があり、そこから斜面を上がると平地があって、この石碑だけが立っている。中田氏によると、この場所は神社があった場所、昭和20年代に、昭和陶業の古藤社長が道路沿いにあった碑を上に移設したという。台石を5段も積み、3段目は猫足になっている。大きな碑で碑石の文字も深く、大きい。「明」の文字に異字体が使われている。
 享保18年の干支が違っている。辛亥は井戸公着任の16年の干支。
 温泉津町西田の水上神社にある石碑(安政2年)とほとんど同じデザインだ。両方とも石工の名がないが、同じ石工が彫ったと思われる。

(調査日2020年5月15日)



所在地 大田市水上町荻原 元本宗寺入口
 北緯 35° 06' 17.91" / 東経 132° 29' 09.72"

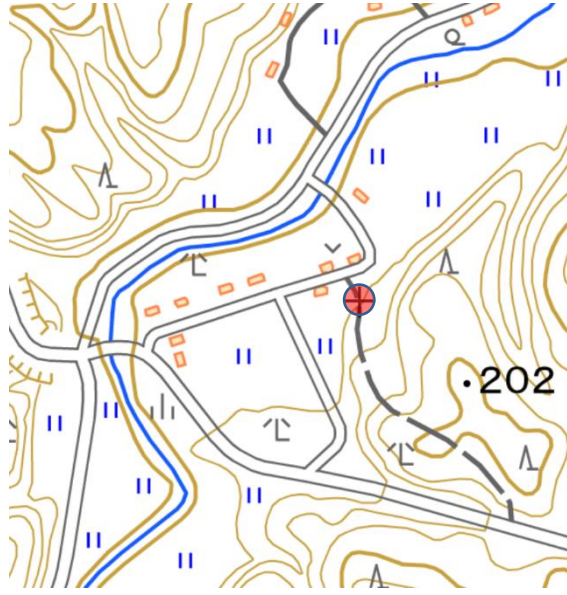
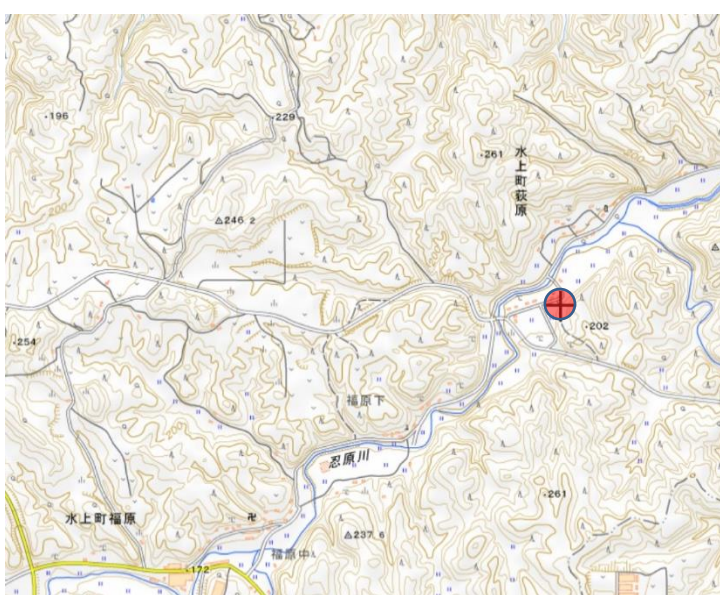


碑石 幅 33 / 奥行 26
 台石1段目 幅 58 / 奥行 50
 台石2段目 幅 82 / 奥行 73
 台座 幅 138 / 奥行 153 (コンクリート)

【調査の経過】
 水上町荻原集落の家が立ち並んだ道の道路向いに以前本宗寺という寺があり、その入口に立っている。石碑の後ろに崩れた旧碑が積まれており、「癸巳」の文字が見えるので、元の碑も干支を間違えていたようだ。
 2012年10月の調査時には5段の台石があり、石積みみの3段目以下が崩れかけていた。その後現在の形に修復された。碑石と1段目の台石が昭和33年製で2段目以降は以前のもののように見える。2018年の島根県西部地震で傾いたため、地元有志が修復。2段目の途中からコンクリートで補強された。前の市道には「荻原千軒」の説明板があり、往時の賑わいをしのぶことができる。

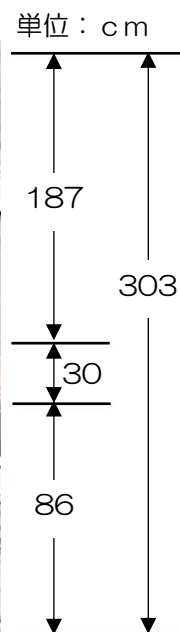
(調査日 2020年5月15日)

【建立年】 昭和33年 (1958) 再建
 【建立者】 荻原村中
 【碑石前面】 泰雲院義岳良忠居士
 【碑石右面】 昭和三十三年八月再建
 【碑石左面】 享保十八癸巳歳五月廿六日
 【その他】 なし



【51】大田市祖式町下町 円福寺 (宮本 大49/ロータリー54) **井戸正朋公碑**

所在地 大田市祖式町下町 円福寺境内 (山門の左)
 北緯 35° 04' 64.95" / 東経 132° 27' 05.39"



碑石最大幅 123 / 奥行最大 42
 台石1段目 最大幅 167 / 奥行最大 80
 台石2段目 最上部幅 213 / 奥行 152
 (石組) 最下部幅 247 / 奥行 186

(調査日 2020年5月15日)

井戸公の名前は「正朋」を採用している。

〔調査の経過〕
 総高さ3段を超す大きな碑。2段目の台石は3段の石積みで反りもあり城壁のよう。当時の島根県知事が揮毫しているが、昭和8年再建という情報しかなく、歴史のある円福寺に立っているということもあって、再建の経過が興味深い。

〔その他〕刻字なし

〔碑石裏面〕昭和八年九月四日再建

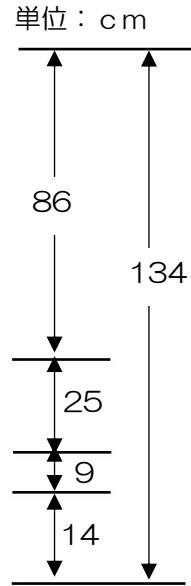
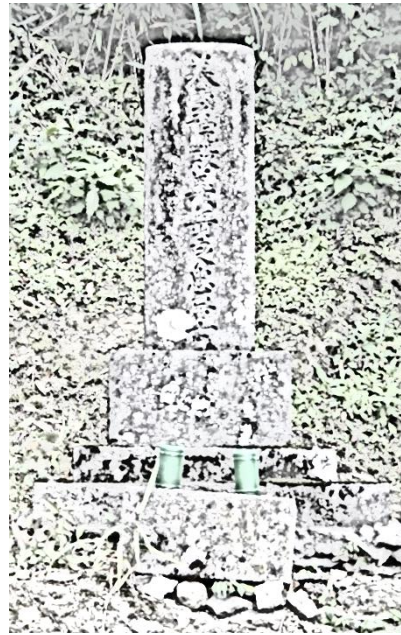
〔碑石前面〕井戸正朋公碑 (左に「島根懸知事正五位勲四等福邑正樹書」)

〔建立者〕不明

〔建立年〕昭和8年(1933)再建



所在地 大田市祖式町下瀬戸 県道 31 号沿い瀬戸橋バス停向い
北緯 35° 03' 52.75" / 東経 132° 27' 45.44"



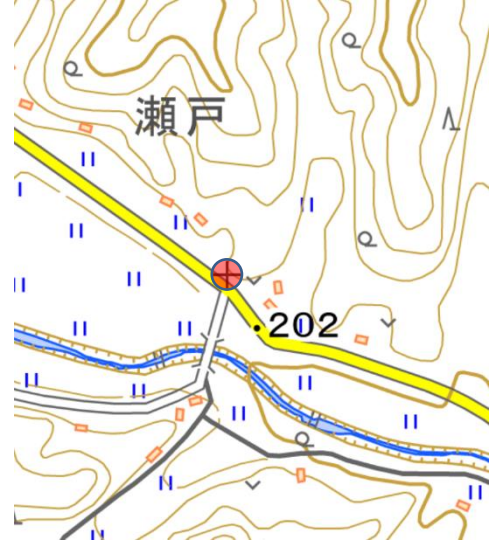
碑石幅 29 / 奥行 25
台石 1 段目 幅 47 / 奥行 47
台石 2 段目 幅 65.5 / 奥行 65
台石 3 段目 幅 86 / 奥行 80

〔建立年〕 嘉永 7 年（1854）
〔建立者〕 瀬戸本江総連中
〔碑石前面〕 泰雲院殿義岳良忠居士
〔碑石右面〕 享保十八癸丑年 / 五月二十六日
〔碑石左面〕 井戸平左衛門正明
〔碑石裏面〕 嘉永七寅年
〔一段目台石前面〕 庄屋 / 文治郎 / 瀬戸本江惣連中
〔一段目台石右面〕 石工 / 市右エ門

〔調査の経過〕
県道のすぐ上の、法面に立っている。保存状態もよく、傷みは少ない。
碑石裏面に建立年が彫ってあるのが珍しい。裏面は削らないままでも何も文字が彫ってないものが多い。

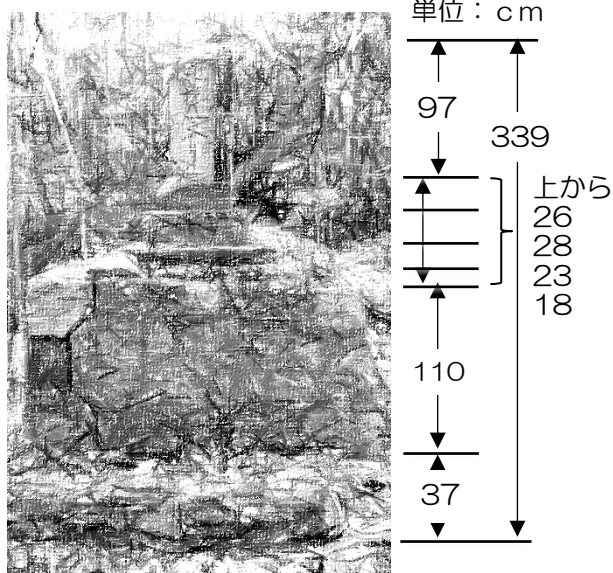
祖式町には 7 基あるが、そのうち 3 基（瀬戸、猪ノ目、大原）が嘉永 7 年の建立。山中が安政 4 年（1857）で、4 年間に 4 基が相次いで建立されている。南山の碑は建立年不明だが、同時期のものかもしれない。

（調査日 2020 年 5 月 8 日）
（写真 2012 年 10 月 30 日）



【53】大田市祖式町山中 (宮本 大51/マケ-56) 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市祖式町山中 市道に立つ「オオイエカン 293 次 1」の電柱の右を入れて約 100^{メートル}
 北緯 35° 03' 04.01" / 東経 132° 26' 23.40"

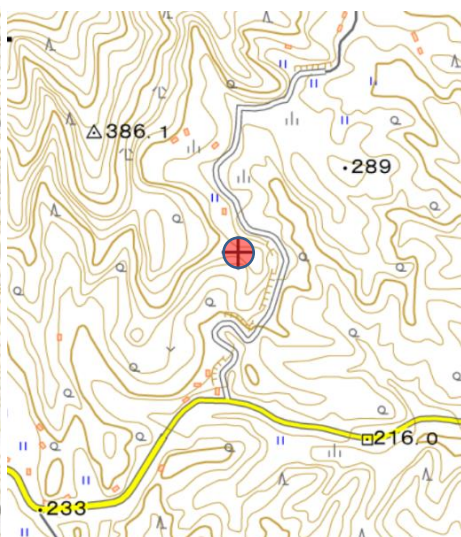


碑石幅 33 / 奥行 33
 台石 1 段目幅 53 / 奥行 53
 台石 2 段目幅 76 / 奥行 77
 台石 3 段目幅 111 / 奥行 111
 台石 4 段目幅 151 / 奥行 168
 台石 5 段目幅 210 / 奥行 220
 台石 6 段目幅 305 / 奥行推定 330

【調査の経過】
 祖式まちづくりセンターで場所を聞いて現地へ。市道から先は昔は人の往来があつたというが、現在はけもの道のようになつており、だれかが通れるほどにはしてゐるようだ。約 100 歩行くと広場になり、右側に大きな石碑が現れる。周囲の草や竹を整理して調査した。

【建立年】安政 4 年 (1857)
 【建立者】祖式村上組中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八年癸丑五月廿六日
 【碑石左面】井戸平左衛門正明君
 【二段目台石前面】施主 / 祖式村上組 / 中
 【二段目台石左面】庄屋 / 文四郎 / 頭百姓 / 助五郎 / 同 / 卯一郎

に沈み込んでゐる。
 建てるからには村の中で最も立派な石碑を建てようとした先人の意気込みが伝わってくる。
 (調査日 2020 年 4 月 24 日)



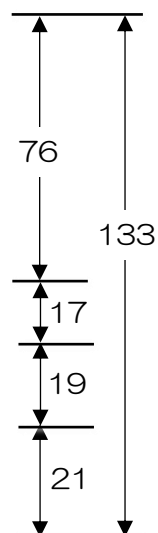
【54】大田市祖式町南山 (宮本 大 55/ㄇㄉㄉ-60) 井明府……碑

所在地 大田市祖式町南山 県道 46 号南山入口から約 2^キ、笠岡隆氏宅先の道路右側赤いポストから約 100^ミ先を左側の山に少し上った場所。崖っぷちに立つ。

北緯 35° 02' 10.18" / 東経 132° 27' 12.40"



単位：cm

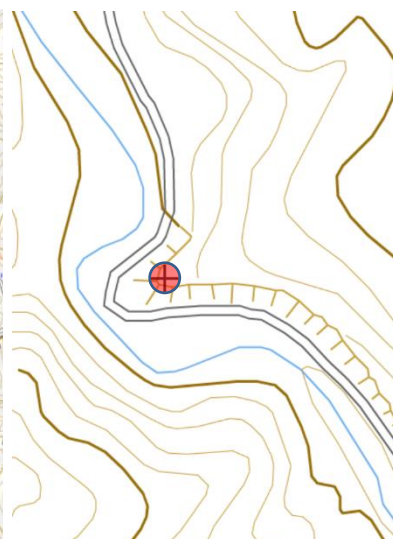
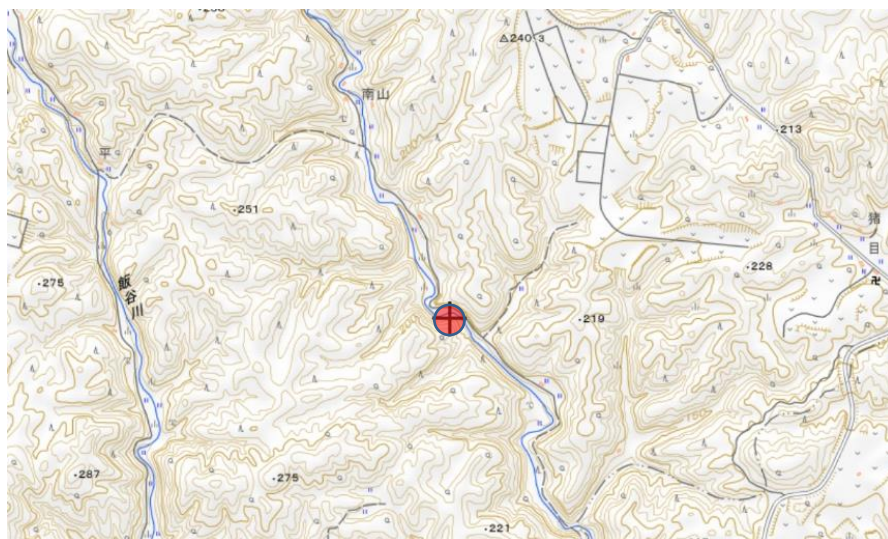


碑石幅 33 / 奥行 33
 台石 1 段目幅 53 / 奥行 53
 台石 2 段目幅 76 / 奥行 77
 台石 3 段目幅 111 / 奥行 111

〔調査の経過〕
 この場所は地域の方の墓地の入口にあたる場所だったが、現在では笠岡氏の墓地も自宅の横に建てられていることから、もう使われていないのかもしれない。以前は道らしい坂道があったが、現在では上がるのも難しくなっている。石碑の前は崖になっている。付近の崖も崩れている。石碑の正面から崖まで約 1 メートルなので、ここも崩れるかもしれない。石碑はそれほど傷みが激しいわけではないが、碑銘の部分だけがそぎ取ったように剥落していて読めなくなっている。後ろに石灯籠の屋根だけが残っている。

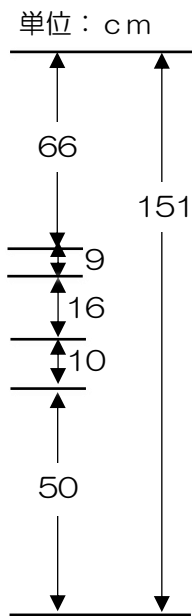
〔建立年〕不明
 〔建立者〕南山中
 〔碑石前面〕えぐるように剥落して読めない(「井明府……碑」は宮本調査による)
 〔碑石右面〕享保十八癸丑五月廿六日
 〔碑石左面〕井戸平左衛門正明
 〔台石二段目前面〕南山中
 〔台石二段目左面〕世話人／甚三郎／文右エ門／兼市良

(調査日 2020 年 5 月 5 日)



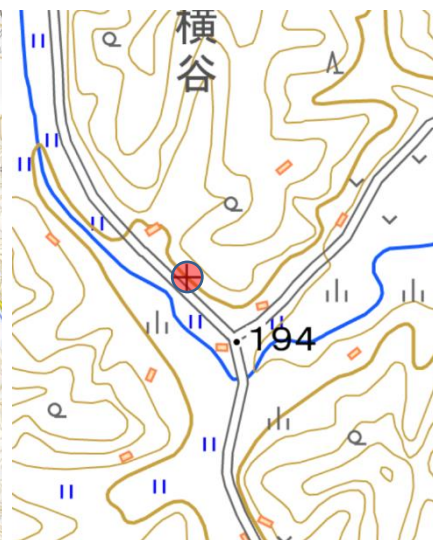
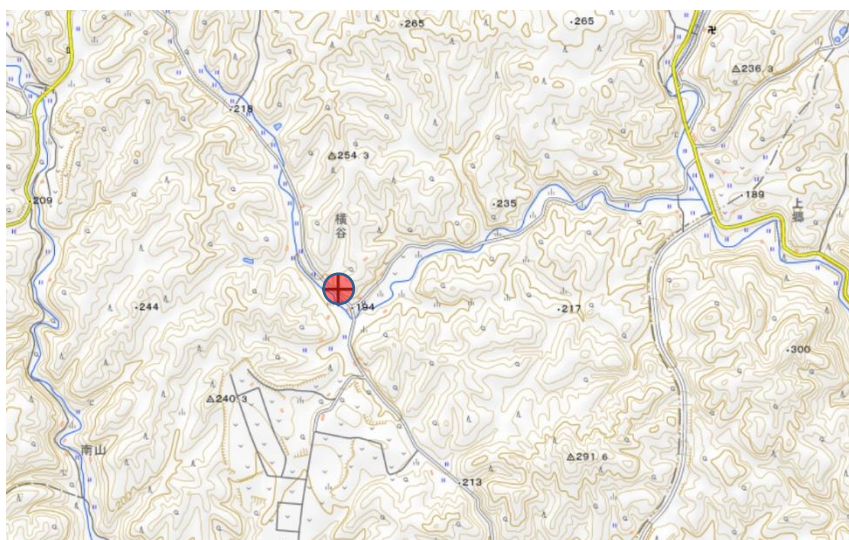
【55】大田市祖式町横谷 (宮本 大52/マ-タリ-57) 井明府口碑

所在地 大田市祖式町横谷 市道の北側の高台
 北緯35°02'54.40" / 東経132°27'41.55"



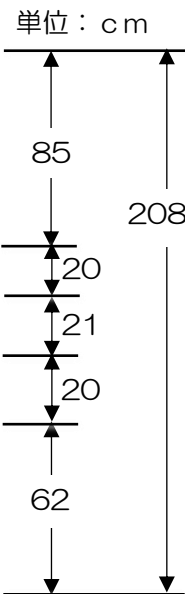
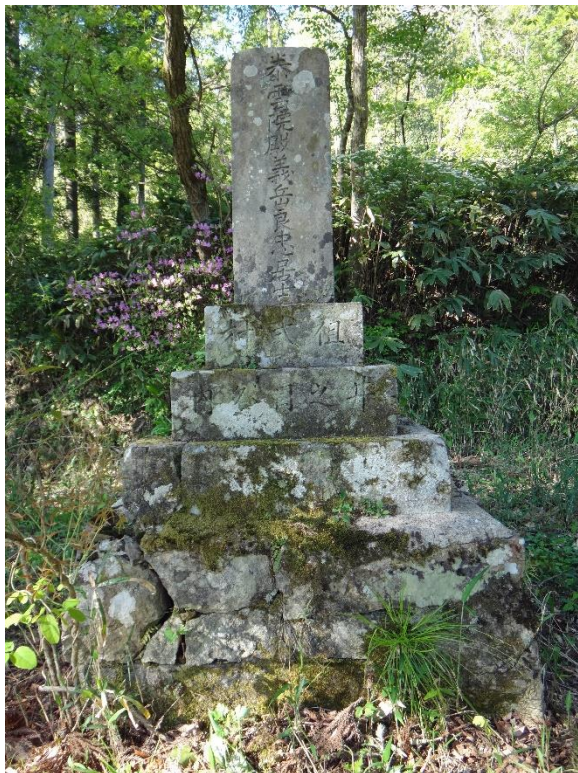
碑石幅 38 / 奥行 19
 台石1段目幅 42.5 / 奥行 34
 台石2段目幅 49 / 奥行 41.5
 台石3段目幅 61 / 奥行 62
 台石4段目幅 123 / 不明(石組み)

【建立年】明治44年(1911) 再建
 【建立者】横谷中
 【碑石前面】井明府……(宮本調査「井明府：碑」)
 【碑石右面】享保十八年五月廿六日 / 井戸平左衛門正明
 【碑石左面】明治四十四年八月吉日再建
 【二段目台石前面】横谷中
 【二段目台石右前面】世話人 / 森田善次郎
 【二段目台石左面】福光石工 / 山中清一
 【調査の経過】市道大原横谷線の横谷側三差路の西約90m。猪ノ目の碑と同じ道路沿い。拡幅された道路の約3mの高さの擁壁の上の平らな面にこの石碑だけがある。毎年盆前には地域の皆さんが草刈りされるが、5月にはかなり草が生い茂っている。ほかの面の文字は鮮明に残っているが、碑石の正面の文字だけがえぐれたように剥離していて、「井明府」しか読めない。小ぶりの石碑だが台石は4段積み、4段目は山中、猪ノ目同様石積みの立派な造りだ。
 (調査日2020年5月8日)



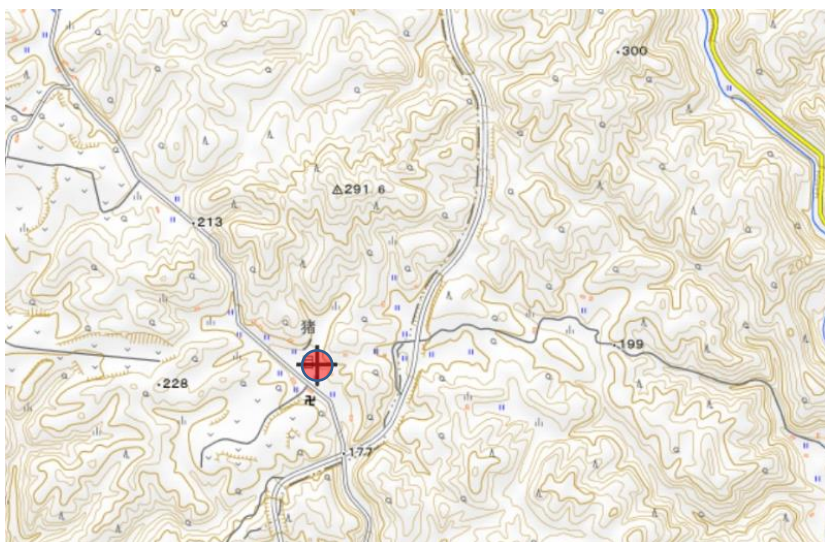
所在地 大田市祖式町猪ノ目 市道の北側の高台

北緯 35° 02' 15.97" / 東経 132° 28' 15.21"



碑石幅 32 / 奥行 25
 台石1段目幅 49 / 奥行 49
 台石2段目幅 67 / 奥行 67
 台石3段目幅 91 / 奥行 91
 台石4段目幅 127 / 127(石組み)

【建立年】嘉永7年(1854)
 【建立者】井之目谷内
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八年五月二十六日逝去
 【碑石左面】井戸平左衛門正明
 【一段目台石前面】祖式村
 【二段目台石前面】井之目谷内
 【二段目台石右面】嘉永七歳/甲寅八月/立之/庄屋/政左衛門
 【二段目台石左面】世話人/鍛冶屋/兵衛/福光/石工利兵エ/作
 【調査の経過】
 横谷の石碑の前の市道をずっと東に進んだ場所の左手、田を一枚挟んだ高台の平地に立つ。川本への農道から横谷方面に進むと約250mの地点。道路から家は見えないが林の中に民家があり(高橋氏宅)その家上がる道から左に行くくと下に雑草除けの黒いシートが石碑の場所まで敷いてある。現在は高橋さんが手入れをしていると思われる。台石を4段も積み、しかも4段目は3段の石組の立派な姿。崩れかけていて、ところどころセメントで補修してある。
 (調査日 2020年5月7日)

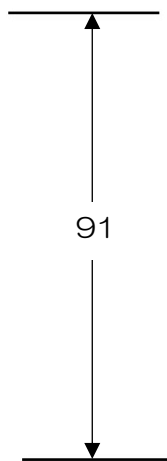


【57】大田市祖式町大原 (宮本 大50/ロータリー55) 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市祖式町大原 市道大原横谷線の大原側の橋のたもと
 北緯35° 03' 09.55" / 東経132° 28' 34.16"



単位：cm



碑石最大幅 52 / 奥行最大 33

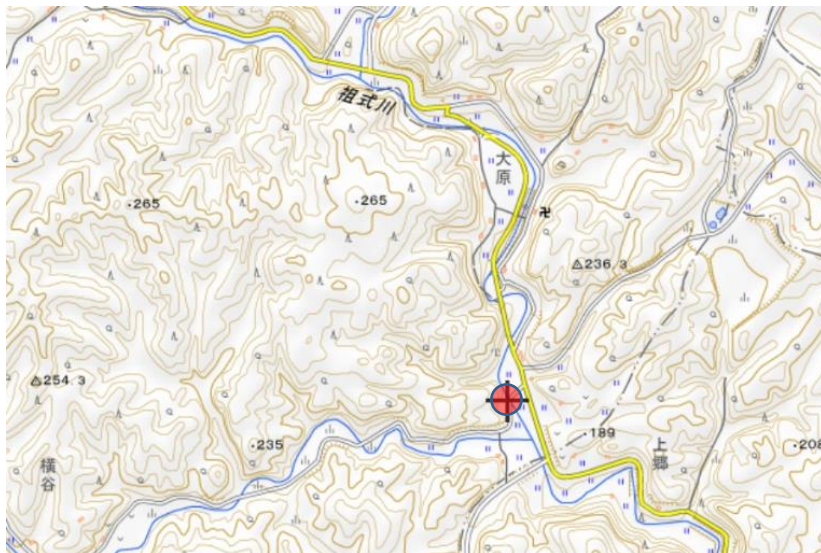
【建立年】嘉永7年(1854)
 【建立者】當組中

【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士(右に「享保十八癸丑五月廿六日」左に「井戸平左衛門正明」)
 【碑石左面】嘉永七甲寅三月廿五日建之／當組中／庄屋政左衛門／頭百姓万平／在極平

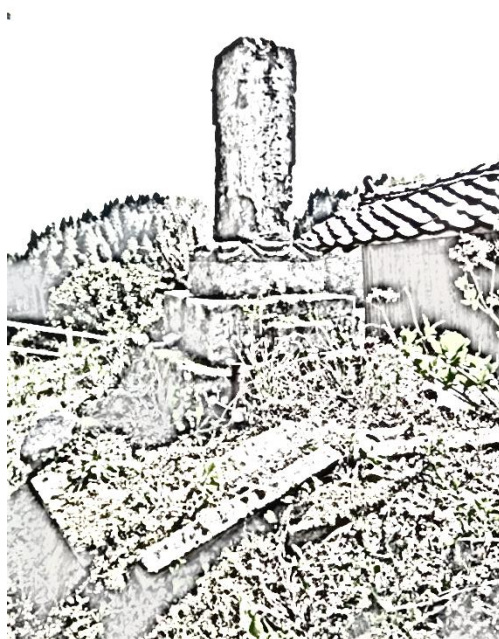
【調査の経過】

県道31号から川本へ抜ける農道に入るすぐ手前に市道大原横谷線があり、そこを入れてすぐにある橋のたもとが広くなっており、がけ崩れを防ぐ吹付面をえぐるようにして、地蔵と並んで井戸公碑が立つ。小さな石碑で、文字も浅く、素人が彫ったような感じだが、石が硬いため傷みはない。碑の前には花立てが1対あり、野の花が供えられ、いつ行っても水のペットボトルが置いてある。近くの人が世話をしているのだろう。

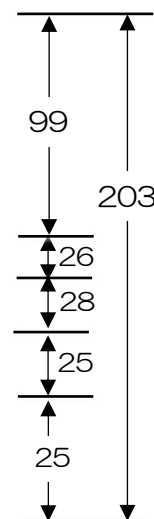
(調査日2020年5月7日)
 (写真2012年10月31日)



所在地 大田市大代町新屋本郷 大葉成宏氏宅横 地藏堂後ろ
 北緯35° 02' 28.37" / 東経132° 24' 53.18



単位：cm



碑石 幅 31 / 奥行 31
 台石1段目 幅 52 / 奥行 52
 台石2段目 幅 73 / 奥行 73
 台石3段目 幅 103 / 奥行 103
 台石4段目 幅 200 / 奥行 200 (崩落)

〔調査の経過〕
 大代町の佐藤まちづくりセンターの案内による。大葉成宏氏宅横の高手に地藏堂があり、その後ろに立つ。近くには墓所も2カ所あり、合わせてきれいに草刈りがしてある。石碑は福光石でかなり剥落が進んでいる。4段目の台石は崩落して構成石が周囲に散乱している。

大代町の井戸公碑は建立年代が彫っていないものが多く、この石碑もそうだった。また台石の建立者の文字が大きいものが多いが、この石碑も大きな文字で「新屋本郷」と深々と彫ってある。集落ごとに競うように建てたのだろう。

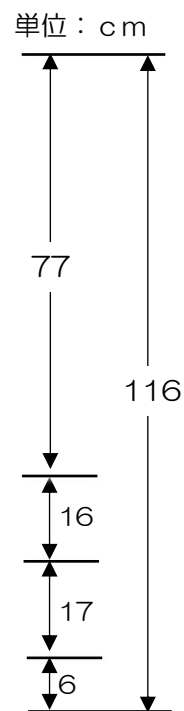
(調査日2020年4月30日)

〔建立年〕不明
 〔建立者〕新屋本郷
 〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士
 〔碑石右面〕享保十八癸丑年 / 五月二十六日
 〔碑石左面〕井戸平左衛門正明君
 〔二段目台石正面〕新屋本郷
 〔二段目台石前面〕頭百姓 / 源四郎 / 庄屋 / 彦右衛門
 〔二段目台石左面〕世話人 / 好三郎 / 大三郎 / 周蔵



【59】大田市大代町新屋山田 バス停前 (宮本 62/ロータリー-65) 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市大代町新屋山田 県道46号沿いバス停前(大江高山山田側登山口)
 北緯35°02'33.66" / 東経132°25'20.13

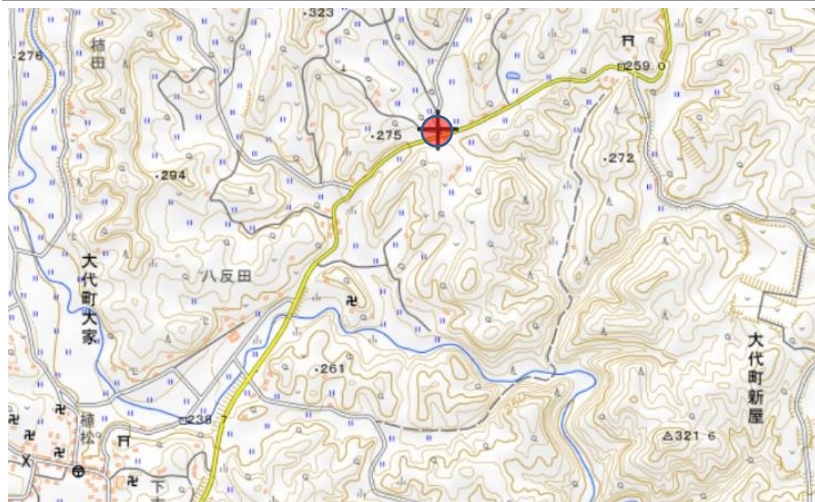


碑石 幅24/奥行き24
 台石1段目 幅40/奥行40
 台石2段目 幅49/奥行49
 台石3段目 幅73/奥行75 (下が埋まっている)

【調査の経過】
 以前は県道の南側にあり、樹木の影で湿気が多そうな場所だった。現在は地藏堂などとともに北側に移設され、乾燥した明るい場所になった。以前からの赤茶色の苔が残っており、碑石の傷みも激しく、読めない文字がある。台石は以前は3段目が厚み18cmで、その下に厚み25cmの4段目もあった。大代町のほかの碑と比べると小ぶりだが、「知雲」という僧侶と思われる名前の人が立てている。地域の人は後追いのように、隣に元治2年(1865)灯籠を立て「當組若連中」(世話人/シンヤ政蔵/畑名浅吉/太田ヤ源兵衛)と彫った。灯籠の左面には「山田寺」の文字もあるので知雲はその寺の住職だったかもしれない。
 (調査日2020年5月7日)

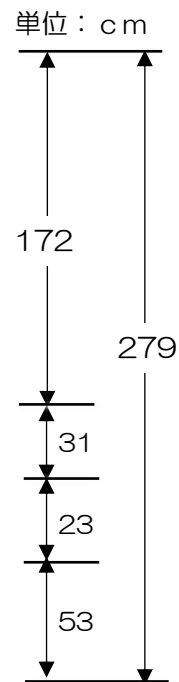
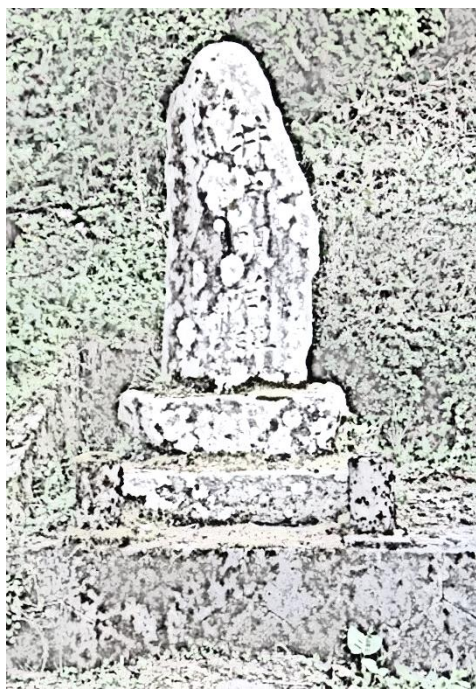
【建立年】天保15年(1844)
 【建立者】知雲

【碑石前面】泰雲院殿……(剥落して読めないが宮本資料では「泰雲院殿義岳良忠大居士」)
 【碑石左面】井戸平左衛門殿正明 / 天保十五辰七月〇日知雲立之
 【碑石右・裏面】なし
 【台石】なし



【60】大田市大代町新屋飯谷 浄願寺 (宮本 大 61/㊦-㊦-66) 井戸明君碑

所在地 大田市大代町新屋飯谷 浄願寺境内 (大江高山飯谷側登山口)
 北緯 35° 02' 55.43" / 東経 132° 25' 49.60



碑石 最大幅 77 / 奥行き最大 43
 台石1段目 幅 115 / 奥行 85
 台石2段目 幅 130 / 奥行 144
 台石3段目 幅 228 / 奥行 180 (コンクリート製)

【建立年】不明
 【建立者】新屋村飯谷組中

「碑石前面」井戸明君碑(右に「享保十八年」左に「癸丑五月廿六日」)

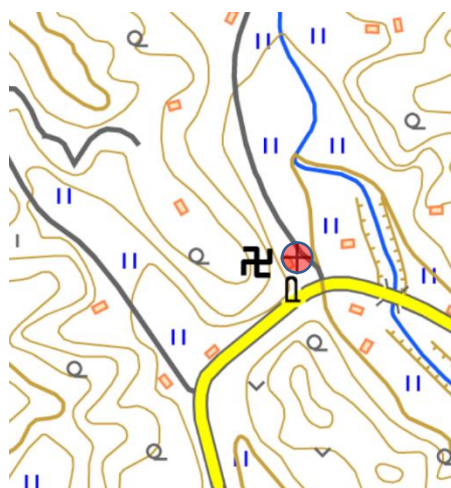
「碑石左右裏面」なし
 「台石一段目前面」新屋村 / 飯谷組中 / 庄屋 / 助十郎 / 同見習 / 吉五郎 / 頭百姓 / 種右エ門 / 百姓代 / 常三郎

【調査の経過】

寺の前の県道46号が拡幅になったが寺の境内には影響がなく、石碑もそのまま。ただ、寺には人の気配がない。この碑のために造られたコンクリート製の広い台に乗る(台石3段目とした)、大きな自然石の堂々たるもの。白っぽい苔は生えているが傷みはなく、文字もよく読める。専用の石の花立て(これは時代が新しそう)といい、「飯谷組中」の勢いと心意気が感じられる石碑だ。

大代町内の石碑は建立年が彫つてないものが多く、これもそうで、時代がわからないのが残念だ。

(調査日 2020年5月7日)



【61】大田市大代町新屋右原 (宮本 なし/㊦列-97) 泰……

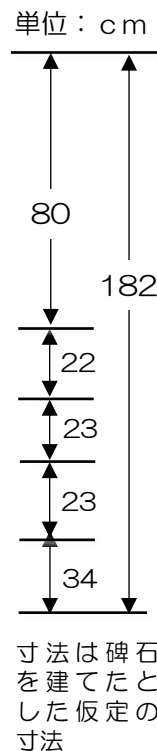
所在地 大田市大代町新屋右原 中垣土夫氏宅西側道路右手の山際
 北緯 35° 01' 22.86" / 東経 132° 25' 54.71



最上部に乗せてある石碑の一部。「泰」と読める。



碑石 幅 28 / 奥行き 25
 台石1段目 幅 47 / 奥行き 47
 台石2段目 幅 65 / 奥行き 65
 台石3段目 幅 95 / 奥行き 不明
 台石4段目 幅 133 / 奥行き 不明 (後ろの山崩れ)

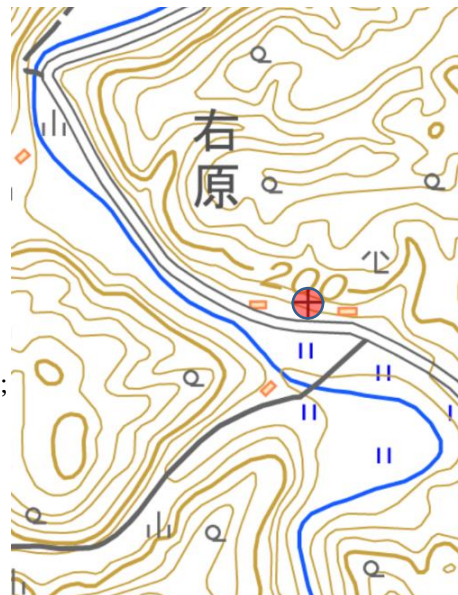
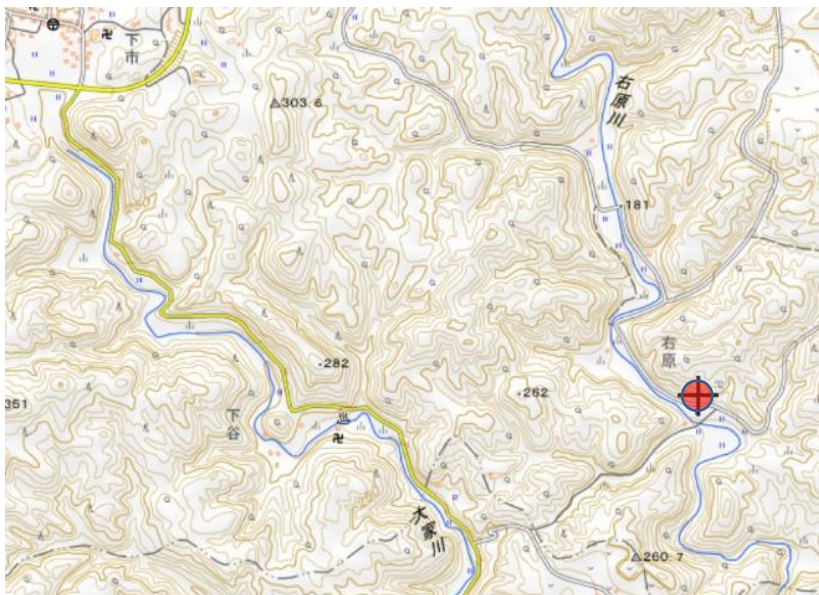


〔調査の経過〕
 大代町の佐藤まちづくりセンター長の案内による。奇妙な形をしているが、佐藤さんによると道路工事で移動させたとき碑石が折れたため、台石の上に寝かせたものだという。碑石の上の楕円形の石は28×20センチあり、そこに大きく「泰」の字が読めるので、折れた碑石の上部だろう。すると碑名は「泰雲院……」で、泰の字がかなり大きいので、多くの文字はなかっただろう。台石の「右原組」の文字も大きくて深い。

左の石柱も同時に建てられたと思われる、正面に「明治廿六年十月廿……」右側に「世話人／和田北良／渡利房……／松下和……／伊崎……」とある。

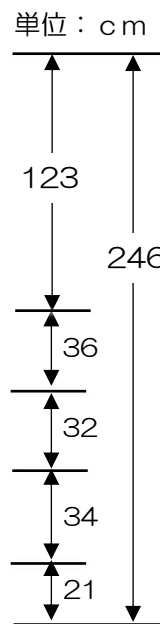
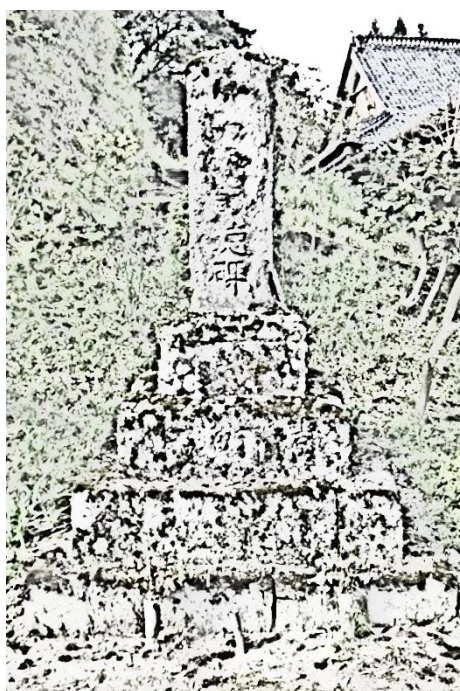
(調査日 2020年4月30日)

〔建立年〕 明治26年 (1893)
 〔建立者〕 右原組
 〔碑石前面〕 泰……
 〔碑石右面〕 井戸……
 〔碑石左面〕 享保十八癸丑…… / 五月廿……
 〔二段目台石正面〕 右原組
 〔その他〕 なし (と思われる)



【62】大田市大代町大家植松 正法寺 (宮本 大 60/□-列-62) 井戸君報徳碑

所在地 大田市大代町大家植松 正法寺山門左
 北緯35° 02' 02.19" / 東経132° 24' 29.47



碑石 幅 40 / 奥行き 39
 台石1段目 幅 70 / 奥行 68
 台石2段目 幅 104 / 奥行 107
 台石3段目 幅 135 / 奥行 144
 台石4段目 幅 180 / 奥行 180(推計)

【建立年】安政3年(1856)
 【建立者】當町中
 【碑石前面】□□□報徳碑(各種資料により「井戸君」とした)
 【碑石左右面】三百二十十字の碑文(次葉に掲載)
 【二段目台石前面】當町中
 【二段目台石左面】寄□ / 助二郎 / 庄屋 / 喜兵衛 / 頭百姓 / 善右衛門 / 世話人 / 惣左衛門 / 徳五郎 / 武平太 / 繁平 / 孫一郎 / 藤五郎
 【調査の経過】
 大代の町並みに最も近い場所にある正法寺の山門をくぐって左側にある。碑石は幅40センチもあり、4段の台石があつて堂々たる石碑だ。碑石左右面に320字という長さの碑文があり、以前大代町の熊谷正範氏が読んでいるので次葉で紹介する。
 2段目の台石に「當町中」とあり、ほかの碑の「組中」とは違つて宿場町として栄えていた大代の「町」のプライドを示しているように思える。碑の前には線香立てと陶器製の1対の花立てがあり、調査時にも花が供えられていた。台石に盃状穴あり。
 (調査日2020年5月5日)





碑文が彫られている碑石の左面 (上下)

【碑文】熊谷正範著「大家から大田市へ」(昭和57年同氏発行)より

臨百里之地而受生民之寄有一夫不得所者罪將就歸宣 郡宰□難平得父也如□井戸君諱政明乃其因興君通称平左衛門享保中来石見為代官時管下新承凋荒民産未立 君下□洲口謀求齊民之方属耆老而諮詢 或曰 君不見夫甘藷 類芋而沙種出於琉伝於薩故俗又呼曰薩摩芋其味甘温可以民食矣君聞之大喜乃請種於薩以其宜沙地先令浴海民戸□之種則繁行利遂遍於郡内被其澤者不□君之名而秘為芋代官云□者大家本郷人某来請余曰芋代官卒已者五十余年矣 部諸村莫不樹碑以報其德而我郷独未有一石之以相表也某等□夏之願子幸文之具專將□□示之後矣嗚呼君之逝□手其已□焉而其德澤之 玉今尚能使人追感恩慕如此任救民之□者其真可不以鑿於斯也乎哉万余難 □惡得□樂而文之

安政三年歳在丙辰出雲姉展謹

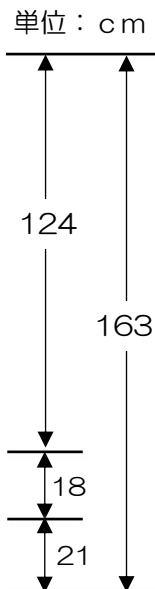
【訳文】石村勝郎著「いも神さま 井戸平左衛門 石見銀山代官」より/平成6年石見銀山資料館発行)

碑文の作者(出雲の人らしい)のところへ、大家本郷の有志が訪ねて来て、いも代官が亡くなって五十余年になる。他の村では、その徳に報いて碑を立てているが、ひとり、わが村にない、これは悲しいことであり、お願いするから碑文を書いてほしい、後世に志を伝えたいといつて来た。

ああ君が逝って既に遠いが徳沢はいまも人を追慕させているではないか。救民の責に任ずる者は、このようではなければならない。才能劣る自分だが、これを文に表わさざるを得ない。

【63】大田市大代町大家四日市 西臨寺先 (宮本 大 62/ㄇ-ㄌ-67) 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市大代町大家四日市 西臨寺先四日市バス停付近の三差路
 北緯35° 02' 07.58" / 東経132° 24' 20.11



碑石 最大幅 54 / 奥行き最大 34
 台石1段目 幅 67 / 奥行き 52
 台石2段目 最大幅 128 / 奥行き最大 90

〔建立年〕不明
 〔建立者〕當組中

〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠大居士(下に蓮の花)

〔碑石左面〕享保十八癸丑年五月二十六日 / 井戸平左衛門

〔一段目台石前面〕當組中

〔二段目台石左面〕□□ / □話人 / 庄屋 / 喜右衛門

〔一段目台石右面〕福光石工 / 山中九平エ / 市□ / 山屋新助

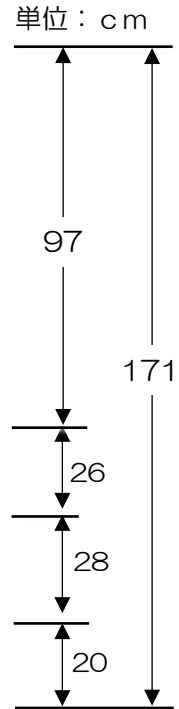
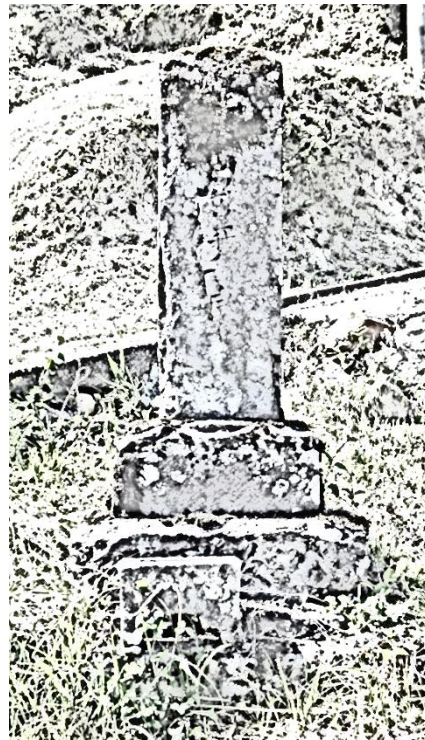
〔調査の経過〕
 大代町の正法寺を少し西に進むと西臨寺があり、その先の三差路に地藏堂と並んで立つ。2段目の台石の下には地藏堂と共通のコンクリートの基礎がある。碑の後ろは休耕田。碑の周囲はきれいに草が刈ってあり気持ちがいい。
 一段目の台石には数個の盃状穴がある。

この碑は日本古代社会史研究家で元日本地名研究所長の故関和彦先生も訪れており、「郷土石見」107号で紹介している。

(調査日2020年5月5日)



所在地 大田市大代町大家八反田 元小学校の西 市道沿いの法面
 北緯 35° 02' 08.76" / 東経 132° 24' 44.71"



碑石 幅 31 / 奥行き 30
 台石 1 段目 幅 53 / 奥行き 52
 台石 2 段目 幅 74 / 奥行き 77
 台石 3 段目 幅 106 / 奥行き不明 (斜面埋没)

【建立年】不明
 【建立者】八反田組

【碑石前面】……殿義岳良……
 【碑石右面】享保十八癸丑年 / 五月二十六日
 【碑石左面】井戸平左衛門正明
 【二段目台石前面】八反田組
 【二段目台石右面】福光石 / 山中秀 / 下 / 山屋新
 【二段目台石左面】庄屋 / 喜三衛門 / 百姓代 / 大 / 衛 / 世話人 / 殿兵 / 喜平 / 常三郎

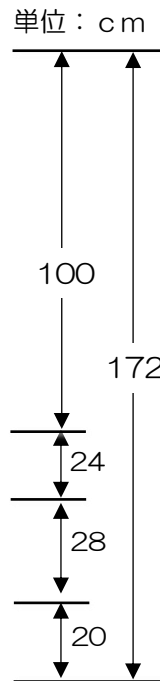
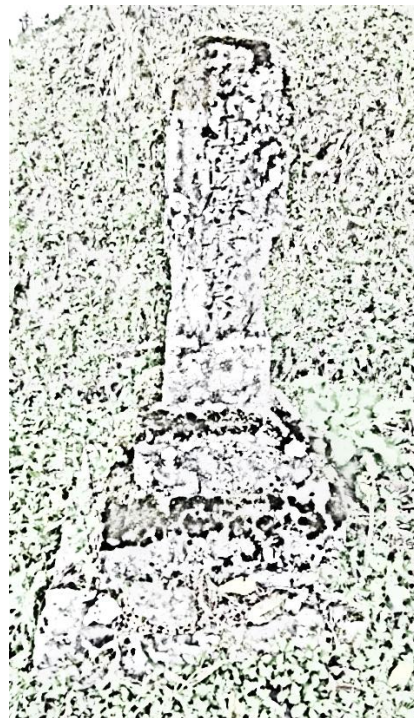
【調査の経過】
 旧県道から大代小学校の西を右折して市道に入ると山側の法面に立っている。規模といい造りといい、柿田の石碑とよく似ている。石も同じものようで、当たりのいい場所にあるにもかかわらず、傷み方までよく似ている。宮本調査では「泰雲院殿義」まで読めたが、現在は判読してやっと「殿義岳良」が読める。石の線香立てがあり、周囲はよく草が刈ってある (すぐ近くに2軒の家あり)。
 台石に盃状穴あり。

(調査日 2020年5月7日)



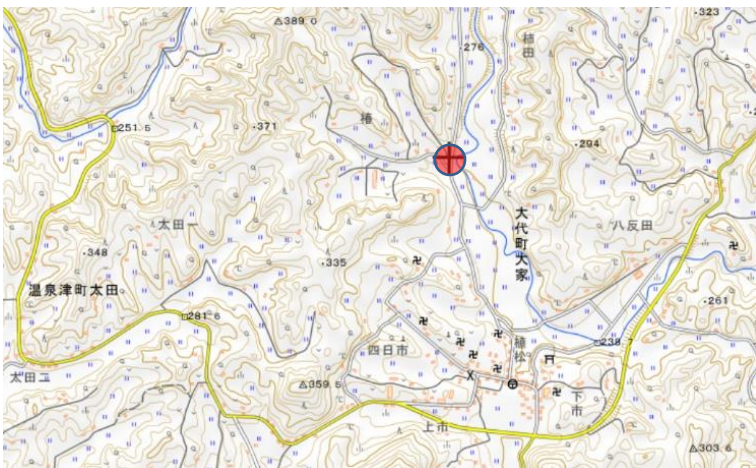
【65】大田市大代町大家柿田 (宮本 大 56/㊦-㊦-61) 泰雲院殿義岳良忠……

所在地 大田市大代町大家柿田 市道沿い地藏堂上
 北緯 35° 02' 27.26" / 東経 132° 24' 27.27



碑石 幅 30.5 / 奥行き 31
 台石1段目 幅 53 / 奥行 53
 台石2段目 幅 73 / 奥行 74
 台石3段目 幅 110 / 奥行 105

〔建立年〕 不明
 〔建立者〕 柿田組
 〔碑石前面〕 泰雲院殿義岳良忠：
 ……
 〔碑石右面〕 享保十八癸…… / 五月……
 〔碑石左面〕 井戸平……
 〔二段目台石左面〕 當役 / 庄屋 / 新右衛門 / 九屋仙助
 〔二段目台石前面〕 柿田組
 〔二段目台石右面〕 福光石工 / 谷中秀平工
 〔調査の経過〕
 柿田集落の市道に坂を上がる三差路があり、その付け根の地藏堂の上の丘に立つ。雪が深かった当時の自然条件のためか、大代町の福光石製の石碑は傷みが激しく、この碑もかなり崩落が進んでやせており、石碑の下部はセメントで補修してある。
 (調査日 2020年5月1日)



【66】大田市大代町大家川上 (宮本 大 58/㊦-㊦-64) 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市大代町大家川上 鳴ヶ鼻橋先の市道沿い
 北緯 35° 02' 56.67" / 東経 132° 24' 30.30 (国土地理院)



単位: cm

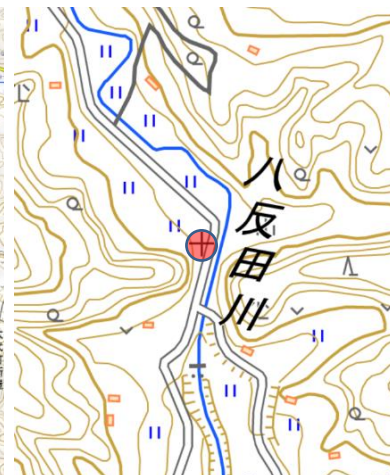
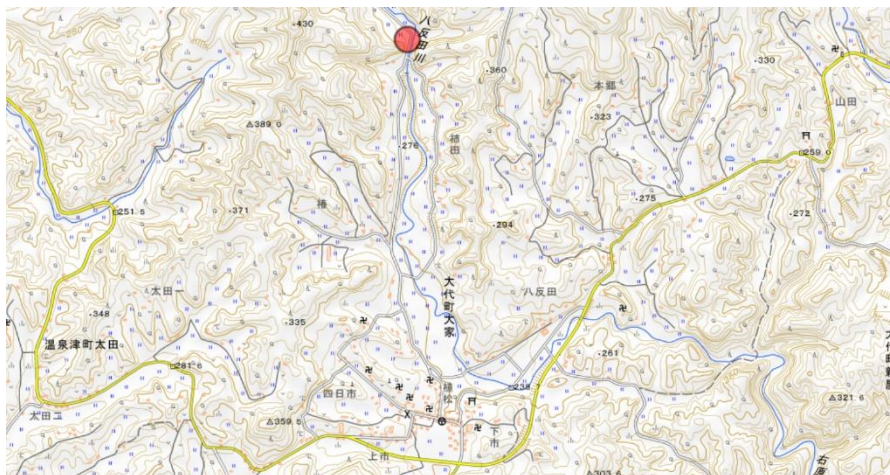


碑石 最大幅 83 / 奥行き最大 30
 台石 最大幅 133 / 奥行最大 110

(調査日 2020年5月1日
 写真は 2012年10月31日)

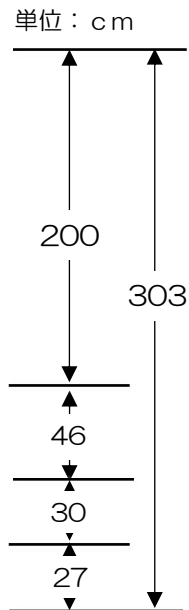
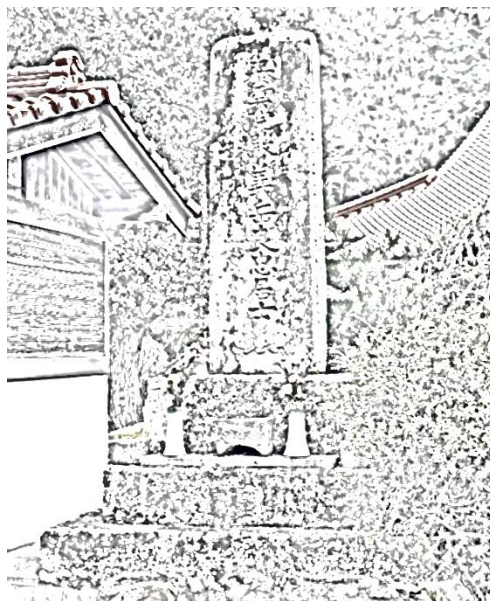
【調査の経過】
 川上集落に入って川に沿ってま
 つすぐ進むと左手の山側に高さ
 約1㊦、幅約6㊦の石垣があり、
 地藏堂、軍人碑とともに建って
 いる。大き目の1段の台石の上
 にこれも大きめで幅広の自然石
 が乗り、気持ちのいい、雄大な眺
 めだ。碑の前の花立てには季節
 の野の花が供えてあり、調査日
 には碑の横に咲くシヤガの花が
 供えてあった。建立年がないの
 が残念だ。

【建立年】不明
 【建立者】川上連中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大
 居士
 【碑石右面】享保十八癸丑皆五月
 廿六日 / 井戸平左衛門尉正明君
 【碑石左面】井戸平左衛門正明君
 / 祀奠碑
 【台石】なし



【67】大田市温泉津町湯里 専念寺（宮本 温 01/0-列-74） 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市温泉津町湯里温泉郷下 鉄道高架下 専念寺の道路脇
 北緯35° 06' 32.68" / 東経132° 22' 33.71"



碑石最大幅 61.5 / 奥行き最大 36
 台石1段目幅 110 / 奥行き 108.5
 台石2段目幅 148 / 奥行き 141
 台石3段目幅 199 / 奥行き 164

〔調査の経過〕
 国道9号から湯里に入り、鉄道の高架をくぐって湯湊方面に向かうとすぐ右手にあるのが専念寺。道路沿いに地藏堂と並んで立っている。碑銘は道路側に彫っており、大きな碑で、約50^{センチ}の高さに建てられていることもあって、見上げるほど大きい。比較的軟らかそうな石だが、傷みは少ない。碑の前の花立てには花が供えてあった。

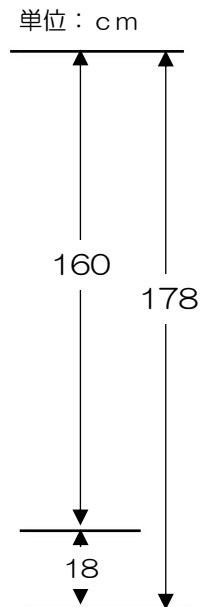
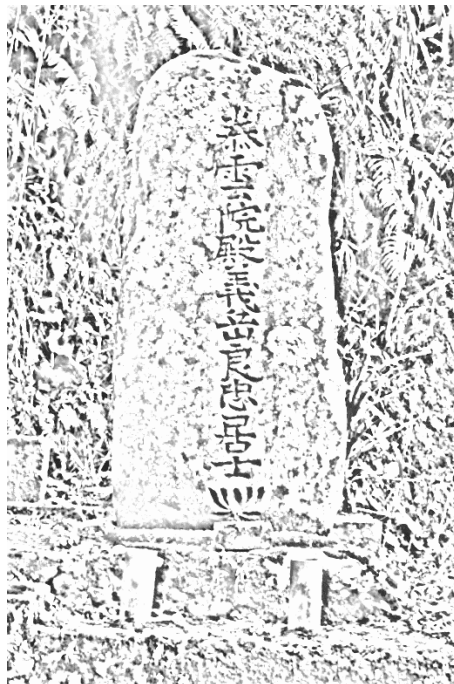
〔建立年〕天保11年（1840）
 〔建立者〕本郷／温泉郷下組／湯湊
 〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士（蓮の花）
 〔碑石右面〕享保癸丑之夏五月二十六日卒／故明府井戸平左衛門正明君祀尊碑
 〔碑石左面〕維皆天保庚子初夏謹建焉
 〔一段目台石前面〕右から「本郷／温泉郷下組／湯湊」
 〔同左右面〕世話人の名が数人彫ってあると思われるが読めない
 〔二・三段目台石〕なし。

（調査日2019年1月17日）



【68】大田市温泉津町湯里中村（宮本 温 04/㊦-㊦-73） 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市温泉津町湯里村 県道沿い（豊田屋の下）
 北緯 35° 05' 48.25" / 東経 132° 22' 44.91"

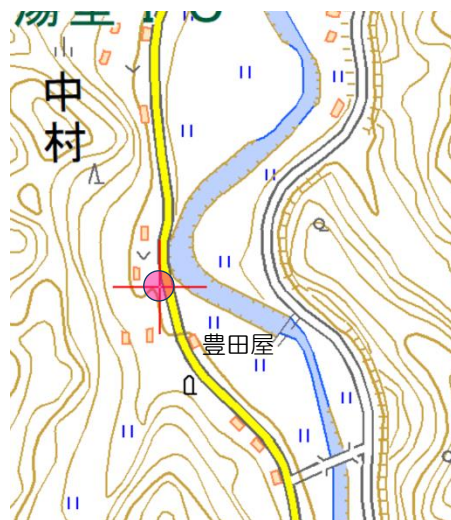
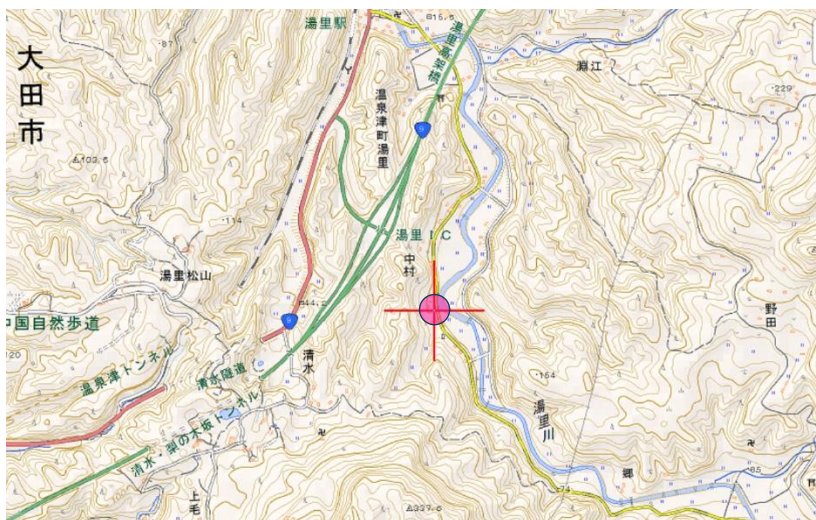


碑石最大幅 77 / 奥行き最大 60
 台石幅 106 / 奥行き最大 105

【調査の経過】
 県道沿いにほかの2基の石碑と並んで建つ。建立年が石碑に彫つてあるものとしては大田市で最古（波根町の碑は別文書に1820年とある）。比較的堅い自然石だが、碑石左右面の小さな文字は浅くなつていて読みにくい。「泰雲院殿義岳良忠居士」（「殿」があつて「大」がない）の文字と、文字の下に蓮の花を配した図案が野田、専念寺の碑と共通しており、後から建てられたと思われる2基は中村の碑を踏襲したと思われる。

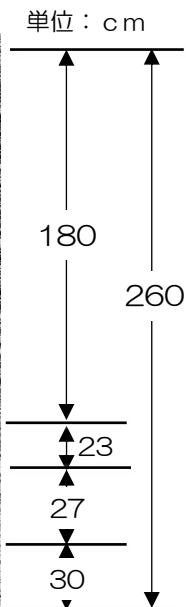
（調査日 2019年1月12日）

【建立年】 文政11年（1828）
 【建立者】 温泉本郷上組
 【碑石前面】 泰雲院殿義岳良忠居士（蓮の花）
 【碑石右面】 享保十八癸丑五月廿六日 / 前御代官井戸平左衛門□□ / 調立主温泉本郷上組 / 世話人周平エ / 好藏
 【碑石左面】 皆文政十一戊子五月謹立 / 村役人 林義助 / 山根周助 / 同苗勇藏 / 安田豊平エ（碑文の一部は「ふるさとアルバム」（平成8年山本隆慶著）による）
 【台石】 なし



【69】大田市温泉津町湯里野田（宮本 温 02/ロータリー75） 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市温泉津町湯里野田 埜田氏宅前の山道を約200メートル上がった新谷家の墓地
北緯35° 05' 56.88" / 東経132° 23' 37.44"



碑石最大幅 62 / 奥行き最大 36
台石1段目幅 94.5 / 奥行き 93
台石2段目幅 130 / 奥行き 130
台石3段目幅 185 / 奥行き 188

〔調査の経過〕
比較的小さな石だが、傷みは少ない。昔住還であり、願成寺と馬路に至る三差路の手前の左側に開けた墓地。山側にほかの石碑群とともに約50枚の石組みの上に建っている。専念寺の石碑同様、大きな石碑だ。

〔調査の経過〕
比較的小さな石だが、傷みは少ない。昔住還であり、願成寺と馬路に至る三差路の手前の左側に開けた墓地。山側にほかの石碑群とともに約50枚の石組みの上に建っている。専念寺の石碑同様、大きな石碑だ。

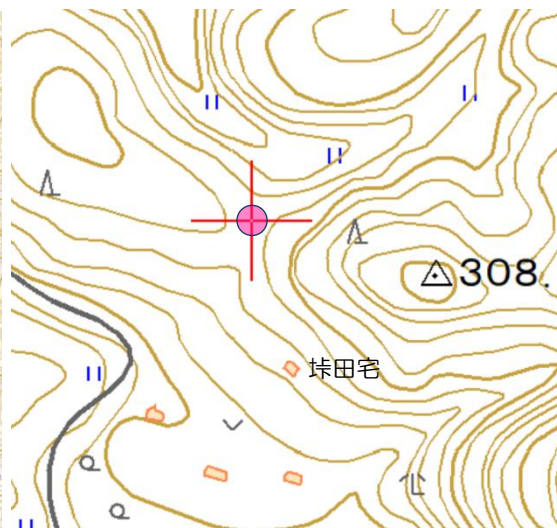
〔二・三段目台石〕なし。

〔一段目台石前左右面〕（ふるさとアルバムより）当時庄屋坂根一平 / 当時頭百姓日井仁五右エ門 / 当時百姓代帯刀又十郎 / 世話方宮原祐右エ門 / 同山田千代太郎 / 山田吉子平エ / 山本佐平 / 足利吉左エ門 / 福光石工忠四 / 竹作 / 野田石工藤十郎 / 同保国 / 難波松太郎 / 新右エ門

〔碑石左右面〕なし

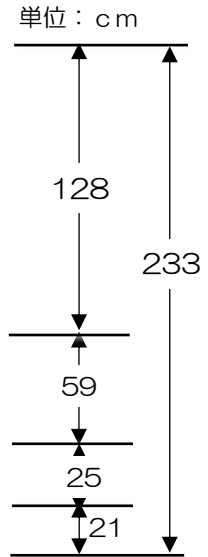
〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士（蓮の花） / 右に「享保十八癸丑五月廿六日 野田」左に「井戸平左衛門尉諱正明 組中」

〔建立年〕不明
〔建立者〕野田組中



【70】大田市温泉津町湯里西田 水上神社（宮本 温 03/ロ-列-76） **井明府之碑**

所在地 大田市温泉津町湯里西田 水上神社石段右手
 北緯 35° 05' 24.95" / 東経 132° 23' 41.99"



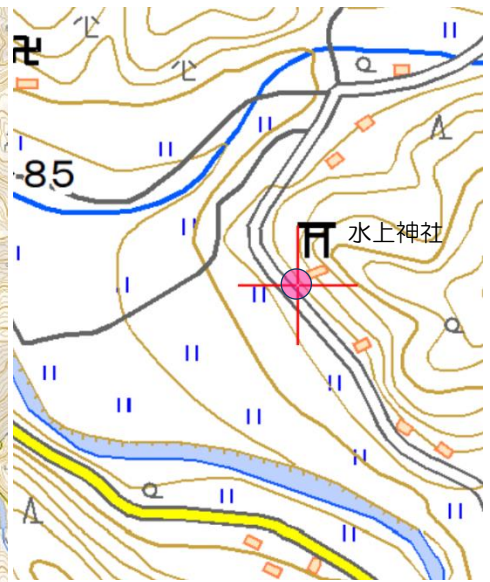
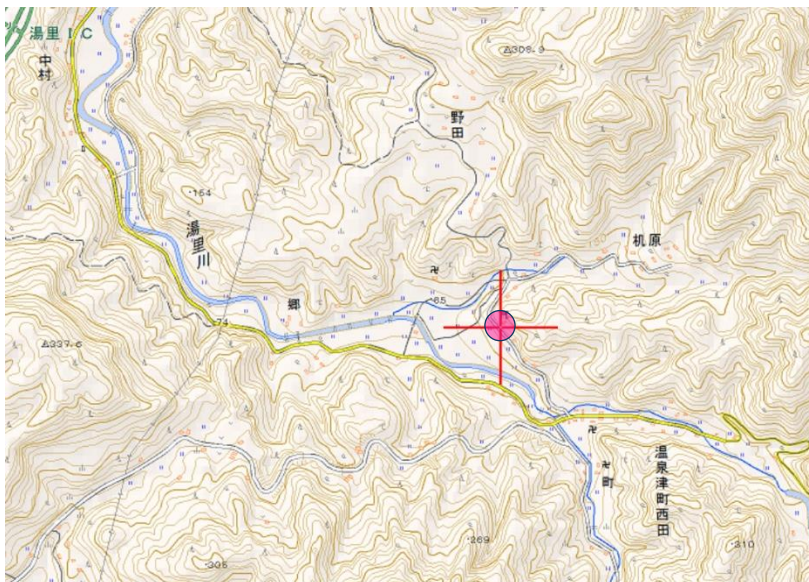
碑石幅 47 / 奥行き 32.5
 足部分最大幅 92 / 奥行き最大 76
 台石1段目幅 122 / 奥行き 97
 台石2段目幅 152 / 奥行き 123

（調査日 2019年1月12日）

「調査の経過」
 福光石と思われる軟らかそうな石に井明府之碑の文字が深く彫られてる。「碑」の文字の下部部分が剥落している。碑石の背面全面ほかセメントで補強されている。猫足にするなど格調高い（No. 49 水上町福原下の碑と酷似）。神社に上がる階段の右手に、道路から約1・5メートル高い場所に設置場所を整備して設置されており、丁重な扱いが感じられる。安政2年の「泰雲院殿石碑取立勘定帳」によると、寄付は殿居蔵座、温泉津の木津屋のほか、矢瀧谷、机原谷、上市、老原谷、下市、郷中の各組、瑞泉寺、清源寺、称名寺、願楽寺、浄林寺、水上神社から寄せられており、文字は梅保氏が揮毫し西田と福光の石工が施工、清源寺が開眼法要を営んだとの記録がある。

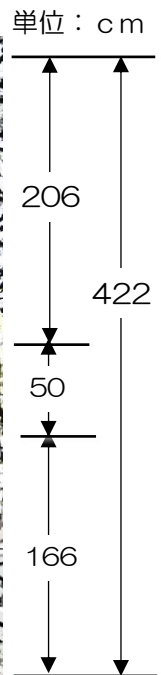
【建立年】安政2年（1855年）
 【建立者】不明
 【碑石前面】井明府之碑
 【碑石左面】安政二年龍舎乙卯七月建之
 【台石前面】なし
 【二・三段目台石】なし。

【調査の経過】
 福光石と思われる軟らかそうな石に井明府之碑の文字が深く彫られてる。「碑」の文字の下部部分が剥落している。碑石の背面全面ほかセメントで補強されている。猫足にするなど格調高い（No. 49 水上町福原下の碑と酷似）。神社に上がる階段の右手に、道路から約1・5メートル高い場所に設置場所を整備して設置されており、丁重な扱いが感じられる。安政2年の「泰雲院殿石碑取立勘定帳」によると、寄付は殿居蔵座、温泉津の木津屋のほか、矢瀧谷、机原谷、上市、老原谷、下市、郷中の各組、瑞泉寺、清源寺、称名寺、願楽寺、浄林寺、水上神社から寄せられており、文字は梅保氏が揮毫し西田と福光の石工が施工、清源寺が開眼法要を営んだとの記録がある。



【71】大田市温泉津町小浜 巖島神社 (宮本 温 07/ロータリー80) 正朋井戸君碑

所在地 大田市温泉津町小浜 巖島神社拝殿の一段下の境内
 北緯35° 05' 32.92" / 東経132° 20' 56.75"



碑石 最大幅 65 / 奥行き最大 60
 台石1段目 最大幅 114 / 奥行き最大 166
 台石2段目 (石組) 最大幅 250 / 奥行き最大 280

(調査日 2020年 11月 20日)

【建立年】明治44年 (1911)
 【建立者】小濱中

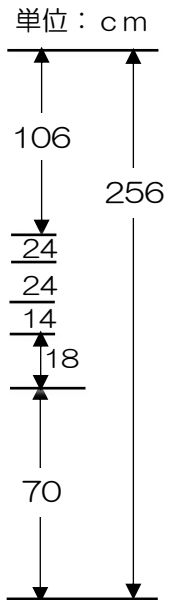
【碑石前面】正朋井戸君碑
 【碑石右面】明治四十四年二月建
 之 小濱中 / 建設委員 / 寺本寛
 三郎 / 油谷登三郎 / 藤井啓太郎
 【碑石裏面】石工 / 坪内亀一
 【台石】なし

【調査の経過】
 JR温泉津駅から西へ約200
 位のところにある巖島神社。拝
 殿から階段を下りた下の段の境
 内の右側に立っている。碑石は
 206センチもある大きなもので傷
 みもない。それが166センチもあ
 る立派な石組の上に乗っている
 ので見上げるほど大きい。総高
 さ422センチは大田市で最大。1
 段目の台石は海石か。「正朋井戸
 君碑」の表記は、明治16年に温
 泉上町に再建された井戸公碑と
 同じだが、こちらは「正朋」と読
 める。



【72】大田市温泉津町日祖 大元神社 (宮本なし/碑列-95) **井戸平左衛門君之碑**

所在地 大田市温泉津町日祖 大元神社境内
 北緯35°06'12.04" / 東経132°21'09.55"



碑石 幅 37 / 奥行き 25
 台石1段目 幅 59 / 奥行き 48
 台石2段目 幅 76 / 奥行き 63
 台石3段目 幅 110 / 奥行き 96
 台石4段目 幅 150 / 奥行き 181
 台石5段目 (石組) 最大幅 205 / 奥行最大 215

(調査日 2020年11月11日)

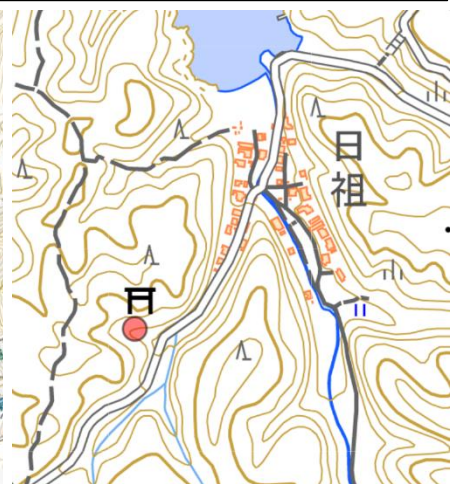
えようとされたかのようだ。
 の遺徳を将来に向けて正確に伝
 の碑文も記されており、井戸公
 摩町大國とこの碑だけだ。長文
 が刻まれているのは市内では仁
 「井戸平左衛門」とフルネーム
 あるが、まだ文字は読める。

「調査の経過」
 宮本調査にはなく、ロータリー
 調査で新たに確認された。大元
 神社に現在社殿はなく、鳥居と
 「宮址の碑」が残っている。その
 「宮址の碑」の後ろに井戸公碑
 が立ち、その右隣に小祠がある。
 台石を5段も積み、最下段は石
 を2段に組み上げたていねいな
 碑。碑石の左右面、後面に長文の
 碑文が残っている(次葉に掲
 載)。碑石は福光石で少し傷みも

「二段目台石前面」日祖中

「碑石前面」井戸平左衛門君之碑
 「碑石左右・後面」次葉に記載
 「碑石右面」建設委員/友村常三
 郎/石田喜三郎/石田傳一/石
 田與吉/松原榮作/安江久太郎
 /加藤與三郎/友村善太郎/工
 事擔任者/森田虎市

【建立者】日祖中
 【建立年】大正3年(1914)



碑文 (碑石左面)

君諱ハ正明享保十六年九月二日石見代官ニ補セラレ十
 三日大森ニ着任シ石見備中備後三國ノ幕領ヲ支配ス當
 時比年稔ラス大森銀山料地ハ荒涼ヲ極メタルヲ以テ賑
 恤救荒ハ大ニ力ヲ致シタルトコロナレハ凍餓流亡者ヲ
 生セス殊ニ中國に於ケル今日ノ甘藷ハ君カ鹿兒島ヨリ

碑文 (碑石後面)

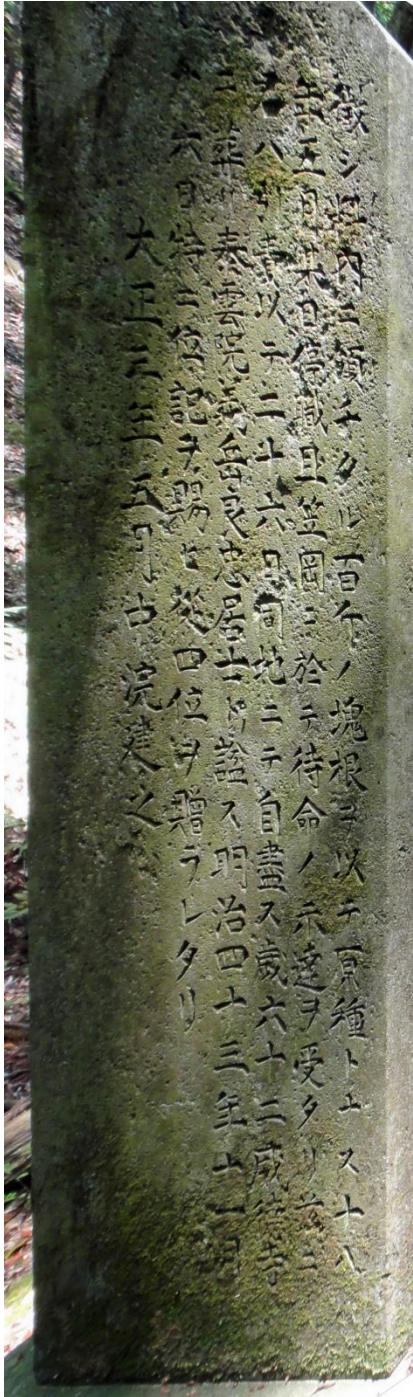
徵シ料内ニ頒チタル百斤ノ塊根ヲ以テ原種トナス十八
 年五月某日停職且笠岡ニ於テ待命ノ示達ヲ受タリ茲ニ
 君ハ引責以テ二十六日同地ニテ自盡ス歳六十二威徳寺
 ニ葬リ泰雲院義岳良忠居士ト諡ス明治四十三年十一月
 十六日特ニ位記ヲ賜ヒ從四位ヲ贈ラレタリ

大正三年五月中浣建之

碑石左面



碑石後面

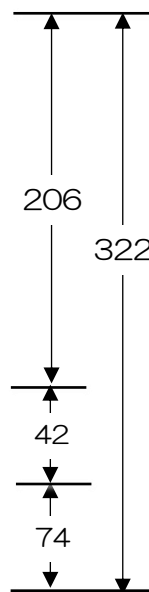


【73】大田市温泉津町温泉上町 (宮本 温 08/ロ-列-77) **正明井戸君碑**

所在地 大田市温泉津町温泉街温泉上町 町営バス温泉津上町バス停前の交差点
 北緯 35° 05' 48. 27" / 東経 132° 21' 04. 90"



単位：cm



碑石 最大幅 70 / 奥行き最大 46
 台石1段目 最大幅 150 / 奥行最大 96
 台石2段目 (ソクリト) 幅 138 / 奥行 130

(調査日 2020年 11月 20日)

みはない。碑石に苔はあるが傷

「調査の経過」
 温泉津温泉の温泉街を海岸側から進むと、町並みが終わる付近の交差点の山側を整備して、地藏と井戸公碑が立っている。約1・5メートルの高さにブロックを積んで広場を作り、階段で上がるようになっていたため、道路から見ると見上げる形になる。「正明井戸君碑」の文字は知恩院の高僧、養鷗徹定(うがいてつじょう)の揮毫。碑石に苔はあるが傷みはない。

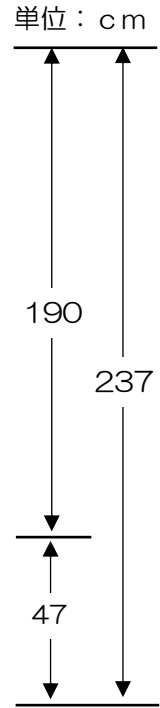
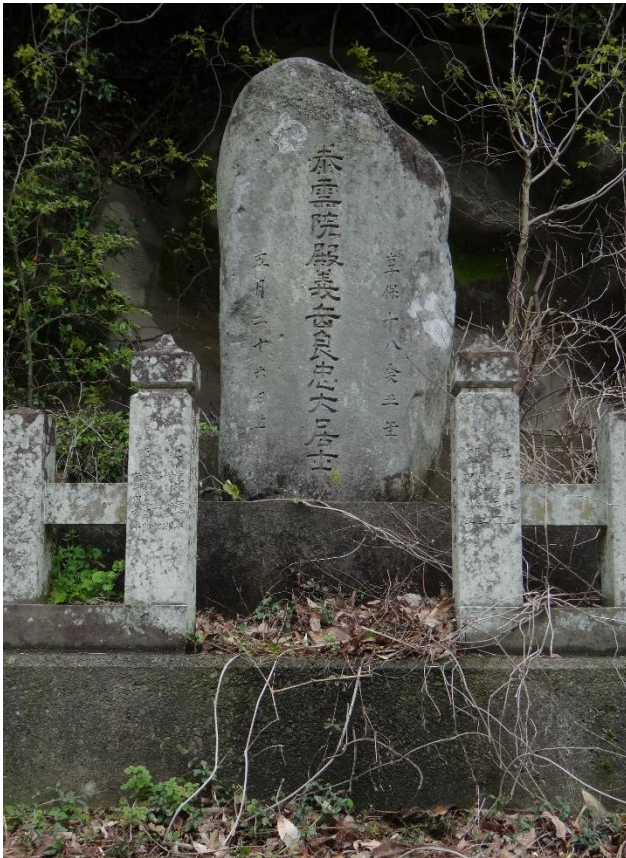
「調査の経過」

「碑石前面」正明井戸君碑 左に「大教正華頂山松翁」(印)「碑石右面」明治十六癸未年五月再建之／福光石工 坪内和七

【建立年】明治 16 年 (1883)
 【建立者】不明



所在地 大田市温泉津町上村 市道福光西田線沿い
北緯 35° 04' 26.71" / 東経 132° 21' 30.23" (国土地理院地図)



碑石 最大幅 101 / 奥行き最大 84
台石 幅 182 / 奥行き 1173

〔調査の経過〕
宮本氏の調査では市役所温泉津支所近くの大賀モータースから上村に向かう道沿いにあるとのことだったがなかったため、温泉津公民館の友村館長に場所を教えていただき現地に。出かけた。同線の改良工事に伴って移転されたようだ。石碑広場のよいうな広い場所に「幽蘭女史松尾米子之碑」「故林崎政子先生追慕碑」の2碑、巨大な石灯籠が並び、井戸公碑には立派な玉垣がめぐらされている。石碑、広場の規模などが大きく、情報量も非常に多い。
(調査日 2020年4月20日)

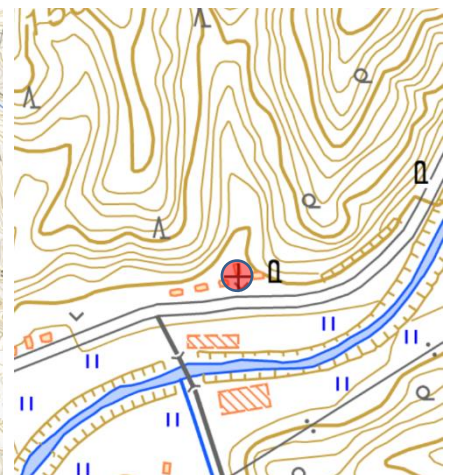
〔建立年〕嘉永7年(1854)
〔建立者〕當上村中

〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠大居士 / 右に「享保十八癸丑年」左に「五月二十六日逝」

〔碑石左面〕井戸明鑑之鴻恩ヲ謝シテ時 / 嘉永七年寅四月建碑之 / 發起者 / 庄屋木島市郎兵衛 / 見習木島栄三郎 / 頭百姓木島吉郎兵衛 / 伊勢七郎平衛 / 見習伊勢助一郎

〔碑石裏面〕爰ニ明治廿四年第四月補工事主唱者 / 木島清之助

〔玉垣記載文字〕次葉に記載。





石碑広場全体



玉垣左側



広場全体（右側から）



玉垣右側

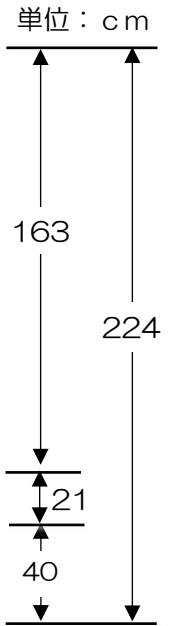
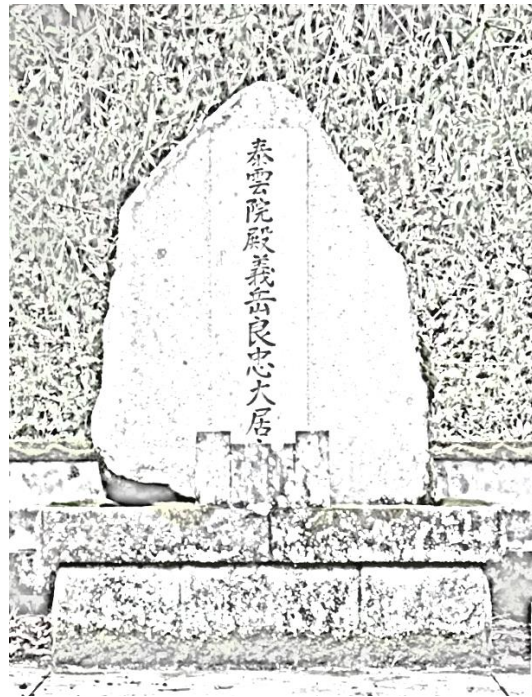
〔玉垣右側〕

當上村中／組頭／平石林平／福富平一郎／原田新平／田儀藤平
盡力者／組頭／松尾佐平太／田儀良平／田儀健助／木島豊兵衛
福光西田線道路改良工事二伴ヒ井戸公碑外移転修復工事 昭和六十三年十二月竣了ス／施主兼修復代表石田豊秋／上村東区長 田中正男／上村西区長 平石秀敏

〔玉垣左側〕

初工ヲ起シタル際細文字彫刻玉垣等ノ工事ヲ終サルヲ以愛ニ明治廿四年四月再工竣了ス
組頭／堂本種平／伊勢彖四郎／石田眞十郎／足利臺四郎／矢研田芳平
再工世話人／坪内與吉／花田源次／大畑玉次郎／山口源市
石工／坪内利平／坪内善八／重田岡平／重田惣七
再工石工／坪内利市／坪内和市

所在地 大田市温泉津町飯原 市道福光西田線沿い
北緯 35° 05' 05.63" / 東経 132° 22' 45.39"



碑石 最大幅 130 / 奥行き最大 48
台石 1 段目 幅 174 / 奥行 112
台石 2 段目 幅 165 / 奥行 100

(調査日 2020年4月20日)

と興味深い。
上村の井戸公碑と比較してみる
派に再建された。
做うように道路工事に伴って立

〔調査の経過〕
上村の石碑から福光西田線を西
田方面に向かうと左側、道路か
ら1段高い場所に3段の石段が
あり、周囲をブロック塀で囲ん
だ中にこの石碑だけがある。立
派なしつらいだ。道路工事が上
村が先に進んだようので、上村に
做うように道路工事に伴って立
派に再建された。

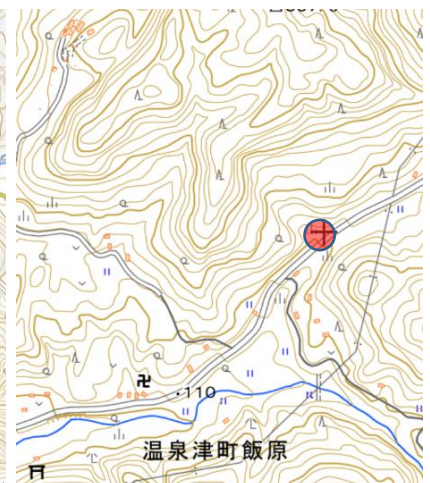
〔周囲のブロック塀の石碑裏〕施
工 青笹組 / 石工 おぎや石材
中祖勉 / 協力 木山組 / 世話人
/ 代表 田中清秋 / 重田明 / 青
笹元

飯原地区中
たものである / 平成八年六月 /
田線工事にもない移転再建し
ケ段地内にあつたものを福光西
公碑は約百メートル西寄りの森
〔周囲のブロック塀前〕この井戸
〔台石〕なし
〔碑石左右・裏面〕なし

〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠大
居士

〔建立者〕飯原地区中

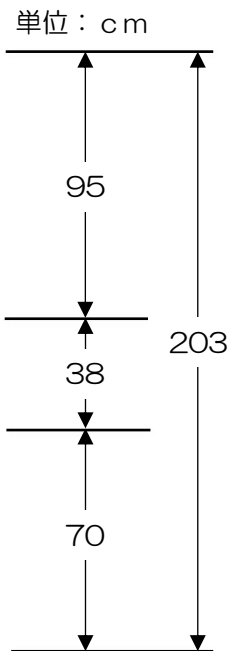
〔建立年〕平成8年(1996)再
建



【76】大田市温泉津町福光 浄光寺 (宮本なし/ロー列-98) 井戸公之碑

所在地 大田市温泉津町福光市 浄光寺墓地入口

北緯35°04'14.86" / 東経132°20'48.66" (国土地理院地図)



碑石最大幅 80 / 奥行最大 36
 台石1段目 最大幅 120 / 奥行最大 78
 台石2段目(ブロック)幅 183 / 奥行 146

(調査日2015年5月5日)

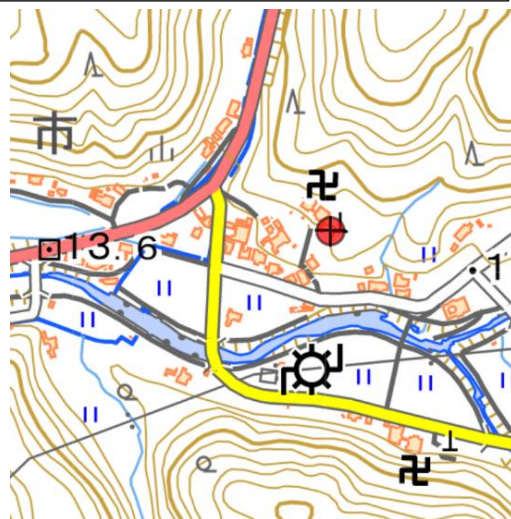
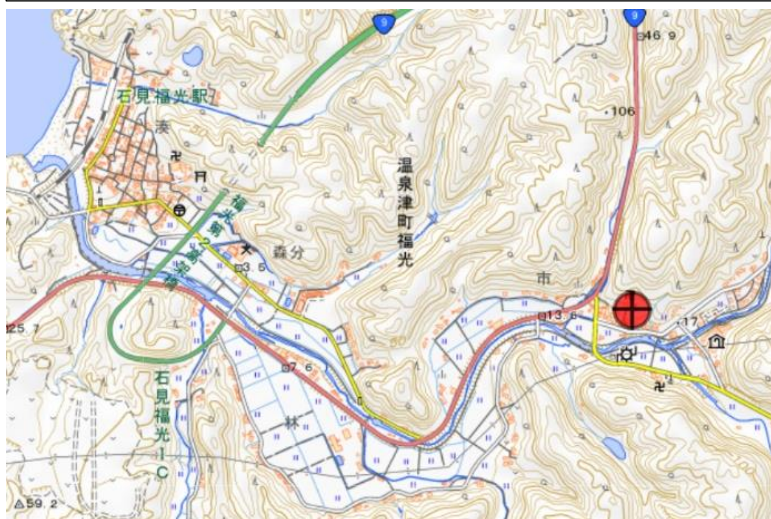
浄光寺本堂の向かって右手に広がる墓地の入り口にある。3段の石組の上に自然石の台石を乗せ、碑石は御影石の前面だけを磨いたもの。昭和59年建立と新しいので、「井戸公之碑」の文字も近代的だ。「滑正」は協賛者とは別の場所に彫られている。石工の名か。

〔調査の経過〕

滑正
トミヨ

2013年の大田市文化協会の井戸公特別展の際に、温泉津町福光の元大田三中校長の福富隆美さんからここにあることを教えていただいた。

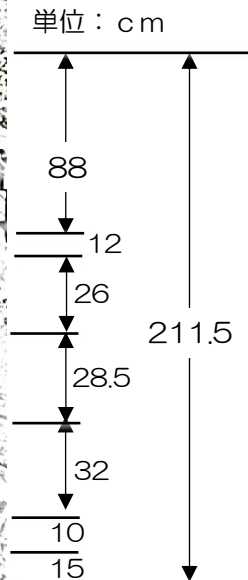
- 〔建立年〕昭和59年(1984)再建
- 〔建立者〕地区内有志
- 〔碑石前面〕井戸公之碑
- 〔碑石裏面〕昭和五十九年秋再建
- ／当山第三十二世／信誉正行代
- 〔台石裏面〕発起人／坪内嘉雄／本田松代／協賛者／大道正信／坪内敬夫／札場実三／坪内善作／坪内良／長畑義徳／田儀善一／平野清市／木村アキヨ／福富トミヨ



【77】 大田市温泉津町福光林 西田氏宅裏 (宮本なし/口-列-99) 井明府之…

所在地 大田市温泉津町福光林 西田義夫氏宅裏

北緯35° 04' 14.86" / 東経132° 20' 48.66" (国土地理院地図)

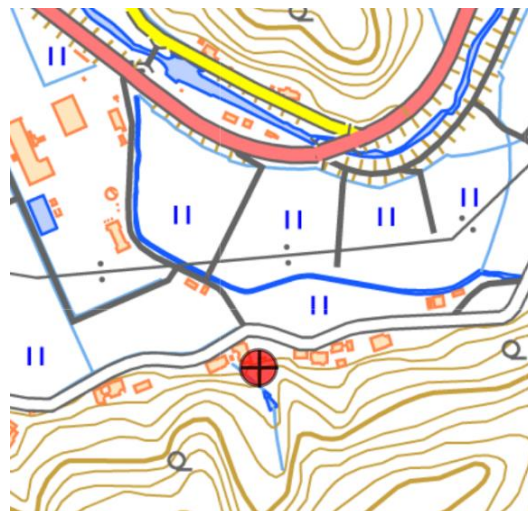
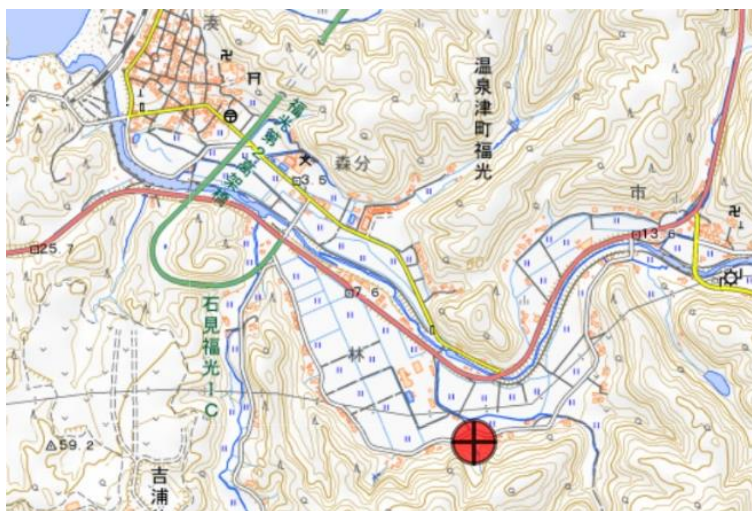


碑石	幅 35	奥行 28
台石 1段目	幅 46	奥行 38
台石 2段目	幅 52	奥行 55
台石 3段目	幅 76	奥行 78
台石 4段目	幅 107	奥行 105
台石 5段目	幅 142	奥行 142

(調査日 2015年5月5日)

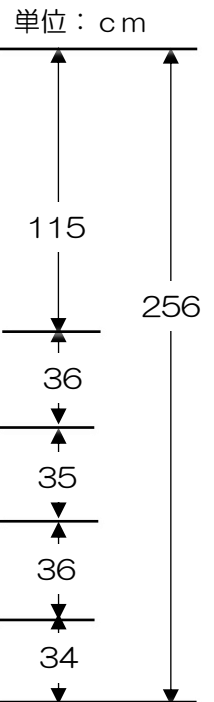
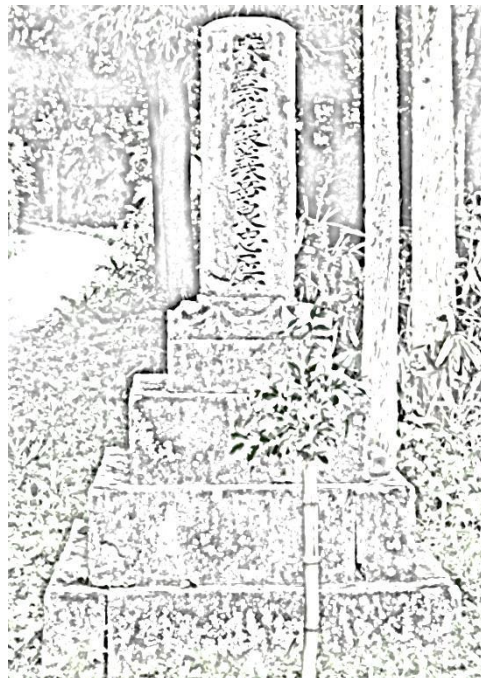
〔調査の経過〕
2013年の特別展のときに温泉津町福光の福富隆美さんが小野兼雄氏宅前にあることを教えてくれた。その石碑は井戸公碑ではないようだったが、2015年5月5日に採寸に訪れたとき、家主の西田義夫さんが新しい家を建てて前日に大阪府からUIターン(夫がIターン)したばかりだった。西田さんに話を聞くと、家の前の碑は家を貸していた小野さんが裏山から持ち込んだもので、何の碑か不明とのこと。家の裏の楞厳寺の末寺龍泉寺の境内跡地に別の碑があるが、と紹介されたのがこの碑だった。碑銘以外には何の刻字もないので、建立者、年代は不明。福光石製で一部剥離している。

〔建立年〕不明
〔建立者〕不明
〔碑石前面〕井明府之…
〔碑石側・裏面〕記載なし
〔台石〕記載なし



【78】大田市温泉津町福光白谷 市道三差路 (宮本なし/碑-100) 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市温泉津町福光 白谷 市道白谷線と同白谷取付線の交差点 (県道 32 から約 100m)
 北緯 35° 03' 14.48" / 東経 132° 20' 49.16"

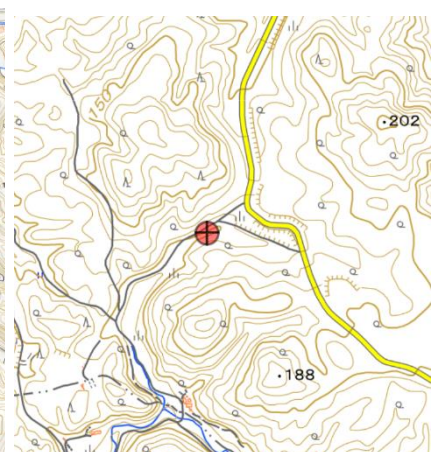
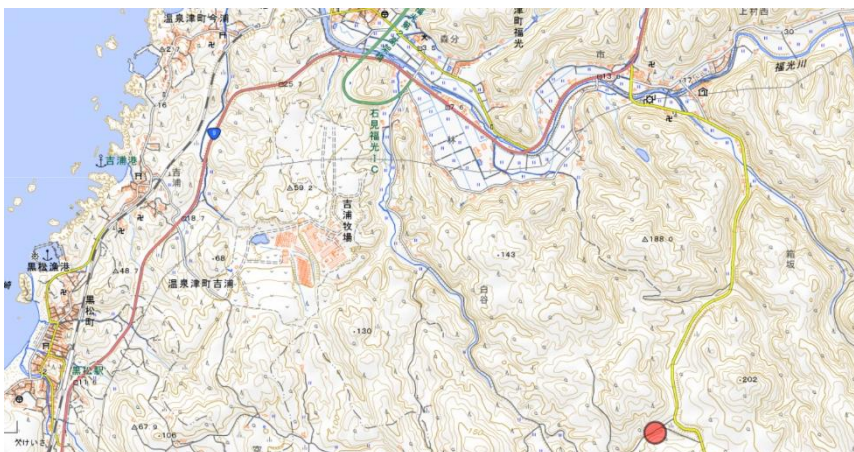


碑石 幅 37.5 奥行 39.5
 台石 1 段目 65 / 奥行 67
 台石 2 段目 96 / 奥行 93
 台石 3 段目 126 / 奥行 125
 台石 4 段目 156 / 奥行 155

(調査日 2013年9月14日)

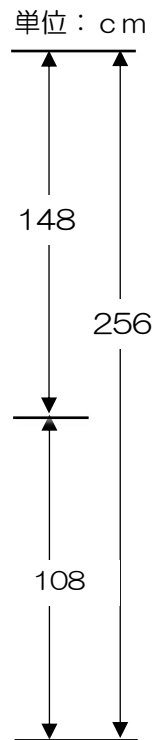
〔調査の経過〕
 2013年の特別展のときに温泉津町福光の福富隆美さんがここにあることを教えてくれた。碑文を読むと井戸公没後50年を記念して建てたとあるが、没後50年は1783年であり、1868年は135年後に当たるので、再建かもしれない。市道の三差路が平らに整地され、4段の台石を積み端正な碑だが、福光石のため剥離が始まっており、最初の調査日以降、訪ねるたびに文字が読めなくなっている。

〔建立年〕慶応4年(1868)
 〔建立者〕上組中
 〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士
 〔碑石右面〕享保十八癸丑年/五月廿六日
 〔碑石左面〕井戸君平左衛門諱正明
 /原卒去後五拾回當福光中依
 恩澤百姓始建是本願今茲慶/應
 四戊辰三月上組新建立之
 〔二段目台石前面〕上組中



【79】大田市温泉津町福光 福光八幡宮 (宮本 温 00/□-列-91) **井戸神社**

所在地 大田市温泉津町福光 福光八幡宮 拝殿左手
 北緯 35° 04' 28.23" / 東経 132° 19' 54.01"



祠 最大幅 125 / 奥行き最大 115
 台石 (石組) 最大幅 141 / 奥行最大 135

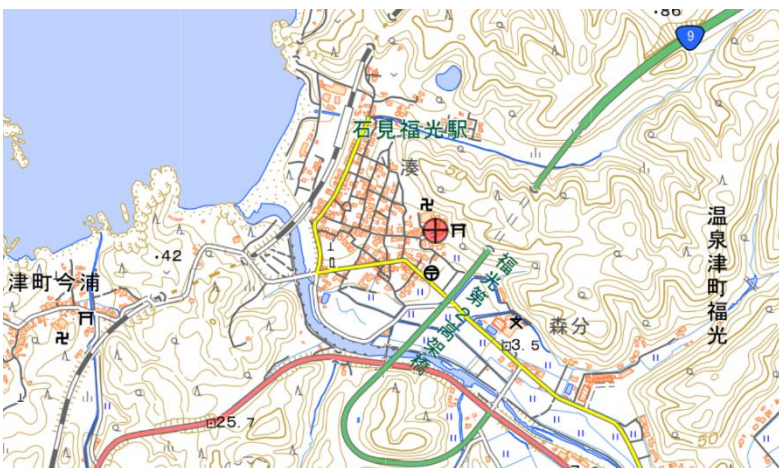
〔調査の経過〕
 福光八幡宮の拝殿に向かって左側に2つの祠があり、その左側。「井戸神社」と書いてあると思われるが、現在は「井」だけがはっきり読み取れる。神社の案内板に境内社として「井戸神社」の文字がある。

〔建立年〕不明
 〔建立者〕不明

〔祠前面〕井□□□ (井戸神社)

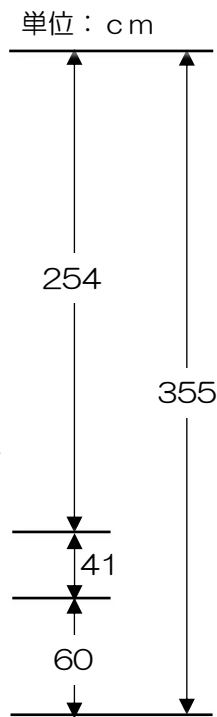
石村勝郎氏の「いも神さま 井戸平左衛門 石見銀山代官」には、「明治時代に郡長が戸長(村長)を集めて、『小地区内ごとに井戸神社を祭るように』と指示があった」と書かれており、それを受けて、福光八幡宮や太田八幡宮などに井戸神社があるのだろうか。

(調査日 2020年11月11日)
 (写真 2011年2月10日)



【80】大田市温泉津町福光湊西 (宮本 温 09/ロ-列-93) **井戸公頌徳碑**

所在地 大田市温泉津町福光湊西 県道203号沿い
 北緯35°04'41.80" / 東経132°19'73.60"



碑石 最大幅 81 奥行最大 48
 台石1段目幅 134 / 奥行 55
 台石2段目(石組) 幅 151 / 奥行 117

(調査日 2020年4月22日)

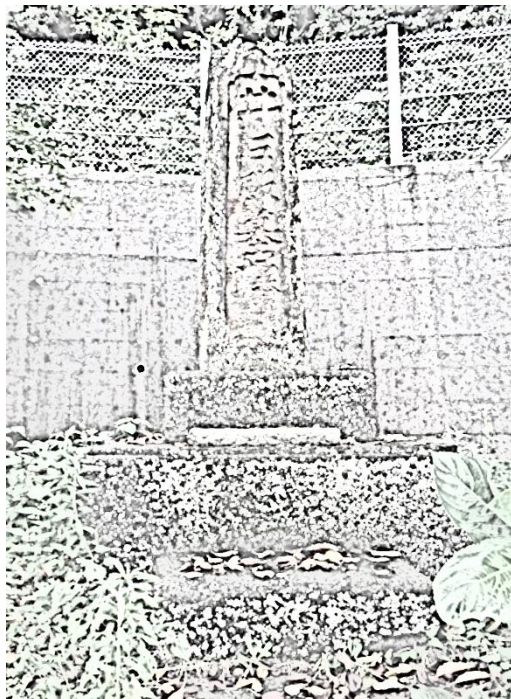
【建立年】昭和26年(1951)
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸公頌徳碑
 【碑石裏面】昭和二十六年十月建之

〔調査の経過〕
 福光の中心街の家並みの外れ、県道203号沿い北側に、民家と並んで公園のようにしつらえ、数段の階段を上がって行くようになっている。碑石は254センチ、最大幅81センチもある御影石風の艶のある堅い自然石。碑石だけの大きさでは大田市で最大のもの。自然石の台石1段目の下にはきちんと石を組んだ2段の石組がある、とても立派な碑だ。総高さは355センチもある。ただ、建立年はあるものの(再建か?) 建立者の名などが彫ってなく情報が少ないのが残念だ。

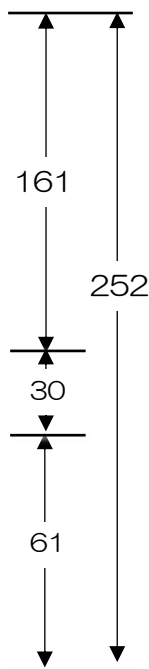


【81】大田市温泉津町福光釜野 (宮本 温 10/㍻-列-94) 井戸殿墓口

所在地 大田市温泉津町福波 市道沿い
 北緯 35° 04' 46.42" / 東経 132° 19' 43.98"



単位：cm

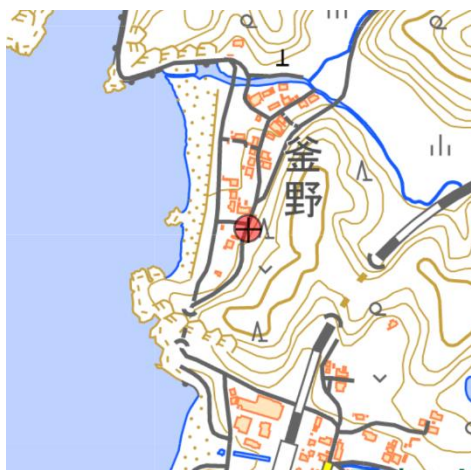
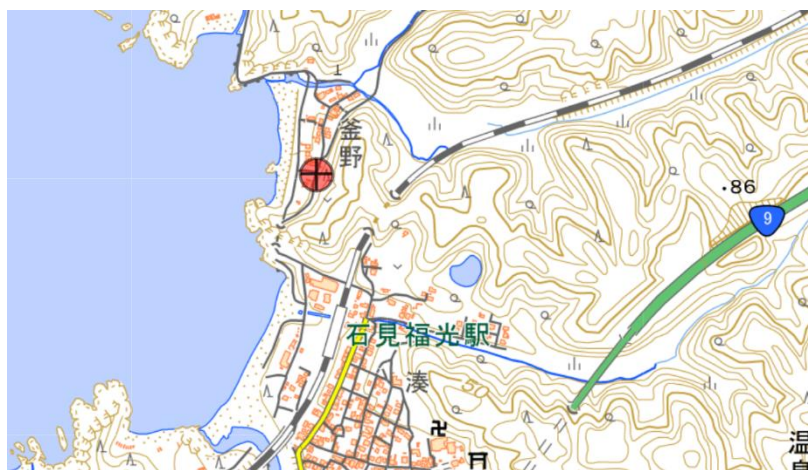


碑石 最大幅 43 / 奥行き最大 40
 台石 1 段目幅 87 / 奥行 87
 台石 2 段目幅 147 / 奥行 147

〔調査の経過〕
 碑は道路わきの地藏堂の横の 10 段の石段を上がっていく場所に、この石碑を設置するために設けられたと思われる場所に建っている。碑の左右に桜の木が 1 本ずつ植えられている。近くに鉄道のトンネル工事をする際に、擁壁をしてここに移動したか、碑の前の道路工事の際に移動してきたのかもしれない。石段と擁壁に囲まれているが、木々にも覆われていて、割と湿気の多そうな場所。碑石は自然石だが比較的軟らかく、「井戸殿墓」の下の文字が痩せて読めない。台石はていねいなもので 1 段目の前と、2 段目の前に石板が置かれている。
 すぐ近く(南側)に松浦屋与兵衛の説明板がある。

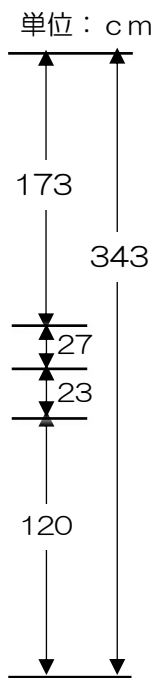
〔建立年〕不明
 〔建立者〕不明
 〔碑石前面〕井戸殿墓口 (「塔」か?)

(調査日 2020 年 11 月 11 日)



【82】大田市温泉津町今浦 (宮本 温 11/ロ-列-90) 井戸公頌徳碑

所在地 大田市温泉津町今浦 県道203号沿い
 北緯35°04'11.32" / 東経132°19'08.77"



碑石最大幅 60 / 奥行最大 38
 1 段目台石最大幅 119 / 奥行最大 67
 2 段目台石幅 139 / 奥行 95
 3 段目台石 (ジョイント) 最大幅 224 / 奥行最大 173

(調査日 2020年11月11日)

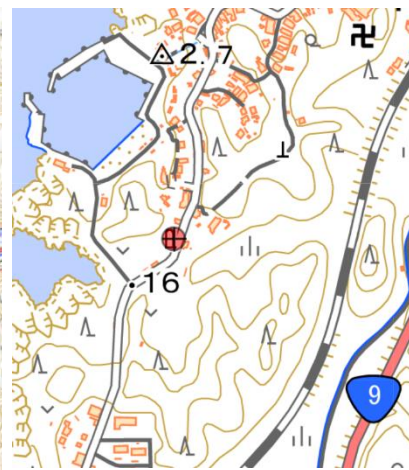
近所の方に聞くと、旧碑が折れたため再建したと言ひ、盆前には草刈りと掃除をしているという。碑の後ろに旧碑が寝かされておひ「井戸平左衛門尉」などの文字が読める

〔調査の経過〕
 福波まちづくりセンターから吉浦に向かう海岸通り、県道203号の道路沿いにある。石段を6段上がった場所に広場を整備し、忠魂碑と並んで建っている。ブロック製の玉垣もあり、道路から積んだ石の一部に「福光村石工／坪内平作」とある。碑は昭和45年建立と新しく、しっかりと造りに見える。3段目の台石はコンクリート製だと思われるが、いかにも石を積んだようないないな造り。1段目の台石も海岸部らしく海石が使われている。

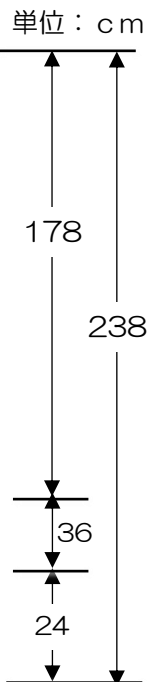
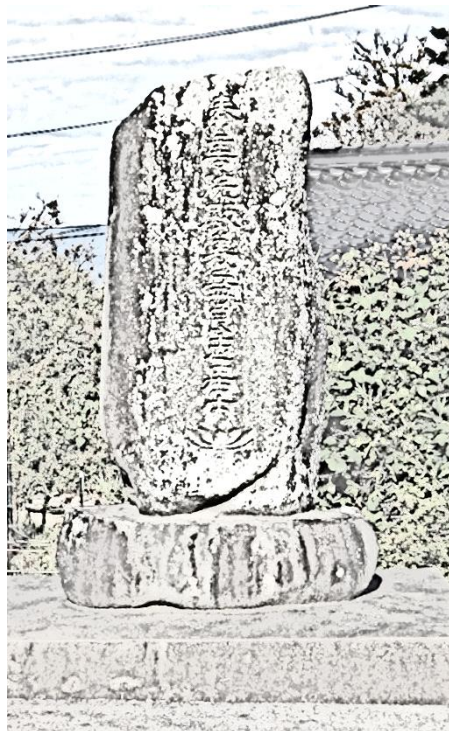
〔調査の経過〕

〔碑石前面〕 井戸公頌徳碑
 〔碑石裏面〕 昭和四十五年五月二十六日再建 / 今浦浦会

〔建立年〕 昭和45年(1970)再建
 〔建立者〕 今浦浦会



所在地 大田市温泉津町吉浦 敬願寺前県道203号海側
 北緯35°03'50.41" / 東経132°18'57.55"



碑石最大幅 90 / 奥行き最大 32
 台石1段目最大幅 134 / 奥行最大 64
 台石2段目(ジョイント)最大幅 197 / 奥行最大 158

(調査日 2020年11月11日)

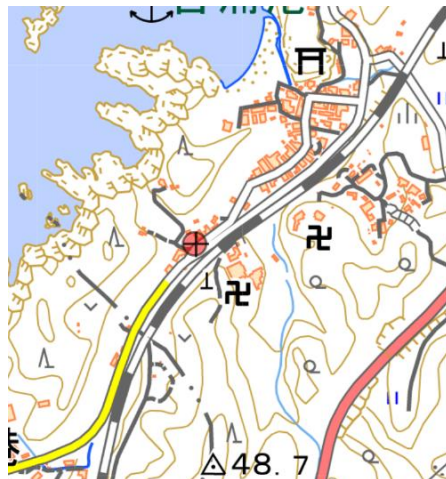
がうかがえる。
 井戸公に対する思いが強いこと
 立っており、地域の皆さんの
 今浦、湊西と3基の碑が続い
 碑の前の県道203号の延長に
 全く彫られていないのが残念。
 が、建立者、建立年などの情報
 もあしらった堂々とした碑だ
 文字が彫られ、その下に蓮の花
 た自然石に隷書で「泰雲院」の
 公碑ということだ。どっしりとし
 っているという。江津市内に立
 る。以前地元の方に聞いたとこ
 の広場にこの碑だけが立ってい
 として整備されたコンクリート
 神社の神輿が休憩する「御幸所」
 海側に立つ。大田市最西端の碑
 がありその前の県道203号の
 吉浦の敬願寺の前にJRの線路

〔調査の経過〕

〔その他〕刻字なし

〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士(蓮の花)

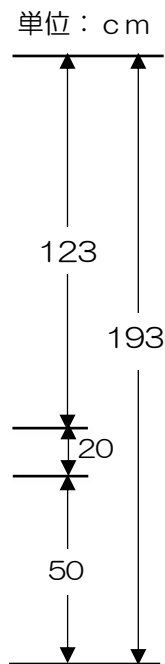
〔建立年〕不明
 〔建立者〕不明



【84】大田市温泉津町井田元井田 (宮本 温 17/ロータリ- 89) **井戸公之碑**

所在地 大田市温泉津町井田元井田 道路沿いの法面

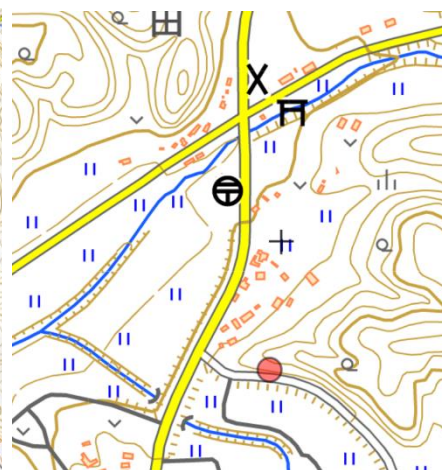
北緯 35° 02' 32.52" / 東経 132° 21' 56.73" (国土地理院)



碑石最大幅 47 / 奥行最大 44
 台石1段目 幅 75 / 奥行 65
 台石2段目 幅 125 / 奥行不明

(調査日 2020年 11月 11日)

【建立年】大正15年(1926)再建
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸公之碑
 【碑石右面】享保十八年五月廿六日卒去
 【碑石左面】大正十五年八月再建
 【調査の経過】
 主要地方道温泉津川本線(県道32)から市道を少し入った場所。法面には崩落防止の金網が張っているが、その一部を平らに加工し、この碑だけが建っている。草に覆われてしまいそうな場所だが、いつ行っても碑の周囲だけはきれいに手入れがされている。旧碑の部分と思われる石材が碑の後ろに置いてある。碑の前には田んぼが広がっており、井戸公が農作業を見守り豊作を願っているような位置関係だ。

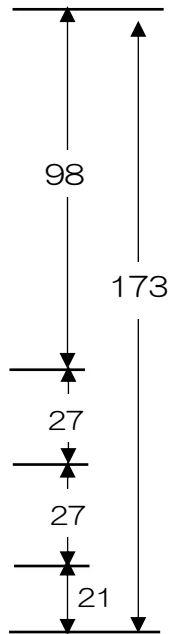


所在地 大田市温泉津町井田津渕 県道32号沿い（JAライスセンター下）

北緯35° 02' 05.43" / 東経132° 22' 38.52"



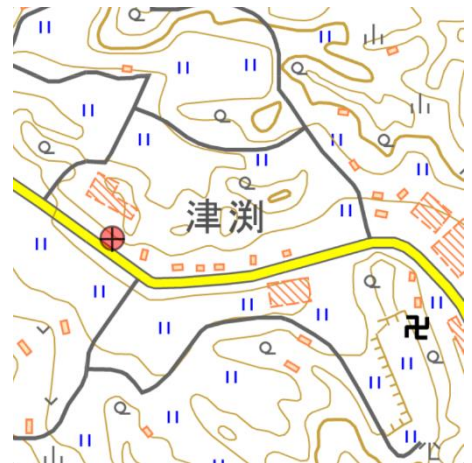
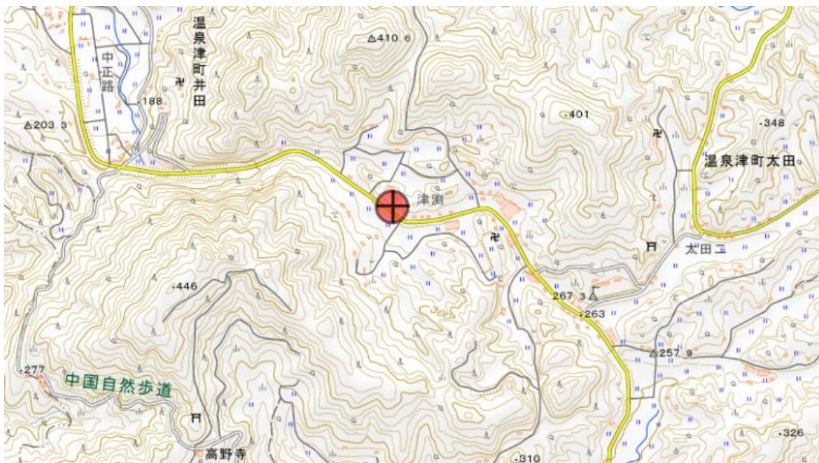
単位：cm



碑石幅 35 / 奥行き 35
 台石1段目 幅 56 / 奥行 57
 台石2段目 幅 80 / 奥行 80
 台石2段目 幅 105 / 奥行 110

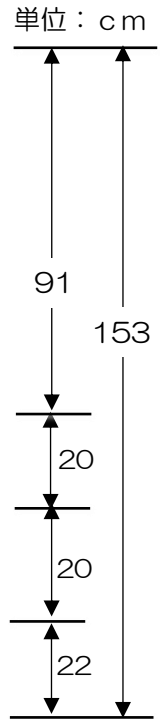
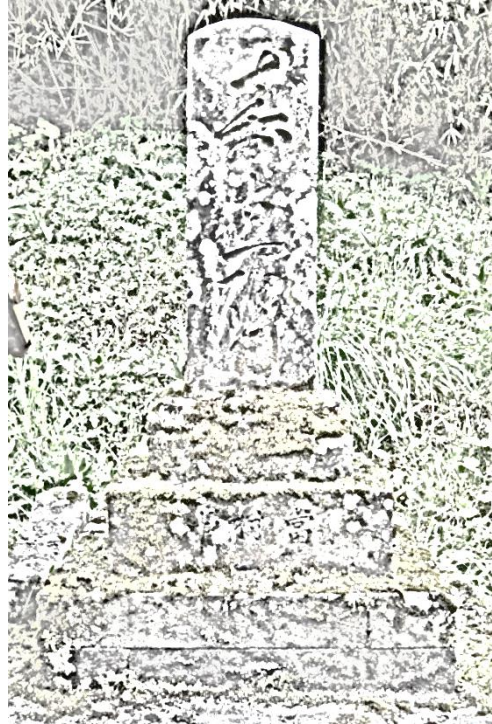
（調査日2020年11月11日）

【建立年】不明
 【建立者】當邑中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八癸丑五月二十六日
 【碑石左面】井戸平左衛門正明
 【二段目台石前面】當邑中
 【二段目台石左面】世話人 / 新七 / 安平
 【調査の経過】
 主要地方道温泉津川本線（県道32）沿いの北側の高手約2メートルの場所を平らにし、この碑だけが建っている。この碑の後ろには地域の方の墓地がある。碑は福光石でかなり剥落が進んでいる。世話人の名に姓がないことから江戸時代の建立だろう。台石2段目「當邑中」の文字はかなり大きな文字で、石碑建立を実現させた当時の皆さんの意気込みが感じられる。



【86】大田市温泉津町井田井尻 高野寺下（宮本 温 20/ㄇ-列-86） 寿真碑

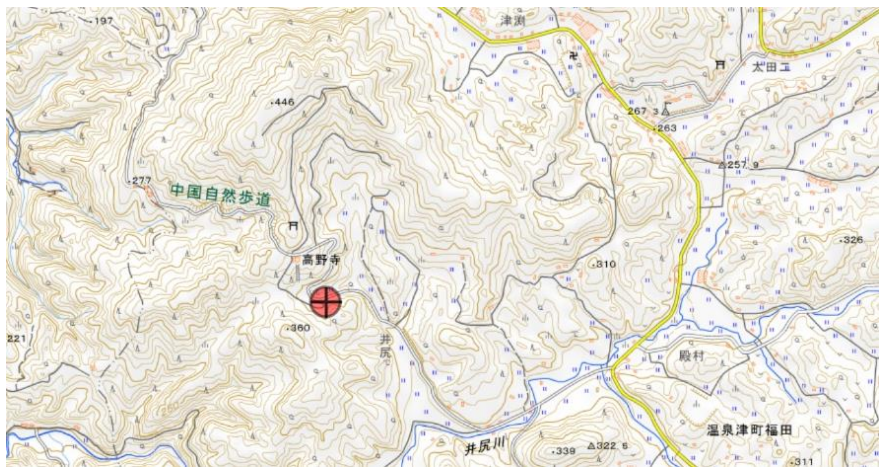
所在地 大田市温泉津町井田 高野寺参道階段手前の道路沿い 地藏堂横
 北緯35° 01' 30.75" / 東経132° 22' 14.60"



碑石 幅31 / 奥行30
 台石1段目 幅47 / 奥行47
 台石2段目 幅65 / 奥行61
 台石3段目 幅91 / 奥行90

〔建立年〕不明
 〔建立者〕當村中
 〔碑石前面〕寿真碑
 〔碑石右面〕享保十八年 / 五月廿六日
 〔碑石左面〕井戸平左衛門正明
 〔碑石裏面〕なし
 〔二段目台石前正面〕當村中
 〔二段目台石左面〕発起人 / 田仲彦太郎 / 重富繁太郎 / 石戸徳市 / 渡邊種市
 〔二段目台石裏面〕金一円高野寺 / 同五十銭涅槃寺 / 同全田中庄太郎 / 同四十五銭田中久吉 / 同全渡邊綱田良 / 同全重富繁太郎 / 同四十銭石戸徳市 / 同廿六銭山中文吉 / 同廿五銭山中原吉 / 同廿三銭花田庄太良 / 同全松原房太良 / 同全森川元三良 / 同全桜木新吉 / 同全福田コト
 〔二段目台石右面〕同老円三十二銭五厘三十名 / 石工 / 坪内小十郎作

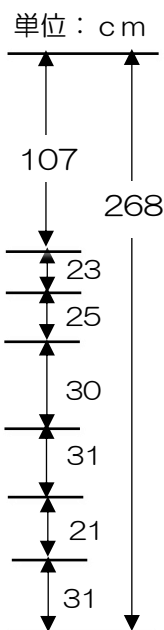
〔調査の経過〕
 道路から一段高い場所に地藏堂と並んで立っている。福光石で傷みはそうないが、苔が多く、ブラシで苔を取りながら判読しているのが珍しく興味深い。
 (調査日2020年4月20日)



井戸正明碑

所在地 大田市温泉津町殿村 市道沿い

北緯 35° 01' 25.53" / 東経 132° 22' 59.45"

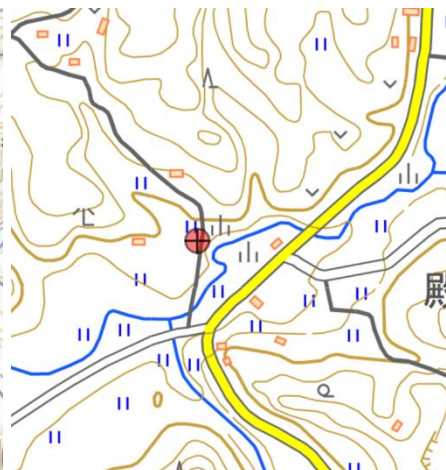


碑石幅	37	奥行き	38
台石1段目	幅 59	奥行	58
台石2段目	幅 80	奥行	80
台石3段目	幅 103	奥行	101
台石4段目	幅 137	奥行	138
台石5段目	幅 170	奥行	171
台石6段目	幅 219	奥行	220

(調査日 2020年11月11日)

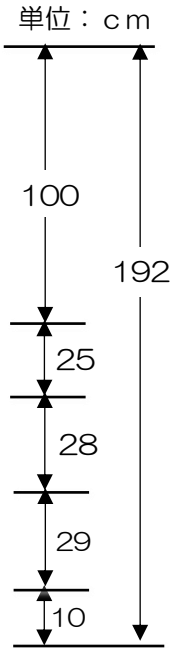
〔調査の経過〕
 主要地方道温泉津川本線（県道32）の殿村から右折して高野寺に向かう道をさらに右折してすぐの坂道沿いに地藏堂と並んで建っている。台石を6段も積んだ迫力のある碑で、殿村の皆さんの意気込みが感じられる。福光石はかなり傷みがあり、ひび割れや剥落がある。台石のゆがみも見える。碑の後ろには桜の木が1本植えられている。台石2段目と3段目に盃状穴がある。

〔建立年〕 不明
 〔建立者〕 元殿村中
 〔碑石前面〕 井戸正明碑
 〔碑石右面〕 享保十八年五月廿六日
 〔二段目台石前面〕 元殿村中
 〔二段目台石左面〕 □話人／池野善四郎／川村権吉／川平□治／福光石工／山中清七



【88】大田市温泉津町井田福田 願林寺向い (宮本 温 23/㊦-㊦-85) **嘉惠碑**

所在地 大田市温泉津町井田福田 願林寺下県道 32 号北側 地藏堂隣
 北緯 35° 00' 58. 80" / 東経 132° 23' 35. 17"

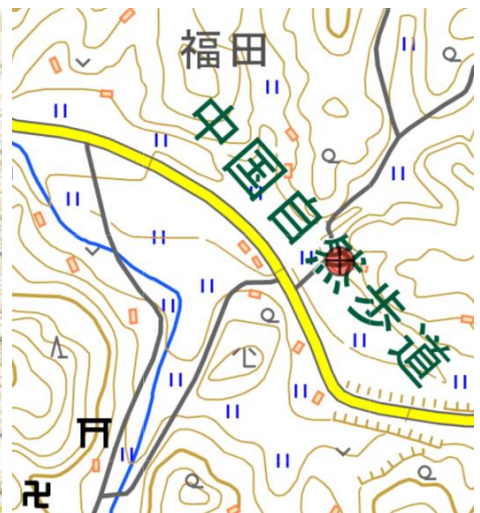
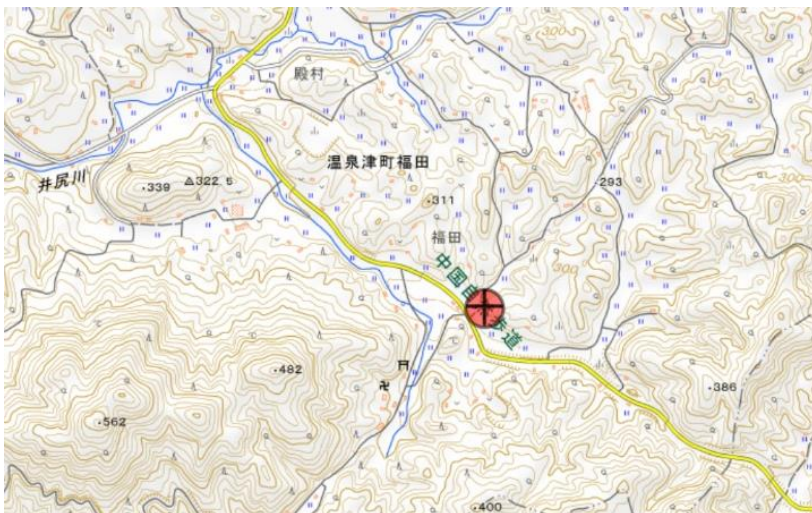


碑石 幅 33 / 奥行 32
 台石 1 段目 幅 55 / 奥行 55
 台石 2 段目 幅 74 / 奥行 75
 台石 3 段目 幅 105 / 奥行 105
 台石 4 段目 幅 140 / 奥行 138

〔調査の経過〕
 高野寺から県道 32 号を川本方面に進み、ほとんど川本町境。石碑のたはずまいといい、3 文字の碑銘といい、高野寺下の「寿真碑」とよく似ている。ただ、寄付者の名前などの情報はない。こちらも地藏堂の横にあり、しかもどちらの地藏堂も最近改築されていることも共通している。色が黒ずんでいてわかりにくい。が福光石のような石。苔はあるがあまり傷んではいない。台石 4 段目は宮本調査では高さ 32 ㎝とあるので、後日コンクリートが巻かれたのだろう。

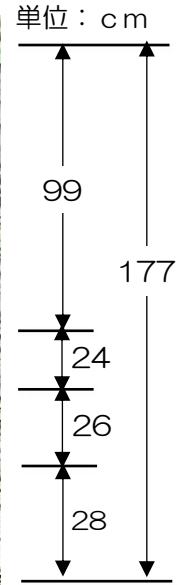
〔建立年〕不明
 〔建立者〕當村中
 〔碑石前面〕嘉惠碑
 〔碑石右面〕享保十八癸丑年 / 五月二十六日
 〔碑石左面〕井戸平左衛門正明
 〔台石二段目正面〕當村中

(調査日 2020 年 4 月 20 日)



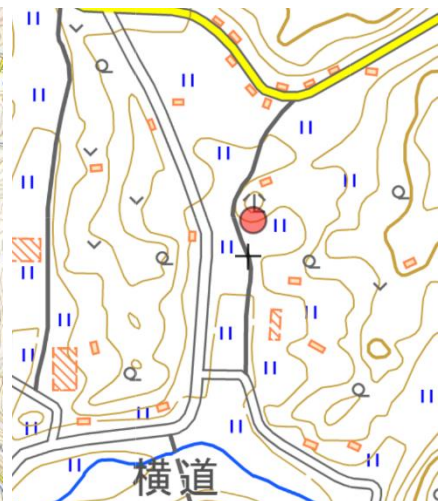
【89】大田市温泉津町井田横道（宮本 温 14/㊦-㊦-87） 井明府之碑

所在地 大田市温泉津町井田横道 横道集落センターの裏の法面下
北緯 35° 01' 47.85" / 東経 132° 24' 01.77"



碑石 幅 33 / 奥行き 32
台石 1 段目 幅 55 / 奥行 55
台石 2 段目 幅 74 / 奥行 75
台石 3 段目 幅 105 / 奥行 105

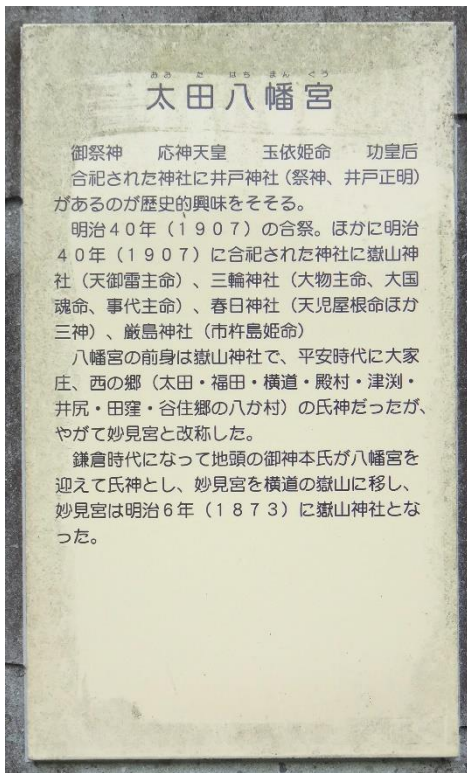
【建立年】安政2年（1855）
【建立者】當村中
【碑石前面】井明府之碑
【碑石右面】安政二乙卯歲冬十月建之
【碑石左面】碑文「恭惟井戸正明君 徳性温厚而仁愛洽於洲邦合 / 民 教植蕃薯芋故從□□高諭而後□ 歲植之明 / 蔓繁殖諸民共食之而 凌飢渴者居多也無嗚呼 / 正明君 之為偉□哉無□□其澤者故諸民 欽 / □無彊依而建碑以長感□其 恩徳云爾」
【二段目台石前面】當村中
【同左面】庄屋 / 平治衛門 / 頭百 姓 / 清右衛門 / 同 / 力蔵 / 世話 人 / 會蔵 / 平一郎 / 除平
【同右面】石工 / 平□□エ
【調査の経過】
横道集落センターの裏手の里道 の辻に、戦没軍人の碑、阿弥陀仏 の碑に挟まれて立つ。すぐ近く に地藏堂がある。大きな碑では ないが、建立年、建立団体名、関 係者名のほか、長文の碑文もあ り、格調高い。碑文は石が痩せて 読めない文字もある。3段目の 台石の前の部分が倒れており、 台石が周囲しかないという構造 がよくわかる。
（調査日 2020年5月25日）



【90】大田市温泉津町井田太田 太田八幡宮（宮本 温 00/ロータリ- 88） 井戸神社

所在地 大田市温泉津町井田太田 太田八幡宮（合祀）

北緯 35° 01' 59.90"
東経 132° 23' 16.58"（国土地理院）

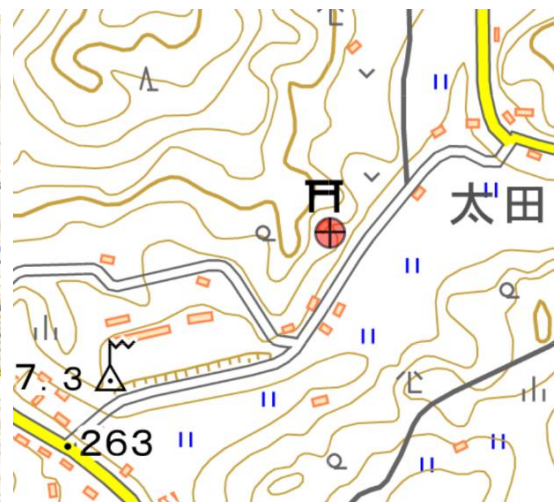


太田八幡宮（写真上）と
階段下にある、温泉津町が設置した説明板（写真左）

〔調査の経過〕
階段下に設置された説明板には「御祭神 応神天皇 玉依姫命 功皇后合祀された神社に井戸神社（祭神、井戸正明）があるのが歴史的興味をそそる。明治40年（1907）の合祀」とある。井戸神社の祠はない。
現在の宮司は大田市大代町の石清水八幡宮の藤田薫卿宮司が兼務しているが、途中から兼務したためか、井戸神社が合祀されていることをご存じなかった。
神社の祭事にも井戸公に関するものはないようだ、

【建立年】明治40年（1907）合祀
【建立者】太田八幡宮

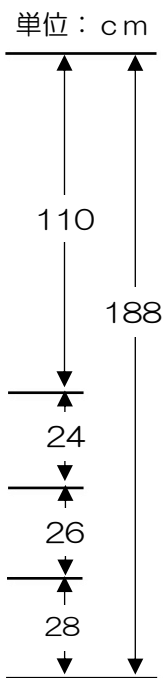
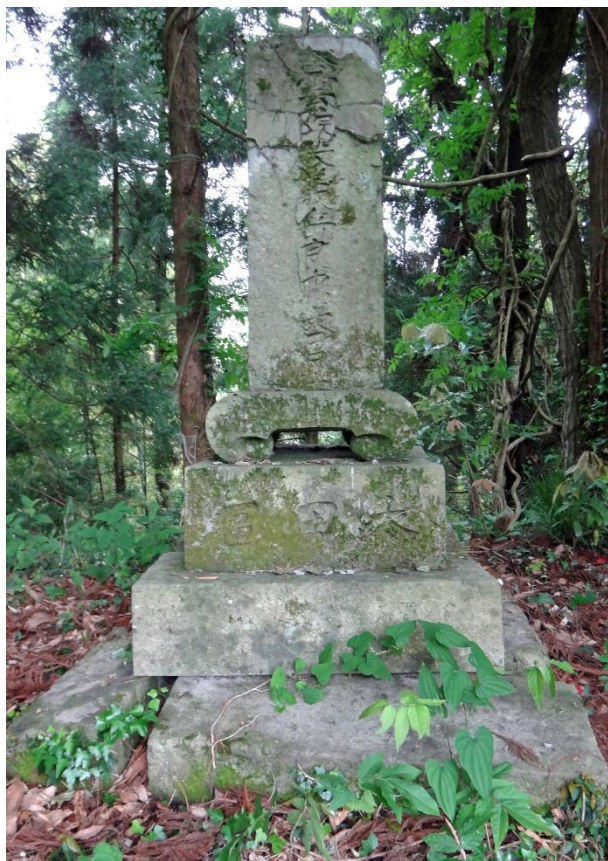
（調査日 2020年5月25日）



【91】大田市温泉津町井田太田 市道沿い (宮本 温 15/ロ-列-82) 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市温泉津町井田太田 市道沿い

北緯35° 02' 01.90" / 東経132° 23' 37.20"



碑石 幅 34 / 奥行 28
 台石1段目 幅 60 / 奥行 61
 台石2段目 幅 79 / 奥行 79
 台石3段目 幅 108 / 奥行 120

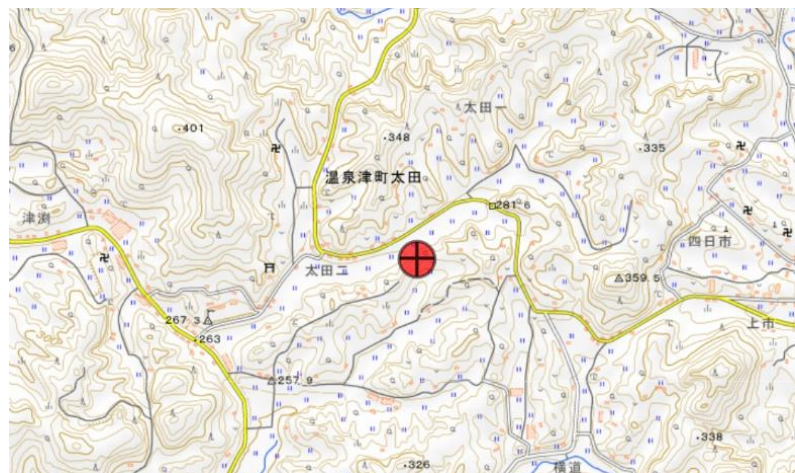
〔調査の経過〕
 市道脇の木に囲まれた場所があり、一部剥落しているが、台石に彫られた人名ははっきり読める。世話人に苗字がないことや役人の名があるので、再建は二度目かもしれない。
 (調査日2020年5月25日)

〔建立年〕昭和5年(1930)再建
 〔建立者〕太田區

〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠大居士
 〔碑石右面〕享保十八年五月二十六日
 〔碑石左面〕井戸平左衛門正朋
 〔碑石裏面〕昭和五年十月再建
 〔一段目台石前面〕太田區

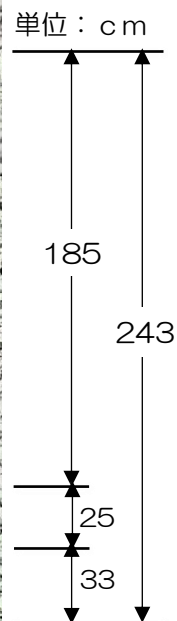
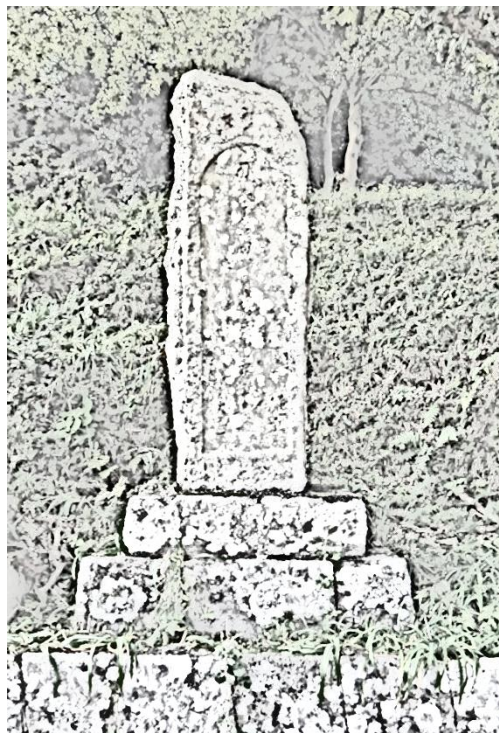
〔同左面〕再建発起者/重田為市/萩本政太郎/森田春市/寄附者芳名/イロハ順/花田辰太郎/埴阿一/長尾仟/小川真/岩倉又市/板倉円吉/花田弥吉/花田時太郎
 〔同裏面〕萩本伊吉/萩本與吉/萩本晴信/埴作市/竹崎文吉/長尾正樹/室田仁太郎/柳井流情/榎進吉/畦田善作/坂根賢/坂井政知/水黒幾太郎/澄田松市/萩本政行/重田貢/森田春市

〔同右面〕役人/新右衛門/只右衛門/勝右衛門/世話人/平助/幾七/伊之吉/再建発起者/水黒幾太郎/萩本友市/萩本安二/木村清太郎/板倉円吉



所在地 大田市温泉津町井田菰口 荻村集会所前

北緯 35° 03' 40.38" / 東経 132° 23' 53.81"



碑石最大幅 60 / 奥行最大 49
 台石1段目 幅 92 / 奥行 90
 台石2段目 幅 127 / 奥行 122

【建立年】不明
 【建立者】荻邑

「碑石前面」泰雲院殿義岳良忠居士（蓮の花） / 右側に「享保十八癸丑歳 / 施主」左側に「五月二十六日 / 荻邑」ほかに文字はなし

【調査の経過】

荻村集会所の前の道路沿いに石積み3段の約1畧の高さに広場を作り、他の石碑、石灯籠などが並べられたうちの中央に位置する。建立年は彫っていないが、ほかの石碑に「明治三十八年」があったり、隣にある石灯籠には「大正五年」とあるので、明治後期から大正時代にかけて建立されたのだろう。石碑は白っぽく、そう堅そうには見えない自然石だが、傷みはない。石碑そのものも大きい部類だし、飾り野や法名の下に蓮の花をあしらうなど、ていねいな造りだ。道路から約1畧の高さに並ぶ8基の石碑群はかなり存在感がある。

（調査日 2020年 11月 11日）

